

MieMu

みえむ

2014

三重県総合博物館 年報

Mie Prefectural Museum Annual Report

通卷

1

号

三重県総合博物館

MieMu: Mie Prefectural Museum, Japan

ごあいさつ

三重県総合博物館 MieMu(みえむ)は平成26年4月19日に開館いたしました。その前身にあたる三重県立博物館は、日本の博物館の指針となった博物館法が公布された直後の昭和28年に開館した歴史ある博物館です。そして数回あったリニューアル計画のための議論の積み重ねを背景に持ちながら、平成19年7月に新博物館整備のための担当組織が発足し、7年の準備期間を経て誕生しました。

この新しい博物館は、60年を超える旧三重県立博物館の情報や資料の蓄積と、関わっていただいた多くの人々のネットワークを引き継ぎ、三重の自然と歴史・文化に関する大切な資産を保全・継承していくことはもちろんのこと、次代を担う子どもたちをはじめ、県民のみなさんや利用者の方々の学びと交流の場となり、郷土への愛着や誇りを感じることができるよう、人づくり、地域づくりに貢献できる博物館を目指します。そして、その使命を達成するため、「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動の理念と位置づけ、県民のみなさんや利用者の方々との協創や、多様な主体との連携による博物館づくりを大切にまいります。

ここに、三重県総合博物館 MieMu(みえむ)の開館に向けた取り組みと平成26年度の事業概要を取りまとめて、平成26年度の年報として発刊いたします。これまで、さまざまな面から支えてくださったみなさまに深く感謝を申し上げますとともに、新しく歩み出したMieMuへの一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成28年3月

三重県総合博物館 MieMu(みえむ)

館長 布谷 知夫

MieMuとは・・・

「三重」の「ミュージアム」を表現しているとともに、“みえむ”という音は“三重の夢”に通じ、三重への愛着や誇りを持ち、未来への夢を持てるような博物館になりたいという思いを表現しています。



目 次

ごあいさつ	1	4.4 三重の実物図鑑	61
目次	2	4.5 オオサンショウウオ生態展示	63
I 博物館の概要	3	4.6 学習交流スペース展示等	63
1 使命と理念	3	4.7 三重を知る1,000冊	64
2 ビジョンと戦略目標・戦術	4	4.8 野外展示	64
3 沿革と整備の経緯	5	4.9 移動展示	65
3.1 沿革	5	5 交流創造活動事業	66
3.2 整備体制	6	5.1 事業の趣旨・目的	66
3.3 文化審議会への諮問と答申	7	5.2 閲覧レファレンス活動事業	66
3.4 基本構想	8	5.2.1 レファレンス事業	66
3.5 基本計画	9	5.2.2 資料利用(閲覧・特別利用)	66
3.6 事業実施方針	11	5.3 学習支援活動事業	70
3.7 3方向7項目	11	5.3.1 講座	70
3.8 経営向上懇話会	12	5.3.2 フィールドワーク	73
3.9 施設等の整備	13	5.3.3 学習支援冊子・マップ	73
3.10 資料等の移転	16	5.3.4 人材育成支援活動	74
3.11 広報・各種事業	16	5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業	74
3.12 県民・利用者との意見交換	22	5.4.1 学校	75
3.13 大学との連携協定	26	5.4.2 大学	76
3.14 企業との連携	28	5.4.3 博物館	78
3.15 活動と運営のまとめ	29	5.4.4 文化交流ゾーン	81
4 開館に向けた取組	29	5.4.5 国縣市町など	82
4.1 MMMプロジェクト (みえ マイ ミュージアム プロジェクト)	29	5.4.6 その他の諸機関・諸団体	83
4.2 館長出張講演会	31	5.5 他機関・団体への協力(職員の諸団体への 協力活動)	85
4.3 開館1年前イベント	31	5.5.1 委員、講師等の依頼	85
4.4 開館前行事と来館者向け印刷物	31	6 企業との連携	90
4.5 内覧会	32	6.1 事業の趣旨・目的	90
4.6 開館記念式典	32	6.2 パートナー企業数	90
4.7 オープニングセレモニー	33	6.3 連携事業	90
5 施設概要	33	7 利用者との協創	91
II 平成26年度の取組概要	37	7.1 事業の趣旨	91
1 運営管理	37	7.2 三重県総合博物館ミュージアム・パート ナー	91
1.1 事業体系	37	7.3 ボランティア	94
1.2 組織体制	37	8 広報	95
1.3 運営状況	38	8.1 開館PR公式ポスター	95
1.4 利用者数	38	8.2 新聞・テレビ・ラジオ	96
1.5 歳入歳出決算	39	8.3 雑誌	96
1.6 三重県総合博物館協議会	39	8.4 ホームページ	96
1.7 三重県総合博物館協議会評価部会	41	8.5 Facebook・Twitter	96
2 調査研究事業	41	8.6 その他	97
2.1 研究概要	41	9 博物館の評価	98
2.2 研究成果一覧	42	9.1 評価のしくみ	98
3 資料収集・保存	46	9.2 平成26年度の戦略目標と戦術の評価結果	99
3.1 収蔵資料概要	46	9.3 みんなでつくる博物館会議	100
3.2 資料収集	46	9.4 アンケート結果概要	100
3.3 歴史的公文書の移管	47	III 資料	
3.4 資料保存	48	1 条例・規則	105
4 展示	48	1.1 三重県総合博物館条例	105
4.1 基本展示	48	1.2 三重県総合博物館条例施行規則	109
4.2 企画展示	49	1.3 三重県総合博物館協議会評価部会 設置要綱	115
4.2.1 企画展	49	1.4 観覧料免除要項	116
4.2.2 交流展示	57	2 事業成果一覧	118
4.2.3 トピック展示	59		
4.3 こども体験展示	61		

I 博物館の概要

1 使命と理念

1) 使命

1 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす

三重の自然と歴史・文化に関する資産を、次なる100年、200年に向けて保全・継承するための主要な役割を果たし、三重のありようや履歴を明らかにすることで、地域文化の発展と新たな地域創造につなげます。

2 学びと交流を通じて人づくりに貢献する

MieMuでは、三重の未来を担う子どもたちは、世代を越えた交流の場で、楽しみながら、体験的に学びます。こうしたなかで、子どもたちは、三重への理解と愛着を深め、夢や希望あふれる未来を拓くきっかけを得ます。また、県民・利用者みなさんは、学ぶ充実感を得、知的好奇心を育み、一人ひとりの成長につなげます。

3 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する

県民・利用者みなさんが、博物館活動の中で、地域に目を向け地域の魅力を再発見し、内外に発信することにより、地域や三重への愛着と誇りを育みます。また、一人ひとりが、各々の関心や生活課題の解決や、新たな地域づくりに取り組むきっかけを提供します。

2) テーマ

三重が持つ多様性の力

MieMuでは、三重の特色である「多様性」と「多様性」に秘められた力について、県民・利用者みなさんとともに探求し、活用、発信するなかで、三重の地域や人に活力をもたらし、「新たな文化を創造する力」、「今をつくり、未来を切り拓く力」を育みます。

・多様性の探求がもたらす力

多様な自然と歴史・文化を探求することで、一人ひとりが三重の魅力を再発見するなかで、三重への愛着と誇りを育み、地域に活力をもたらします。

・新たな文化を創造する力

多様（＝異なるもの）であることにより、可能性と選択の幅が広がります。また、異なるものどうしが融合・反発・刺激しあうことにより新しいものを生み出すことにつながることから、「新たな文化を創造する力」をもたらします。

・今をつくり未来を切り拓く力

三重の「多様性」を、みなさんとともに探求・活用・発信することを通じて、地域の相互理解を深め互いの絆を育むとともに、地域や時代の課題解決につなげていけるような、「今をつくり、未来を切り拓く力」をもたらします。

《三重の多様性とは》

日本列島のほぼ中央に位置する三重は南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くに及ぶ山岳を含んだ多様な自然環境に囲まれ、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物相を育む日本列島の縮図のような自然を有しています。その豊かで多様性に富んだ自然環境のもとで、人びとの多様なくらしや歴史が育まれてきました。また、三重は古くから交通の要衝の地として栄え、東西文化の結節点、海と山との文化の出会い場所として、活発な人やモノの交流、異なる文化の接触がおこり、新たな文化、多様な文化を生み出してきました。

3) 活動理念

ともに考え、活動し、成長する博物館

博物館活動の展開にあたっては、調査研究活動、収集保存活動、活用発信活動の3つの活動を「協創」と「連携」の2つの視点で進めます。これにより、すべての博物館活動において、県民・利用者みなさんが主体的・能動的に活動できる双方向の活動を通して博物館活動を質量ともに発展させ、一人ひとりの成長と地域づくりを支援していくことをめざします。

2 ビジョンと戦略目標・戦術

1) 活動と運営に係る評価のしくみ

長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面3年間(平成26年度～平成28年度)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしている。なお、戦略目標とは計画期間中、重点的に目的をもって取り組むことであり、戦術とは戦略目標達成のために、具体的に取り組むこととした。

2) ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く、水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。

この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点をもつたことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。

三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者みなさんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

3) 戦略目標と戦術

戦略目標		戦術	
1	新たな利用者のすそ野が広がり、何度も利用してもらえるために、事業内容を充実させます	1	多様な層を獲得するため、行ってみたくなる企画展を実施します
		2	基本展示を何度も利用してもらうために、展示の更新や解説を実施します
		3	学校利用を促進するために、館内プログラムを充実します
2	博物館の存在が広く伝わるために、開館の利点を活かして積極的な広報を展開します	4	利用者が受動的に目に入るメディアに掲載してもらうため、メディア向け説明会や内覧会をします
		5	利用者が受動的に目に入る広報ツール(ポスター)を活用するために、みりょく発信隊による広報活動を強化します
		6	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得る広報ツールであるホームページを充実させます
		7	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得るツイッターを定期的に更新します
3	「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します	8	多くの人に博物館を利用してもらうために、利用者が能動的に情報を得るフェイスブックを定期的に更新します
		9	活動への参画促進のために、ミュージアム・パートナー制度を支援します
		10	活動への企業の参画促進のために、企業との協働による事業を実施します
		11	経営への参画促進のために、みんなで作る博物館会議をします

戦略目標		戦術	
4	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるようにするために、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保全に注力します	12	収蔵資料を保全するために、収蔵庫と展示室の定期清掃を行います
		13	地域の文化財等を保全するために、相談窓口を用意し、保存・保全環境を改善します
5	地域にある資料の学術的価値づけとその意義を伝えるために、地域づくりに貢献できるような総合的な研究を対象を絞って集中的に取り組みます	14	地域が研究に参画するために、小中学校に調査カードを配布し一緒に調べます
		15	地域の人々が研究に参画するために、研究調査を兼ねた観察会などの事業を実施します
		16	研究成果の意義を伝えるために、発表会や企画展示、シンポジウムを開催します
6	経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します	17	事業を日常的に確認し改善するために、定期および臨時の戦略会議の場をもちます
		18	評価制度が有効に働いているかを確認するために、評価士に定性評価していただきます

3 沿革と整備の経緯

3.1 沿革

年 月	経 緯
昭和28年 6月	○三重県立博物館 開館
昭和61年 2月	○三重県文化審議会「三重県における博物館構想」答申
平成元年10月	◇ 斎宮歴史博物館 開館
平成 3年 3月	◆ 県議会「県立中央博物館の早期建設について」請願採択
平成 5年 7月	○「三重県センター博物館(仮称)基本構想」公表
平成 6年 3月	○「三重県センター博物館(仮称)基本計画」策定
平成 6年10月	◇ 三重県 総合文化センター開館(県立図書館開館)
平成 7年 3月	○「三重県センター博物館(仮称)展示基本設計」策定
平成 7年 4月	○「三重県公文書館(仮称)基本計画」策定
平成 8年 2月	○「三重県公文書館基本設計」策定
平成 8年 3月	○「三重県センター博物館(仮称)建築基本設計」策定 ※センター博と公文書館を同一敷地内に別棟として設計→合築計画に変更
平成10年 3月	○センター博・公文書館計画白紙に(「ハコ物」建設抑制方針)
平成10年 8月	○「新しい博物館を考える懇話会」設置
平成11年 3月	○「新しい博物館についての提言」(懇話会中間報告)
平成12年 3月	○「私たちがもつめる博物館についての報告」(懇話会最終報告)
平成14年 3月	◆ 県議会「三重県における自然系博物館整備を求める請願書」採択 ○懇話会の最終報告以後、実現に向けた検討が重ねられたが結論得られず
平成14年11月	○博物館整備検討プロジェクト会議を設置し、再度、当初の基本構想をふまえ、新たな検討をすることに
平成15年 3月	◆ 自民党県議団・無所属MIE「ミュージアム構想に関する提言(第1次)」提出
平成16年 1月	○「三重県の新しい博物館のあり方について 提言」(博物館整備検討プロジェクト会議)
平成16年 5月	○プロジェクト会議の提言をうけて、自然資産・文化資産調査および新博物館整備検討業務実施→12月完成 ○一方、公文書館計画は、その一環として「歴史資料の保存活用環境づくり事業」を実施(平成16～18年度)
平成17年 3月	○「三重県立博物館整備にかかる当面の方針」公表 →財政事情から博物館建設は当面見送り、現博物館の改修(暫定整備)と移動展示を先行実施することに

年 月	経 緯
平成18年10月	○三重県立博物館「暫定整備基本設計・耐震補強計画」策定 →精査の結果、改修に多額の費用がかかることが判明
平成19年 2月	○知事選挙公約に新博物館構想の検討を掲載
平成19年 7月	○生活部文化振興室に新文化政策特命監・新文化政策グループを新設し整備に着手 ○三重県文化審議会に「三重の文化振興方針(仮称)」および新博物館のあり方についての検討を諮問
平成19年10月	◆県議会「新県立博物館整備にかかる基本的考え方」を提言 ・建物老朽化のため三重県立博物館の常設展示室を閉鎖(博物館業務は継続)
平成20年 2月	○三重県文化審議会より「三重の文化振興方針(仮称)」および新博物館のあり方について答申
平成20年 3月	○「三重の文化振興方針」および「新県立博物館基本構想」を策定
平成20年11月	○三重県文化審議会より新博物館整備の着実な整備について要望書
平成20年12月	○「新県立博物館基本計画」を策定
平成21年 3月	○「新県立博物館事業実施方針」を作成
平成21年 6月	○「新県立博物館概略設計案(建築・展示)」を公表
平成22年 2月	○「新県立博物館詳細設計(建築)最終報告」を公表
平成22年10月	○「新県立博物館詳細設計(展示)最終報告」を公表
平成22年 6月	▽○新県立博物館建築予定地の造成工事に着手(~12月)
平成22年11月	○新県立博物館建築工事に着工
平成23年 1月	・新県立博物館建築工事起工式(平成23年 1月28日)
平成23年3・5月	・建設地の地層化石調査を実施
平成23年 6月	・県議会全員協議会において新県立博物館整備の今後の方針(整備検証による3方向7項目)について報告
平成23年10月	○新県立博物館展示製作・施工に着手
平成24年 4月	○新県立博物館外構関係工事に着手
平成24年 6月	○新県立博物館情報システム構築に着手
平成25年 4月	○新県立博物館建築工事竣工 ・建築物環境総合性能評価システム「CASBEE」認証のSランクを取得
平成25年 6月	○三重県総合博物館条例公布(平成26年4月19日施行)
平成25年 8月	・愛称決定・発表(MieMu:みえむ) ・三重県立博物館からの移転に着手(~平成26年1月)
平成26年 1月	○三重総合文化センターとの連絡通路竣工
平成26年 2月	○新県立博物館外構関係工事完了 ・三重大学・皇學館大学と相互協力協定を締結
平成26年 3月	○新県立博物館展示製作・施工完了 ▽○三重県総合博物館条例施行規則公布(平成26年4月19日施行)
平成26年 4月	○開館(18日:開館記念式典 19日:グランドオープン)
平成26年 6月	・入館者数10万人達成(1日:開館39日目)
平成26年 8月	・入館者数20万人達成(6日:開館95日目)
平成26年11月	・入館者数30万人達成(16日:開館183日目)

3.2 整備体制

新県立博物館の整備については、年度途中の平成19年7月1日付けで、知事部局の生活部文化振興室に新文化政策特命監・新文化政策グループを新設して、検討作業が始まった。以降、開館までの7年間に三重県立博物館との兼務、学芸員の新規採用、建築技師の参画等により体制を整えて、整備事業を遂行した。

- ・平成19年度 文化振興室新文化政策グループ 6名(事務4・学芸2)

- ・平成20年度 新博物館整備プロジェクト 7名(事務3・学芸3・建築1)
- ・平成21年度 新博物館整備推進室 14名(事務4・学芸9・建築1)：県立博物館職員兼務
- ・平成22年度 新博物館整備推進室 18名(事務4・学芸12・建築2)：学芸員3名採用(7月)
- ・平成23年度 新博物館整備推進室 20名(事務4・学芸14・建築2)：学芸員2名採用
- ・平成24年度 新博物館整備推進プロジェクトチーム 22名(事務4・学芸16・建築2)：学芸員3名採用
- ・平成25年度 新博物館整備推進プロジェクトチーム 22名(事務4・学芸16・建築2)

※上記に加えて、通年で三重県立博物館長1名(平成22年度は顧問)、平成21年度は建築担当参事1名、平成24～25年度は文化振興課公文書担当1名が関与した。

3.3 文化審議会への諮問と答申

平成19年4月、野呂知事(当時)は2期目のスタートにあたり、三重の「文化力」を向上させ、未来への投資ともなるような知の拠点として新博物館を整備するため、改めて検討を始めることを明らかにし、同年7月23日、三重県文化審議会に「三重県の文化振興方針(仮称)」及び新博物館のあり方について諮問した。文化審議会では、新たに専門委員を加えた文化振興拠点部会・新博物館のあり方部会を設置して審議を重ね、平成20年2月4日、知事に答申を行った。

1) 文化審議会答申

平成20年2月4日
三重県知事 野呂 昭彦 様
三重県文化審議会 会長 武村 泰 男
「三重の文化振興方針(仮称)」および「新博物館のあり方について」に ついて(答申)
平成19年7月23日付け生活第12-83号で諮問のありましたこのことについて、別添のとおりお答えします。
この答申をもとに、県として「三重の文化振興方針」を策定され、県民、NPO等の団体、企業、市町と協働して、文化振興に総合的に取り組まれることを期待します。
また、新博物館については、引き続き基本計画の策定に着手され、早急に整備に向けた取組を進められるよう、強く求めます。
※ 別添とは「新博物館のあり方について(答申)」平成20年2月 三重県文化審議会

2) 文化審議会委員(敬称略・五十音順・役職は当時)

[審議委員]

今井正次(三重短期大学生生活学科教授、新博物館のあり方部会(部会長))、大矢陽子(鈴鹿市立長太小学校校長、文化振興拠点部会)、川口節子(元三重県教育委員長、新博物館のあり方部会)、河俣規世佳(児童作家、文化振興拠点部会)、櫻井治男(皇學館大学社会福祉学部長、新博物館のあり方部会)、下登彩(三重テレビ放送アナウンサー、文化振興拠点部会)、武村泰男(鈴鹿国際大学長・三重県文化振興事業団理事長、【会長】文化振興拠点部会)、田部眞樹子(NPO法人三重県子どもNPOセンター代表、文化振興拠点部会(部会長))、中川幾郎(帝塚山大学大学院教授、新博物館のあり方部会)、中林博(NPO法人三重県文化協会理事長、【副会長】新博物館のあり方部会)、中村忠明((財)岡田文化財団(パラミタミュージアム)、新博物館のあり方部会)、浜辺佳子((農)伊賀の里モクモク手づくりファーム、新博物館のあり方部会)、速水亨(速水林業代表、文化振興拠点部会)、三浦信一((社)東員町文化協会会長、文化振興拠点部会)、山田康彦(三重大学教育学部長、新博物館のあり方部会)

〔専門委員〕

大塚由良美(桑名市教育委員会生涯学習課長、文化振興拠点部会)、小山憲司(三重大学人文学部准教授、文化振興拠点部会)、宇野文男(福井大学教育地域科学部教授、新博物館のあり方部会)、竹林武一((財)三重県こどもわかもの育成財団理事長、新博物館のあり方部会)、藤原寛(三重県立博物館館長、新博物館のあり方部会)、松生安彦(前百五経済研究所代表取締役、新博物館のあり方部会)、松月清郎(ミキモト真珠島 真珠博物館館長、新博物館のあり方部会)

3) 会議開催

①委員会

第1回 平成19年7月23日(月)、第2回 平成19年8月8日(水)、第3回 平成19年9月18日(火)、
第4回 平成19年11月20日(火)、第5回 平成20年1月29日(火)

②文化振興拠点部会

第1回 平成19年8月23日(木)、第2回 平成19年9月3日(月)、第3回 平成19年10月17日(水)、
第4回 平成19年10月29日(月)

③新博物館のあり方部会

第1回 平成19年9月4日(火)、第2回 平成19年9月11日(火)、第3回 平成19年10月23日(火)、
第4回 平成19年11月6日(火)、第5回 平成20年1月18日(金)

④県民意見交換会

平成19年10月20日(土) 県鈴鹿庁舎(当日参加者数27名、意見数26件)、平成19年10月21日(日) 県松阪庁舎(当日参加者数30名、意見数20件)

4) 「三重の文化振興方針(仮称)」(中間案)、「新博物館のあり方について」(素案)に対する意見聴取

①県民懇談会

平成19年12月15日(土) 四日市市・津市、平成19年12月16日(日) 伊勢市、平成19年12月22日(土) 伊賀市、
平成20年1月11日(金) 熊野市 (意見数270件(当日166・書面104))

②パブリックコメント

期間：平成19年12月14日(金)～平成20年1月15日(火) (意見数176件)

③市町等への照会

期間：平成19年12月18日(火)～平成20年1月10日(木) (意見数23件(市町17・文化施設等6))

3.4 基本構想

平成20年2月4日の文化審議会の答申「新博物館のあり方について」に基づき、平成20年3月に「新県立博物館基本構想」を策定し、立地場所、広さ、新博物館整備の意義、めざす博物館の姿・基本的な性格・機能等を提示した。

①立地場所

県総合文化センターの南東側に隣接する「津市上浜町6丁目および一身田上津部田地内(約3.7ha)」

②広さ

建物面積12,000～18,000 m²程度

③基本的な考え方

《今なぜ新博物館か - 新博物館整備の意義 - 》

- ◆三重の未来を拓く人づくりのための拠点として
- ◆三重を知り、三重を学び、三重を伝えるための拠点として
- ◆三重の豊かな自然と歴史・文化の資産を保全・継承し、活用するための拠点として

《めざす博物館の姿》

- ◆新たな「文化と知的探求の拠点」へ

- ・ 県民の自己実現と主体的活動の場となる - 人間力の視点から -
- ・ 地域づくりや地域課題解決に貢献する - 地域力の視点から -
- ・ 人や地域をつなぐ連携・ネットワークを構築する - 創造力の視点から -

《博物館の基本的な性格》

- ・ 県民とともに成長する開かれた博物館
- ・ 次代を担う子どもたちを育む未来志向の博物館
- ・ 三重の自然と歴史・文化を総合的に捉える「総合博物館」
- ・ 県民の視点で三重の貴重な資産を守り活用する博物館
- ・ 県内の博物館ネットワークの中核となる連携型博物館

《博物館の機能》

- ◆ 県民参画の視点で機能する博物館

3.5 基本計画

平成20年度には、基本構想に基づき、新博物館整備を具体化するため、館の使命やテーマ、活動理念について整理するとともに活動計画や施設計画、運営計画、整備スケジュール等を検討し、三重県文化審議会および同審議会内に設置した新県立博物館基本計画検討部会での議論、県議会での議論、県民意見交換会等での意見照会を経て、平成20年12月に「新博物館整備基本計画」を策定・公表した。

1) 計画概要

①新博物館の使命

- ・ 三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす博物館
- ・ 学びと交流を通じて人づくりに貢献する博物館
- ・ 地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する博物館

②県立の博物館として果たすべき役割

- ・ 県内の自然と歴史・文化の資産の保全と文化振興を推進する役割
- ・ 県内の人材育成や技術支援などに関する先導的・補完的な役割
- ・ 全国や世界の博物館等と連携し、三重を発信し、新たな創造につなげる役割

③新博物館のテーマ

テーマ：三重が持つ『多様性の力』

- ・ 多様性の探求がもたらす力
- ・ 新たな文化を創造する力
- ・ 今をつくり、未来を切り拓く力

④新博物館の活動 — 「協創」と「連携」で展開する博物館活動—

○活動理念：ともに考え、活動し、成長する博物館

- ・ 県民・利用者の視点に立ち、すべての活動を県民・利用者に関く
- ・ 三重に根ざし、日本、世界を視野に入れた活動を展開する
- ・ 新しい“総合”の観点で展開する
- ・ 今に生かす、未来を拓く
- ・ 信頼と安心で“成長する博物館”を実現する

○活動の展開：「協創」と「連携」の2つの視点で、3つの博物館活動を推進する

- ・ 2つの視点
 - 視点1 県民・利用者との協創
 - 視点2 多様な主体との連携
- ・ 3つの博物館活動
 - 調査研究活動 ～みんなで見つける三重の魅力～
 - 収集保存活動 ～みんなで守る三重の宝～
 - 活用発信活動(交流創造・展示) ～みんなで育む三重の誇り～

○公文書館機能の一体化

- ・総合博物館と公文書館機能の一体化は、全国初の本格導入例
- 〔一体化の意義〕
 - ・三重の今を未来に引き継ぐ県民共有の知的な財産として、歴史的公文書を活用することにより、三重の文化振興に貢献
 - ・歴史的公文書を一体的に収蔵することにより、所蔵資料の幅が広がり、博物館活動が充実

⑤新博物館の特色となる7つのポイント

- ・協創の視点
- ・連携の視点
- ・新しい“総合”
- ・人づくり・地域づくり
- ・公文書館機能の一体化
- ・交流創造
- ・多彩な展示

⑥新博物館の施設

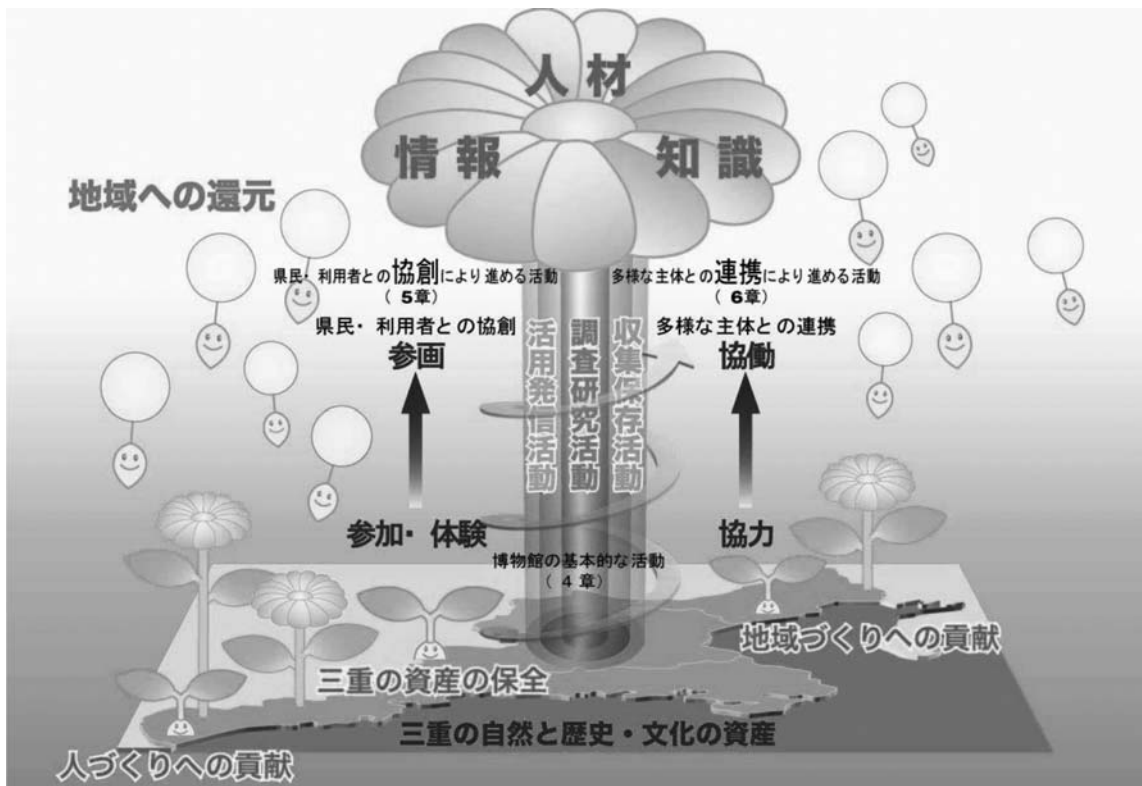
- 敷地 県総合文化センター隣(約3.7ha) 津市上浜町6丁目・一身田上津部田地内
- 建物 延床面積12,000㎡(10,000㎡を先行整備)

⑦整備に向けて

- 整備事業費 約120億円(用地費等を含む)(第1期分10,000㎡程度)
- 事業スキーム 公設公営・一部民営(一部指定管理)
- スケジュール 平成21年建築および展示基本・実施設計 → 平成21年建築および展示基本・実施設計 → 平成22年以降用地造成・建築および展示工事 → 平成26年開館目標

2)文化審議会 新県立博物館基本計画検討部会委員(敬称略・五十音順・役職は当時)

伊藤ふじ子(亀山市立加太小学校長)、今井正次(三重短期大学生生活科学科教授(部会長))、柏木康恵(三重県PTA連合会副会長)、川口節子(元三重県教育委員長)、河俣規世佳(児童文学作家)、栗山朋子(三重テレビ放送アナウンサー)、齋藤彰一(三重県商工会議所連合会会長)、櫻井治男(皇學館大学社会福祉



博物館活動の展開イメージ

※この図は、新博物館で行う、三重の自然と歴史・文化の資産を基盤とする調査研究、収集保存、活用発信の3つの活動を、「協創」と「連携」の2つの視点で進めることによって、人材や情報、知識が花開き、それらの種(活動の成果)が地域へ広がることによって、三重の資産の保全や人づくり、地域づくりへ貢献していく循環をイメージした

学部長)、武田明正(三重大学名誉教授)、武村泰男((財)三重県文化振興事業団理事長・前鈴鹿国際大学学長)、田部眞樹子(NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター理事長)、中川幾郎(帝塚山大学大学院教授)、中林博(NPO法人三重県文化協会理事長)、中村忠明((財)岡田文化財団(パラミタミュージアム))、錦かよ子(三重中京大学短期大学部子ども学科長)、浜辺佳子((農)伊賀の里モクモク手づくりファーム)、速水亨(速水林業代表)、三浦信一((社)東員町文化協会会長)、山田康彦(三重大学教育学部長)

3) 会議開催

①委員会

第1回平成20年4月22日(火)、第2回平成20年9月3日(水)、第3回平成20年11月11日(火)

②検討部会

第1回平成20年5月12日(月)、第2回平成20年5月29日(木)、第3回平成20年7月4日(金)、
第4回平成20年8月5日(火)、第5回平成20年8月21日(木)、第6回平成20年10月31日(金)

4) 「新県立博物館基本計画」(中間案)に対する意見聴取

①県民懇談会

平成20年9月27日(土)桑名市、平成20年9月28日(日)津市、平成20年9月28日(日)伊勢市、平成20年10月4日(土)名張市、平成20年10月5日(日)尾鷲市 (意見数298件(当日231・書面67))

②パブリックコメント

期間：平成20年9月17日(水)～平成20年10月16日(木) (意見数252件)

③三重県博物館協会、市町、団体、大学等への照会

期間：平成20年9月16日(火)～平成20年10月3日(金) (意見数18件)
・三重県博物館協会との意見交換会 平成20年10月9日(木) (意見数49件(当日35・書面14))

3.6 事業実施方針

平成20年12月に公表した基本計画を受け、平成26年を目標としている新県立博物館の開館後5年程度を想定した開館までの事業の取組方針(考え方、推進体制など)と取組内容を示す「新県立博物館事業実施方針」を平成21年3月に公表した。

①事業の目標

「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくり

②取組方針

- ・開館前から協創・連携による活動を展開する
- ・既存の活動を拡充・発展させる方向で展開する
- ・重点的取組テーマを設定して活動を展開する
- ・ソフトの成果を施設づくりに生かす

③重点的取組テーマ

- ・取組テーマ1 参画のしくみづくり
- ・取組テーマ2 連携が進む環境づくり
- ・取組テーマ3 評価のしくみづくり
- ・取組テーマ4 魅力的な博物館づくり

3.7 3方向7項目

平成23年6月の新県立博物館整備計画の検証において、より魅力的で県民に親しまれる博物館づくりのために必要な「3方向」と、県民のみなさんへの説明責任を果たす上で取組や解決が必要と考える「7項目」を示し、新県立博物館の整備・運営に反映させていくこととなった。

〔3方向〕

- ①三重のアイデンティティをわかりやすく発信する博物館づくり
 - ・子どもや素人にも、誰にでもわかる博物館
 - ・専門性と技術のクォリティの裏付けがある博物館
 - ・館のホスピタリティまで、ストーリー性をもつ博物館
- ②“わたしの博物館”づくり
 - ・県民みんなが博物館づくりに参加する博物館
 - ・みんなで支えていく文化が育つ博物館～積極的に民間からの支援を受けながら、ともに活動する博物館～
- ③市町や民間の博物館などを支え、協力・連携して三重を発信する博物館づくり
 - ・資料の保存環境などの技術支援や共同で調査研究や展示などを企画・実施する博物館
 - ・自然分野など、市町や地域で対応できない分野について協力・支援する博物館

〔7項目〕

- ①総事業費を含めた支出の節減努力を不断に行う。段階的な増収も盛り込んだ収入計画を立案し、年間の運営費4億5千万円に対する県費負担について、2割程度削減すること
- ②入館者増、企業からの寄付などの収入増を実現するため、広報体制を強化すること
- ③外部有識者による委員会を立ち上げ、第三者の視点から博物館事業の経営面などについて評価し、改善していくためのしくみを早期に導入すること
- ④多様なアイデアをもとに民間の参画による経営基盤の確立をはかること
- ⑤現三重県立博物館について県費負担をかけないような解決策を示すこと
- ⑥自然エネルギーの活用について、当初計画よりも一層拡大すること
- ⑦金銭価値では示せない社会への影響・効果を明示し、それらへの取組状況を確認するための評価と改善のしくみをつくること

3.8 経営向上懇話会

新県立博物館の整備にかかる「7項目」の1つとして、新県立博物館での活動や運営に関する方針やしきみの構築に向けて総合的・俯瞰的な助言をいただくために、平成23～25年度に各分野の有識者で構成する「三重県総合博物館経営向上懇話会」を設置し、さまざまな課題について議論・指導をいただいた。

1) 委員(敬称略・五十音順・役職は当時)

齋藤彰一(株式会社三重銀行特別顧問)、清水裕之(名古屋大学大学院環境学研究科教授)、土岐正紀(H24から末次秀行)(中日新聞社三重総局局長)、田部眞樹子(三重県子どもNPOサポートセンター理事長)、中村忠明(パラミタミュージアム事務局長)、西岡慶子(株式会社光機械製作所代表取締役社長)、山下治子(株式会社アム・プロモーションミュゼ編集長)、山田康彦(三重大学教育学部教授【座長】)

2) 会議

〔平成23年度〕

- | | | |
|--------|----------------|---------------------|
| 第1回懇話会 | 平成23年10月25日(火) | 三重県総合文化センター文化会館大会議室 |
| 第2回懇話会 | 平成24年2月3日(金) | 三重県総合文化センター文化会館中会議室 |

〔平成24年度〕

- | | | |
|--------|---------------|---------------------|
| 第1回懇話会 | 平成24年7月24日(火) | 三重県総合文化センター文化会館大会議室 |
| 第2回懇話会 | 平成25年3月29日(金) | 三重県吉田山会館206会議室 |

〔平成25年度〕

- | | | |
|--------|---------------|----------------|
| 第1回懇話会 | 平成25年5月29日(水) | 三重県合同ビルG401会議室 |
|--------|---------------|----------------|

第2回懇話会	平成25年9月9日(月)	新県立博物館3階レクチャールーム
第3回懇話会	平成25年11月25日(月)	新県立博物館3階レクチャールーム
第4回懇話会	平成26年1月22日(水)	新県立博物館3階レクチャールーム

3.9 施設等の整備

1) 主な工事・委託の契約状況

新県立博物館の整備にかかる主な工事・委託は次のとおりである。なお、建築・外構・立体駐車場工事に関する工事・委託は、土木部営繕課に施工を委任した。

[設計・監理委託]

名 称	契約先	履行期間
新県立博物館基本計画策定調査業務委託	(株)丹青社	H20. 5. 20～H21. 3. 25
新県立博物館(仮称)建築設計業務委託	(株)日本設計中部支社	H21. 3. 27～H22. 5. 20
新三重県立博物館(仮称)建築工事設計意図伝達業務委託	(株)日本設計中部支社	H23. 1. 26～H25. 4. 17
新三重県立博物館(仮称)建築工事監理業務委託	(株)日本設計中部支社	H23. 1. 26～H25. 4. 17
新三重県立博物館(仮称)・三重県総合文化センター連絡通路整備工事設計意図伝達業務	(株)日本設計中部支社	H25. 4. 30～H26. 1. 24
新三重県立博物館(仮称)・三重県総合文化センター連絡通路整備工事監理業務委託	(株)田端隆建築設計	H25. 4. 30～H26. 1. 24
新県立博物館展示設計業務委託	(株)トータルメディア開発研究所	H21. 3. 3～H22. 10. 30

[建 築]

名 称	契約先	履行期間
新三重県立博物館(仮称)建築工事	鹿島・鉄建・生川特定建設工事共同企業体	H22. 11. 30～H25. 4. 17
新三重県立博物館(仮称)電気設備工事	東光・鈴鹿テクト・林特定建設工事共同企業体	H22. 11. 30～H25. 4. 17
新三重県立博物館(仮称)空調設備工事	三機・杉山・山信特定建設工事共同企業体	H22. 11. 30～H25. 4. 17
新三重県立博物館(仮称)給排水衛生設備工事	岡田・ダイワ・三重水熱特定建設工事共同企業体	H22. 11. 30～H25. 4. 17

[外 構]

名 称	契約先	履行期間
新三重県立博物館(仮称)外構工事(造園工その1)	(有)伊藤農園	H24. 4. 17～H26. 1. 6
新三重県立博物館(仮称)外構工事(土木工その1)	藪建設(株)	H24. 8. 21～H25. 7. 31
新三重県立博物館(仮称)外構工事(土木工その2)	藪建設(株)	H24. 9. 20～H25. 3. 26
新三重県立博物館(仮称)外構工事(舗装工)	田中・河合経常建設共同企業体	H25. 7. 19～H25. 11. 25
新三重県立博物館(仮称)外構工事(照明工)	三重日信電子(株)	H25. 7. 24～H25. 12. 20
三重県総合博物館外構工事(造園工)	(株)東海美松園	H25. 9. 11～H26. 1. 8
新三重県立博物館(仮称)・三重県総合文化センター連絡通路整備工事	(株)山口工務店	H25. 4. 30～H26. 1. 24

[展 示]

名 称	契約先	履行期間
新三重県立博物館(仮称)展示製作及び施工業務委託	(株)トータルメディア開発研究所	H23. 10. 18～H26. 3. 20

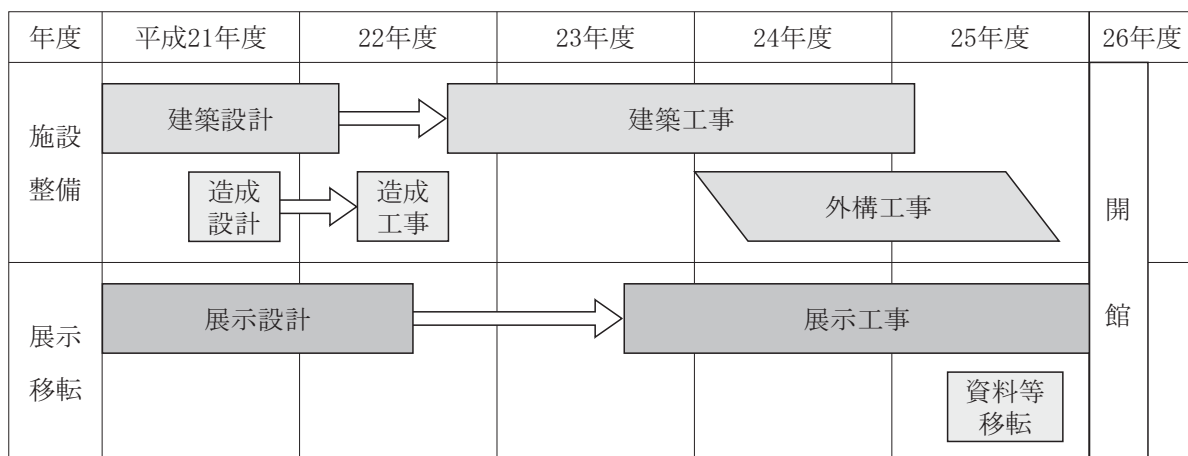
〔立体駐車場〕

名 称	契約先	履行期間
三重県総合文化センター立体駐車場建築工事	日本土建・東海土建特定建設工事共同企業体	H22. 11. 30～H23. 12. 24
三重県総合文化センター立体駐車場電気設備工事	三重電設(株)	H23. 3. 22～H23. 12. 24

〔その他〕

新県立博物館収蔵庫ラック等購入業務	鹿島建設(株)三重営業所	H24. 3. 19～H25. 3. 26
新県立博物館情報システム構築及び運用保守業務委託	富士通(株)三重支店	H24. 6. 22～H31. 3. 31
新三重県立博物館(仮称)太陽光発電設備設置工事	(株)第一電気工業	H24. 7. 18～H25. 3. 15
新三重県立博物館(仮称)電気通信工事	(株)三協電工社	H24. 8. 20～H25. 3. 29
鳥居古墳石室及び石棺移設業務委託	山本造園	H25. 1. 24～H25. 3. 29
三重県総合博物館石棺蓋修復等業務委託	山本造園	H25. 10. 9～H25. 12. 6

2) 整備全体工程



3) 整備関係費用

(決算額)

項目	年 度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合 計
用地購入			2, 393, 423			479	2, 393, 902
建 物	設計	187, 098	33, 873	578			221, 549
	工事監理	1, 470	9, 792	40, 974	39, 985	7, 474	99, 695
	建築工事		95, 340	1, 184, 986	3, 993, 516	13, 032	5, 286, 874
	外構工事等				816, 874	297, 986	1, 114, 860
展 示	設計	61, 437	35, 142				96, 579
	展示製作施工			54, 463	381, 245	653, 562	1, 089, 270
	展示備品等			9, 457	48, 025	134, 489	191, 971
情報システム				24, 887	148, 780		173, 667
その他	備品購入費				2, 744	155, 130	157, 874
	開業前事業費	7, 440	25, 175	27, 632	25, 484	110, 028	195, 759
計		257, 445	2, 592, 745	1, 318, 090	5, 332, 760	1, 520, 960	11, 022, 000

2) 各工事・委託の概況

①建築・外構

新県立博物館の建築については、外観では三重らしさとして旧街道の格子をイメージした意匠としつつ日射の遮断を兼ねた縦のテラコッタルーバー、地震対策としての免震工法、環境配慮に対する太陽光発電や展示室や収蔵庫の空調における地中熱を利用した空調熱源システムなどのさまざまな技術を採用している。また、建築物を取り巻く外部環境についても、屋外テラスのウッドデッキには県産材のスギ、ミュージアムフィールドには県内各地の特徴ある石材を使用することなど、三重を知る要素を配置し、野外での活動が幅広く展開できる場に整備した。さらに、省エネルギー等の環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建築物の品質を総合的に評価して格付けする「建築物総合環境性能評価認証制度(CASBEE)」において、「Sランク」を取得し、サステナブル建築として優良とされた。その他、県総合文化センター側の立体駐車場と新県立博物館を繋ぐ連絡通路や伊勢自動車道等の主要な道路からの道路案内標識の整備も行った。これらの諸工事にあたっては、より使いやすい施設とするため、ユニバーサルデザインについて関係団体などと意見交換を行い、意見を設計や施工段階に反映した。

なお、新県立博物館の建設状況を伝え、博物館を総合的に理解していただくきっかけとなるように、施工段階に現場見学会をたびたび実施し、平成23年度には1,052名、平成24年度には1,418名に参加いただいた。また、竣工後の平成25年度にも施設見学会を開催し、1,152名に参加いただいた。

②展示

新県立博物館の展示については、館の使命、活動理念に基づき、展示エリア・交流創造エリア・エントランスエリア・外構・野外敷地全体で、県民・利用者とともに三重が持つ「多様性の力」を探求し、新たな知を創造・発信する場を創出することを目的とした。展示エリアでは常設の基本展示室と複数のテーマで展開する企画展示室・交流展示室が連動してさまざまな三重を発信することとし、交流創造エリアには学習交流スペース・こども体験展示室・三重の実物図鑑・レファレンスカウンター・資料閲覧室などを配し、当館の特色である交流創造を展開する役割を果たすエリアとした。各エリアの内容については、II-4 展示で詳述している。

③情報システム

新県立博物館の収蔵資料や情報をデータベース化し、博物館設置の端末機器及びインターネットを通じた博物館情報活用のための総合的なシステムを確立することにより、県民・利用者の利用や多様な主体との連携に生かすことを目的に、平成24・25年度の2年間でシステムの構築を行った。このシステムでは、館収蔵資料(歴史的公文書を含む)・図書情報管理機能、来館者向け情報提供機能、来館者サービス機能、インターネットによる情報提供機能、業務支援・管理機能などを一体的に運用することとした。

3) 保存・展示環境の整備

建築工事にあたっては、躯体コンクリートの打設後、いわゆる枯らし期間を考慮して工程を調整した。竣工前後から、収蔵庫・展示室にかかる空調設備の温湿度設定及び運転調整、温湿度モニタリングを行い、適切な温湿度が維持できるよう建築・設備担当との調整を行うとともに、文化財等へ影響を与える有機酸、アンモニア、アルデヒド類については気中濃度測定を行い、低減化を図った。

また、収蔵庫・展示室及び学習交流スペースなどにおいて、粘着トラップなどによる文化財害虫調査や点検・管理、定期的な浮遊菌測定を行い、微生物環境の把握と文化財害虫の侵入を早期に検出できるよう努めている。なお、三重県立博物館などから移動した資料については、収蔵庫において殺虫燻蒸材(ヴァイケーン)を用いた初発燻蒸を行ったが、環境負荷を考慮し、今後搬入される資料については、一斉処理は行わず、個別に燻蒸庫で二酸化炭素や酸化エチレンによる殺虫・殺菌処理を行う計画とした。

4) 公文書館機能の整備

基本計画において掲げた公文書館機能の一体化については、公文書の選別から保存公開までの取り扱いにかかる新県立博物館と県の文書担当各部局と関係、新県立博物館が担うべき機能について、有識者の助

言をもとに施設・運用面での検討を行うとともに、関係する文化振興課をはじめ、法務・文書課、IT推進課、情報公開課などと協議を行った。

公文書の取り扱いについては、各部局から引き継がれる5年以上の期限が満了した公文書の引継ぎから評価選別までを文化振興課で行い、評価選別された歴史的公文書を新県立博物館へ移管し、整理、保存、公開(閲覧)する体制とした。施設面では歴史資料・歴史的公文書収蔵庫や資料閲覧室を充実するとともに、歴史資料・公文書整理室、歴史資料・公文書保存処理室などを設置し、これらの運用のために歴史的公文書担当職員や嘱託員を配置した。なお、歴史的公文書担当職員は、文化振興課が開催する公文書の選別会議に参画することとした。

3.10 資料等の移転

平成25年4月の新県立博物館建物の引き渡し後、収蔵庫の空調設備の運転調整、温湿度のモニタリングを継続して収蔵環境の整備を行い、三重県立博物館の収蔵資料約28万点と書籍、また、文化振興課県史編さん班所管の三重県の歴史的公文書と行政刊行物・県史編さん関係資料など約14万点の移転を行った。作業は担当分野の学芸員の指示・立会のもと美術品取扱専門業者に委託して実施し、期間は平成25年8月上旬から翌26年1月までの6か月間、従事した作業者はのべ660人に及んだ。

なお、三重県立博物館で長く生態展示を行ってきた特別天然記念物オオサンショウウオ1個体についても、平成26年2月に担当学芸員・職員の手によって、新県立博物館2階の新しい飼育水槽に無事移動した。また、県立博物館で屋外展示してきた鳥居古墳の石棺・石室については、解体・修復して、新県立博物館のミュージアムフィールドに移築した。

〔搬出場所〕 三重県立博物館(津市広明町147-2)、日本通運株式会社桜橋倉庫(津市桜橋3丁目402)、有限会社サバト倉庫(津市高茶屋小森上野町大新田1306-17)、三重県吉田山会館(津市栄町1丁目891番地)、三重県鳥居会館(津市鳥居町100)、三重県栄町庁舎(津市栄町1-954)

3.11 広報・各種事業

1) 広報活動

県民のみなさんに新県立博物館について理解を深めていただくとともに、「みんなでつくる博物館」づくりを推進するため、次の3つの取組により広報広聴活動を実施した。

平成23年7月から翌年3月にかけて、PRキャラバンによる1万人アンケートとして、県内の文化施設、観光施設、大型店舗や各種イベントで、新県立博物館のチラシを配布して広報活動を行いながら新県立博物館に関するアンケート(認知度状況も含む)を実施した。また、特に開館前の平成25年度には、開館に向けた集中的な広報の必要性から、2つの委託事業(マスメディア等を活用した大規模広報事業、誘客のための訪問やキャンペーン活動にかかる緊急雇用事業)と、県独自の取組を組み合わせながら、「開館100日前」「開館1ヶ月前」などの集中発信ポイントを設けて、新県立博物館の姿が段々と見えてくるようなストーリー性を意識しながら事業を展開した。

①取組概要

i) 「存在を知らない、関心がない方」に対する、博物館との出会いを促す取組

(看板などの設置、公共交通機関などへの広告)

- ・津駅構内・津駅西口ロータリー・三重県水産会館への看板設置、三重県立博物館・県庁大駐車場への懸垂幕・横断幕設置など
- ・開館100日前を契機とした懸垂幕、開館1か月前を契機としたカウントダウンボードの設置
- ・近鉄ポケット時刻表などへの広告掲載、県民公募債の募集チラシにおけるPR ほか

(各種イベントでの周知)

- ・博物館教室、フィールドワーク、出前トークなど博物館事業での周知

- ・ 県民の日記念事業、M祭!、みえ森林フェスタ、リーディング産業展、三重県観光交流会、子育て応援! ワクワクフェスタ、里海フェスティバル、三重テラスオープニング記念展示などでのPR活動(新聞、雑誌などへの寄稿、テレビ・ラジオへの出演など)
- ・ 新県立博物館ニュースの発行
- ・ 毎日新聞「紙上博物館」「続紙上博物館」、博物館・美術館ジャーナル「ミュゼ」、Mie Art Press、県政だよりへの連載、各種雑誌・フリーマガジンへの記事掲載
- ・ NHK津・三重TV・FM三重・ZTVなど地元メディア、中京圏のメディアの番組への出演
- ・ 県民参加CMの撮影(平成26年3月)
- (その他)
- ・ 公式ツイッター(平成24年10月～)、公式フェイスブック(平成25年8月～)の運用開始
- ii) 「興味はあるものの、どう携わっていいものか分からない方」に対する、博物館活動への参加・参画を促す取組
(各種イベントの実施)
- ・ 三重県立博物館長出張講演会、三重県立博物館移動展示などの開催
- ・ 三重県・三重大学連携新博物館シンポジウム、三重しぜん文化祭におけるシンポジウムなどの実施
- ・ お雑煮交流会、おせち料理交流会、思い出ミュージアム、開館前特別ワークショップなどの実施
- ・ 開館1年前イベント(平成25年5月)
- (意見聴取)
- ・ 1万人アンケート(平成23年度)
- ・ みんなでつくる博物館会議、同こども会議などの開催
- ・ 各団体などとの意見交換会の開催
- iii) 「博物館利用を究め、自らの活動に生かそうとしている方」に対する、博物館活動を究め、自らの活動や地域づくりに生かすことを促す取組
(参加型事業の展開)
- ・ 新県立博物館みりよく発信隊の募集、活動(平成24年度～)
- ・ サポートスタッフの活動(平成18年度～)

② 主な啓発刊行物

○ 三重県新県立博物館NEWS

新県立博物館の魅力や整備にむけた取り組み状況を、県民利用者のみなさんにお伝えするため、平成20年度から25年度にかけて、三重県新県立博物館NEWSを刊行した。

- 準備号 平成20年6月「新県立博物館基本構想をまとめました」
- 創刊号 平成20年9月「新県立博物館基本計画(中間案)をまとめました」
- 第2号 平成21年1月「新県立博物館基本計画ができました」
- 第3号 平成22年1月「ともに考え、活動し、成長する博物館にむけて」
- 第4号 平成22年3月「いよいよ新博物館実現への第1歩がはじまります」
- 第5号 平成22年12月「新県立博物館の展示設計がまとまりました」
- 第6号 平成23年3月「新県立博物館の建築工事が始まりました!」
- 第7号 平成23年9月「新しい県立博物館にご期待を!」
- 第8号 平成24年3月「みなさんも新県立博物館づくりに参加しませんか」
- 第9号 平成24年7月「「みえマイミュージアム(MMM)プロジェクト」進行中!」
- 第10号 平成24年11月「みんなでつくる博物館会議「こども会議」を開催しました!」
- 第11号 平成25年3月「「みんなでつくる博物館会議」を開催しました!」
- 第12号 平成25年6月「建物が完成しました」

- 第13号 平成25年9月「三重県総合博物館の愛称が「MieMu」(みえむ)に決定しました!」
- 第14号 平成25年12月「開館準備期間最後の「みんなで作る博物館会議」を開催しました!」
- 号外 平成26年1月「開館まであと100日」
- 第15号 平成26年3月「「ミュージアム・パートナー」、いよいよ始動!」

○毎日新聞三重版「紙上博物館―県所蔵資料で語る三重の姿―」「続紙上博物館―三重の姿を語る―」
三重県立博物館長・学芸員及び文化振興課県史編さん班職員が、毎週金曜日に連載したもので、「紙上博物館」は平成20年8月～平成22年11月に103話、「続紙上博物館」は平成22年11月～平成26年6月に120話を掲載した。三重県立博物館や県史編さん班所蔵資料の紹介に加えて、整備が進む新県立博物館の展示テーマも含め、県内の自然や歴史民俗などについて紹介した。後に『新視点 三重県の歴史』、『続新視点 三重県の歴史』(山川出版社)として刊行された。

○博物館・美術館ジャーナル『ミュゼ』連載の「Making of 三重の新県立博物館」

博物館・美術館専門誌である『ミュゼ』に、「Making of 三重の新県立博物館」と題して、平成22年7月～平成26年1月に、学芸員がリレー方式で新県立博物館での活動に向けた取組について連載し、全国の博物館・美術館関係者に発信した。

- 第1回 とともに考え、活動し、成長する博物館 (平成22年7月 第93号)
- 第2回 移動する博物館 ―あなたの町に博物館がやってくる―(平成22年10月 第94号)
- 第3回 未来へ向けた博物館づくり ―子どもたちとともに―(平成23年1月 第95号)
- 第4回 「しぜん文化祭」と「三重の新県立博物館」(平成23年5月 第96号)
- 第5回 新県立博物館建設地から化石がザクザク!―協働・連携による建設地の地層・化石調査―(平成23年8月 第97号)
- 第6回 よりよい保存環境をめざして(平成23年11月 第98号)
- 第7回 古文書を読むこと―三重県立博物館サポートスタッフ歴史グループの活動―(平成24年2月 第99号)
- 第8回 新博のみっちゃん(平成24年6月 第100号)
- 第9回 三重のくらしの古写真収集プロジェクト(平成24年9月 第101号)
- 第10回 ジオラマづくりの楽しさと苦労話(平成24年12月 第102号)
- 第11回 ここまで出来た、三重の新県立博物館(平成25年3月 第103号)
- 第12回 開館まであと1年をきった三重県立博物館の現在(平成25年6月 第104号)
- 第13回 生物資料の採集は、苦しくも楽しくて(平成25年10月 第105号)
- 第14回 とともに歩むMieMuのパートナー(平成26年1月 第106号)

※ 平成26年4月 第107号には、「「明日を生み出す力」MieMu(三重県総合博物館)がオープン。開館記念企画展「MieMu発進!」」を掲載いただいた。

2) 調査研究・資料収集活動

新県立博物館の基本展示室や三重の実物図鑑、こども体験展示室、開館後の特別展・企画展などでは、三重の多様で豊かな自然と歴史・文化に関するさまざまなテーマで展示するため、新県立博物館の整備段階には、展示テーマに沿った調査研究や資料収集活動に主力をおいた。また、博物館運営や資料保存環境に関する研究なども並行して実施した。

一方、平成23年3月の東日本大震災・長野県北部地震や同年8月の台風12号による紀伊半島豪雨などでは、現地での文化財・資料レスキュー活動や関連する研究会に参加して、得られた経験を三重県内の文化財・資料等の災害に対する予防対策や、被災資料の救済を支援する体制の整備に生かしている。

①主な調査研究・資料収集活動

(自然分野)

- ・新県立博物館建設地の地層・化石調査

- ・御幣川ゾウ足跡化石調査
- ・ミエゾウ全身骨格復元調査
- ・大杉谷・大台ヶ原の調査
- ・鈴鹿山脈の御在所岳・溪谷の調査
- ・鈴鹿山脈の石灰地形・鍾乳洞の調査
- ・伊勢湾内・熊野灘の海の底の生き物の分布の調査
- ・伊勢湾岸松名瀬干潟の生き物の分布の調査
- ・伊勢湾集水域のみに生息する生き物の生態の調査
- ・熊野灘の黒潮やマッコウクジラなど鯨類の観察、サンゴと亜熱帯性の魚類の調査
- ・新県立博物館の里山の調査

(民俗分野)

- ・熊野地方の山村のくらしの調査
- ・丸山千枚田の稲作のくらしの調査
- ・伊賀盆地の里山のくらしの調査
- ・伊賀のかんこ踊りの調査
- ・櫛田川下流域の条里区割の残るほ場のくらしの調査
- ・志摩の漁村のくらしの調査
- ・志摩のまつりと海女のくらしの調査

(人文分野)

- ・御師屋敷の復元(建築・情景)研究
- ・御師屋敷の器物悉皆調査
- ・伊勢参宮と御師のもてなし・伊勢土産の調査
- ・伊勢商人に関する資料調査
- ・知のネットワークに関連する調査
- ・鈴鹿八風峠や熊野街道の峠道の調査
- ・伊勢湾・熊野灘沿岸の海上航路・船舶に関する資料調査
- ・中世安濃津の復元に関する調査

(総合分野)

- ・博物館の社会的役割についての研究
- ・博物館内の資料保存環境の改善についての研究
- ・博物館資料を用いた教育活動についての研究

②資料レスキュー活動

○平成23年の東日本大震災等による被災文化財等のレスキュー活動

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業(文化財レスキュー事業)、また、長野県北部地震にかかる文化財・資料レスキュー活動に、学芸員7名を宮城県、岩手県及び長野県へ派遣し、現地での民俗資料、公文書、昆虫標本のクリーニング等への協力を行った。

○平成23年台風第12号の紀伊半島豪雨による被災資料等レスキュー活動

被害を受けた県熊野庁舎の公文書のレスキュー活動、また、被災した地域資料館の施設復旧作業に協力・支援を行った。

3)活用発信活動

新県立博物館の設計・施工と並行して、三重県立博物館の活用発信活動に加えて、新県立博物館の開館に向けての新たな事業を行うことにより、新県立博物館の整備を広く発信するとともに、各事業においてさまざまな試行を行い、開館後の活動につなげていくこととした。特に、展示活動については、施設老朽

化のため、三重県立博物館の展示室を平成19年10月に閉鎖したことから、県内各地で移動展示を開催し、三重の自然と歴史文化を紹介するとともに、新県立博物館における基本展示室やこども体験展示室の展示計画の一部を試行的に行い、展示計画に生かす取組を行った。

①交流創造活動

- ・三重に関するレファレンス
- ・新聞や情報誌などへの連載による情報の発信
- ・博物館資料の閲覧・貸し出し
- ・博物館教室・フィールドワークなどの学習交流プログラム
 標本づくりなどの教室、同定会、古文書調査法研修講座、「さんちゃん」のお食事会、干潟の生き物観察・アサギマダラマーキングなどのフィールドワーク、文化財探訪など
- ・シンポジウム
 博学連携シンポジウム、自然文化祭でのシンポジウムなど
- ・ワークショップ
 新博ティーンズプロジェクトなどのワークショップ
- ・博物館実習・インターンシップの受け入れ
- ・三重県立博物館サポートスタッフ活動への支援

②移動展示

[平成18年度]

①	テーマ「桑名いま・むかしーくわなの自然と歴史に親しもうー」	会期 平成18年7月27日(木)～8月6日(日)	場所 くわなメディアライブ
	共催 桑名市教育委員会		
②	テーマ「海の生きものー志摩の海・太古の海ー」	会期 平成18年8月11日(金)～8月20日(日)	場所 志摩市志摩文化会館
	共催 志摩市教育委員会		
③	テーマ「ミエゾウと古琵琶湖層群」	会期 平成18年8月22日(火)～8月31日(木)	場所 名張市武道交流館いきいき
	共催 名張市教育委員会		
④	テーマ「亀山の自然ー加太・関・亀山を探るー」	会期 平成18年9月9日(土)～12月10日(日)	場所 亀山市歴史博物館
	共催 亀山市歴史博物館		
⑤	テーマ「絵図にみる巡礼道中の人々」	会期 平成19年2月10日(土)～3月8日(木)	場所 三重県立熊野古道センター
	共催 三重県立熊野古道センター		

[平成19年度]

①	テーマ「タイムトラベル 太古の三重ー化石から見える三重のすがたー」	会期 平成19年7月14日(土)～7月29日(日)	場所 南伊勢町ふれあいセンター
	共催 南伊勢町・南伊勢町教育委員会		
②	テーマ「三重のいきもの 再発見ーゾウ化石からカモシカ・ネコギギまでー」	会期 平成19年8月3日(金)～8月12日(日)	場所 いなべ市藤原文化センター
	共催 いなべ市教育委員会		
③	テーマ「化石が語る 太古の三重ーミエゾウ・トバリユウがやってくる！ー」	会期 平成19年8月18日(土)～9月2日(日)	場所 津市芸濃総合文化センター
	共催 津市教育委員会		
④	テーマ「となりにある自然をさがそうー伊賀の先人がみた自然のすがたー」	会期 平成19年10月3日(水)～10月28日(日)	場所 上野歴史民俗資料館
	共催 伊賀市教育委員会・(財)伊賀市文化都市協会		
⑤	テーマ「太古の三重・発見ものがたりー三重でみつけた巨大恐竜とゾウの謎ー」	会期 平成19年10月6日(土)～10月14日(日)	場所 紀宝町生涯学習センター
	共催 紀宝町教育委員会		

[平成20年度]

①	テーマ 「生きもの探検隊！～のぞいてみよう 山・川・里のふしぎ～」
会期	平成20年6月27日(金)～7月20日(日) 場所 菰野町図書館
共催	菰野町教育委員会
協力	ございしょ自然学校
②	テーマ 「三重のおもちゃたち～素朴でどこか懐かしい郷土玩具の集い～」
会期	平成20年7月5日(土)～9月7日(日) 場所 四日市市立博物館
共催	四日市市立博物館
③	テーマ 「ようこそ！トバリユウの時代へ～恐竜たちがいたころへタイムスリップ～」
会期	平成20年8月23日(土)～9月2日(火) 場所 名張市総合福祉センター
共催	名張市教育委員会
④	テーマ 「いにしへの風景～三重の旅といとなみ～」
会期	平成20年11月1日(土)～11月30日(日) 場所 松浦武四郎記念館
共催	松浦武四郎記念館
⑤	テーマ 「ようこそ！トバリユウの時代へ～恐竜たちがいたころへタイムスリップ～」
会期	平成20年11月8日(土)～12月7日(日) 場所 尾鷲市立中央公民館
共催	尾鷲市教育委員会
⑥	テーマ 「ようこそ！トバリユウの時代へ～恐竜たちがいたころへタイムスリップ～」
会期	平成21年1月17日(土)～2月1日(日) 場所 伊勢市ハートプラザみその
共催	伊勢市教育委員会

[平成21年度]

①	テーマ 「伊賀のとおきのおきの自然～秘蔵の国の魅力～」
会期	平成21年7月11日(土)～8月9日(日) 場所 上野歴史民俗資料館
共催	伊賀市教育委員会・(財)伊賀市文化都市協会
協力	三重県上野森林公園・伊賀ふるさとギフトネットワーク・三重県立博物館・サポートスタッフ
②	テーマ 「鈴鹿の自然、再発見！～山・里・海の生きものたんけん隊～」
会期	平成21年8月27日(木)～9月13日(日) 場所 鈴鹿市立図書館
共催	鈴鹿市環境部
協力	三重自然誌の会・三重昆虫談話会・きのこウォッチングクラブMIE・三重クモ談話会・日本野鳥の会三重県支部・三重県立博物館サポートスタッフ
③	テーマ 「巡礼の道～伊勢参宮と熊野詣～」
会期	平成22年1月30日(土)～2月14日(日) 場所 熊野市文化交流センター
共催	熊野市教育委員会・三重県立熊野古道センター・熊野古文書同好会・三重大学人文学部伊勢湾・熊野地域研究センター
協力	東紀州観光まちづくり公社・熊野学研究会・語り部友の会
④	テーマ 「むかし、鈴鹿にゾウがいた～御幣川ゾウ足跡化石調査から～」
会期	平成21年9月1日(火)～9月10日(木) 場所 鈴鹿市役所市民ギャラリー
共催	鈴鹿市文化振興部文化課 協力 滋賀県足跡化石研究会・名古屋地学会

[平成22年度]

①	テーマ 「水の恵みとゆくえ 暮らしと自然の関わりから考えてみよう！」
会期	平成22年7月17日(土)～8月22日(日) 場所 松阪市文化財センター
共催	松阪市・松阪市教育委員会・明和町
②	テーマ 「暮らしの道具 いま・むかし」
会期	平成23年1月22日(土)～2月20日(日) 場所 ふるさと多度文学館
共催	桑名市教育委員会・ふるさと多度文学館・桑名まちかど博物館・いなべまちかど博物館
協力	桑名市立多度東小学校・多度南小学校・多度西小学校・多度中小学校・多度北小学校

[平成23年度]

①	テーマ 「速報展 化石がでたゾ！ーみんなでしらべた新県立博物館建設地ー」
会期	平成23年7月12日(火)～7月31日(日)
場所	三重県総合文化センター・県立図書館
共催	三重県立図書館

②テーマ「くらしの道具 いま・むかし」

会 期 平成24年1月21日(土)～2月26日(日) 場 所 伊勢市立小俣図書館
共 催 伊勢市教育委員会・伊勢まちかど博物館・伊勢まるごと博物館ネットワーク会議
協 力 伊勢市立小俣小学校・明野小学校

[平成24年度]

①テーマ「海の恵みとにぎわい—英虞湾と熊野灘から—」

会 期 平成24年7月25日(水)～9月2日(日) 場 所 志摩市歴史民俗資料館
共 催 志摩市教育委員会

3.12 県民・利用者との意見交換

1) みんなでつくる博物館・こども会議

①みんなでつくる博物館会議

みんなでつくる博物館会議は、新県立博物館の活動や運営に対する意見をいただくことで、県民のみなさんが新県立博物館づくりに参画する場として、平成21年度から開催し、開館後も継続して実施している。整備段階においては、会議は年に1回開催する本会議とテーマや対象者を絞って意見を聞く分科会を設けて実施した。なお、平成24・25年度は、MMMプロジェクトの一環として実施した。

[平成21年度]

全体会 期 日 平成22年1月30日(土) 場 所 三重県総合文化センターセミナー室A・B

[平成22年度]

全体会 期 日 平成23年2月13日(日) 場 所 三重県総合文化センター大・中研修室

分科会 期 日 平成22年8月8日(日) 場 所 松阪市文化財センター

期 日 平成23年1月30日(日) 場 所 ふるさと多度文学館

[平成23年度]

全体会 期 日 平成24年2月19日(日) 場 所 三重県総合文化センター

分科会 期 日 平成23年7月18日(月・祝) 場 所 三重県総合文化センター

期 日 平成24年1月30日(日) 場 所 ふるさと多度文学館

②こども会議

新県立博物館が、子どもたちが何度でも行きたくなるような博物館になるよう、みんなでつくる博物館の分科会として、こども会議を平成21年度から開催し、開館後も継続して実施している。当初は「新博ティーンズプロジェクト」や「博物館きわめるプロジェクト」などに参加した子どもたちが、感じたことや考えたことを発表し、大人も交えて、新県立博物館でやってみたいことなどを話し合った。なお、平成24・25年度は、MMMプロジェクトの一環として実施した。

[平成21年度]

期 日 平成21年11月8日(日) 場 所 三重県総合文化センター

[平成22年度]

期 日 平成22年11月28日(日) 場 所 三重県総合文化センター

[平成23年度]

期 日 平成23年12月18日(日) 場 所 三重県総合文化センター

2) 博物館きわめるプロジェクト

平成21・22年度「博物館ってどんなところ？」をメインテーマに、地域・県内博物館と連携して、小学校高学年の子どもを対象としたワークショップを開催し、博物館を知るプログラムの開発に役立てるために実施した。また、平成21年度は、前日などに連携機関と企画連携ラボを実施し、平成22年度には、三重県立博物館のサポートスタッフと協働し、事前研修会とサポートスタッフ企画講座を実施した。

[平成21年度] 年度テーマ「モノってなあに？」

①「本物に出会ったドキドキを誰かに伝えよう」

期 日 平成21年9月26日(土) 場 所 松阪市文化財センター
講 師 竹内伸子(絵手紙作家) 連 携 松阪市文化財センター

②「本物に出会ったドキドキを誰かに伝えよう」

期 日 平成21年11月1日(日) 場 所 史跡旧崇廣堂(伊賀市)
講 師 塩瀬隆之(京都大学総合博物館准教授) 連 携 伊賀流忍者博物館・芭蕉翁記念館

③「物の語りを聞く-お茶箱プロジェクト」

期 日 平成21年11月21日(土) 場 所 六華苑(桑名市)
講 師 佐藤優香(国立歴史民俗博物館助教) 連 携 桑名市博物館

[平成22年度] 年度テーマ「展示って何？」

① 事前研修会

期 日 平成22年10月23日(土) 場 所 三重県立博物館
講 師 染川香澄(ハンズ・オン プランニング代表)

② 「ふでばこてらん会」

期 日 平成22年11月7日(日) 場 所 三重県立博物館
講 師 佐藤優香(国立歴史民俗博物館助教)

③ 「ワクワク博物館のつくりかた」

期 日 平成22年12月5日(日) 場 所 三重県立博物館・津市津偕楽公園
講 師 塩瀬隆之(京都大学総合博物館准教授)

④ サポートスタッフ企画「正月飾りづくり」

期 日 平成22年12月18日(土) 場 所 三重県立博物館
講 師 サポートスタッフ、当館職員

3)新博ティーンズプロジェクト

平成21年度から、新県立博物館開館後の子どもたちの参画の場や、子どもたちの思いの反映を課題に、現場研修やワークショップなどを通じて「博物館とは？」ということを共有しながら、子どもたちの新博物館への思いをかたちにしていくプロジェクトを実施した。なお、平成24年度はMMMプロジェクトの一環として実施した。

プロジェクトリーダー役 嵯峨創平(NPO法人環境文化のための対話研究所代表)

応 援 布谷知夫(滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員)、染川香澄(ハンズ・オン プランニング代表)、中西紹一(有限会社プラス・サーキュレーション・ジャパン代表)

[平成21年度]

- 8月8日(土) 第1回 オリエンテーション(わたしたちにとって博物館って?)
- 8月22日(土) 第2回 滋賀県立琵琶湖博物館見学ツアー(博物館ってどんなところ?表も裏も見よう!)
- 9月19日(土) 第3回 兵庫県立考古博物館見学ツアー(博物館ってどんなところ?調べてみよう!)
- 10月3日(土) 第4回 ティーンズ・ワークショップI(行ってみたい博物館を考えよう!)
- 10月31日(土) 第5回 " II(どんな博物館が欲しいか考えてみよう!その1)
- 11月7日(土) 第6回 " III(どんな博物館が欲しいか考えてみよう!その2)
- 11月28日(土) 第7回 こども会議

[平成22年度]

家族や友だち、学校などのグループで「おとなになっても残しておきたい地域の宝・魅力さがし」を実施。

- 7月11日(日) 調査方法についての説明会(三重県立博物館)

- 7月後半～10月上旬 学芸員と一緒に、各地で調査を実施
- 10月17日(日) 調査成果発表・交流会(三重県総合文化センター)

[平成23年度]

三重県内の地域性を表しているお雑煮をテーマに子どもたちと調査を実施。

- 県内の小学校3・4年生を中心に自宅のお雑煮調査を呼びかけ、調査カード約3,500枚を集約。
- 2月5日(日)・12日(日) 集約した調査カードをもとに、三重県内のお雑煮マップ作成
- 2月26日(日) 成果発表・お雑煮交流会(三重県総合文化センター)

4) 三重のくらしの写真収集プロジェクト

県民のみなさんに協力を呼びかけ、家庭や地域に残されている三重のくらしに関する一昔前の写真を収集。(平成23年10月～)(写真提供者数 100名(概算))

また、写真募集を呼びかける写真パネル展を県内5ヶ所で開催。関連行事として子ども対象のワークショップを実施した。集まった写真は、データベース化して閲覧できるようにするとともに、基本展示の「くらしと自然」コーナーにおいて、県民のみなさんとともに進めた資料収集、展示づくりの成果として紹介。平成24年度にもMMMプロジェクトとして継続して実施した。

[写真パネル展の実施箇所(県内5ヶ所)]

- ・三重県総合文化センター(平成23年10月12日(水)～10月30日(日))1,035名来館
- ・名張市立図書館(平成23年11月15日(火)～11月24日(木))304名来館
- ・三重県立熊野古道センター(平成23年11月26日(土)～12月11日(日))3,289名来館
- ・桑名市 六華苑(平成23年12月14日(水)～12月25日(日))507名来館
- ・伊勢市立小俣図書館(平成24年1月21日(土)～2月26日(日))5,038名来館

[関連事業 ワークショップ]

- ・写真ワークショップ「写真の原点『カメラオブスクラ』をつくろう」

期日 平成23年10月16日(日) 場所 三重県生涯学習センター 講師 松原 豊(写真師) 参加30名

5) サポートスタッフとの意見交換

サポートスタッフは、県民のみなさんが三重県立博物館の活動に主体的に協働・参画することを通じ



こども会議



サポートスタッフ干潟の観察会



みんなで作る博物館会議



博学連携シンポジウム

て、博物館機能の充実・強化を図るとともに、活動するみなさんの自己実現および相互交流を促進し、地域文化を支え、次世代に継承していく活動を推進することを目指して、平成18年度から募集、活動を開始した。新県立博物館に向けた先行的な取組として、学芸員とともに博物館事業・フィールドワークなどへ協力、各自の興味関心に沿った9つの分野別「グループ活動」（サポスタ情報局、おもしろ博物館づくり、化石・鉱物、生きもの、染織、民俗、歴史、みんなの企画局、ユニバーサル・ミュージアムの9グループ）などを行い、平成25年度末の参加者数は小学生から80才代の方まで310名に達した。

新県立博物館における県民参画組織の最も重要なパートナーのひとつとして、計画・構想段階から意見交換を継続し、特に平成25年度には、新県立博物館の開館に向けて、新しいサポートスタッフ活動のあり方を議論する場として有志メンバーと学芸員による「サポスタ発展形に向けた検討会」を月1回開催して、運営の基盤づくりを進めた。開館後は、ミュージアム・パートナーとして新たな体制を整え、活動を行っている。

6) 三重県博物館協会との連携ワーキング

県内博物館の53機関70施設が加盟する三重県博物館協会の事務局は、三重県立博物館が継続して担当してきたが、加盟館園との一層の連携強化に向けた検討のためのワーキングを設け、県内博物館にとって基盤強化につながるよう持続的な取組を進めていくことをめざして、意見交換会や研究フォーラムなどを開催した。

○研究フォーラム「子どもが主役となる博物館づくりを考える」

期 日 平成23年1月15日(土) 場 所 三重県総合文化センター大研修室

7) 三重県障害者社会参加推進協議会などとの意見交換会

だれもが使いやすい博物館施設・展示等について、平成21年度から三重県障害者社会参加推進協議会やユニバーサルデザインアドバイザー団体との定期的な意見交換を実施し、いただいた意見を建築・展示の設計・施工に反映してきた。

〔平成21年度〕 三重県障害者社会参加推進協議会	① 7月28日(火)	② 9月10日(木)
	③ 3月4日(木)	
ユニバーサルデザインアドバイザー団体	① 8月19日(水)	② 12月11日(金)
	③ 3月25日(木)	
〔平成22年度〕 三重県障害者社会参加推進協議会	① 9月10日(金)	
ユニバーサルデザインアドバイザー団体	① 9月14日(火)	
〔平成23年度〕 三重県障害者社会参加推進協議会	① 9月7日(水)	② 3月16日(金)
ユニバーサルデザインアドバイザー団体	① 3月26日(月)	
〔平成24年度〕 三重県障害者社会参加推進協議会	① 9月5日(水)	② 3月15日(金)
〔平成25年度〕 三重県障害者社会参加推進協議会	① 4月9日(火)	② 9月11日(水)

8) 自然団体との連携・意見交換

毎年、県内の自然系の団体が集まり、活動や地域の自然を紹介する「しぜん文化祭」には、従前より三重県立博物館が参画してきたが、引き続き開催に参画するとともに、新県立博物館に関するシンポジウムの同時開催、展示予定内容の紹介などを行い、意見交換を行った。なお、開館後も継続して参画している。

〔平成21年度〕	期 間	平成22年3月20～21日	場 所	菰野地区コミュニティセンター(菰野町)
〔平成22年度〕		東日本大震災のため中止		
〔平成23年度〕	期 間	平成24年3月24～25日	場 所	鈴鹿市文化会館(鈴鹿市)
〔平成24年度〕	期 間	平成25年3月23～24日	場 所	熊野古道センター(尾鷲市)
〔平成25年度〕	期 間	平成25年10月27日	場 所	桑名市民会館(桑名市)

9) アンケート

関係団体への意見紹介やアンケート・パブリックコメントを踏まえて策定した基本計画、基本構想の公表後、平成21年度以降も、関係団体などとの意見交換に加え、さまざまなアンケートを実施して、県民・利用者みなさんの意見を集約し、新県立博物館の設計・施工や運営の検討に反映した。

①多様な機会を通じた説明、意見交換、アンケートの実施

- ・三重県立博物館の事業や新博物館に向けて開催する事業でのアンケート
- ・他団体が行うイベントでのアンケート
- ・PRキャラバン(公共施設、駅、ショッピングセンターなど)でのアンケート

②全県民を対象とした広聴広報、アンケートの実施

- ・県政一口提案
- ・e-モニターへのアンケート調査
- ・小学校への依頼による小学生対象のアンケート

10) 住民説明会

新博物館建設予定地周辺の4連合自治会(津西地区、北立誠地区、南立誠地区、一身田地区)(地域内居住：約15,000世帯、約38,000人)について、設計・施工にあわせて、住民説明会を開催するとともに、パンフレットなどの各戸回覧を行い、新県立博物館建設へのご理解・協力をお願いした。

3.13 大学との連携協定

1) 三重大学

三重大学とは、三重県の文化振興と文化力の向上に寄与することを目的に、新県立博物館にかかる連携に関する協定を平成21年3月に締結し、連携のあり方などについて定期的に連携協議を行うとともに、基本展示室の展示設計に関する共同研究、大学と博物館の連携のあり方や地域づくりへの関わりなどについて考える博学連携シンポジウム、また、博物館実習受け入れ、大学主催行事への協力などを行った。

平成26年2月26日には、三重大学と相互協力によって三重の自然と歴史・文化などのかけがえのない地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに寄与することを目的とする相互協力協定を締結した。

①主な連携事業

○共同研究(平成22～24年度)

- ・「御師屋敷の建築・情景復元調査研究」(人文系)
- ・「伊勢湾・熊野灘の展示設計に関する調査・研究」(自然系)
- ・「祇川流域研究～祇川ハンドブックの作成と展示設計への展開～」(総合系)

○博学連携シンポジウム(平成21～24年度)

- | | | |
|-----|-----|--------------------------------------|
| 第1回 | テーマ | 「文化力・地域の活性化と大学の役割」 |
| | 期日 | 平成21年10月29日(木) 場所 三重大学講堂(三翠ホール) |
| 第2回 | テーマ | 「博物館と大学の連携により進める人づくり」 |
| | 期日 | 平成21年11月15日(日) 場所 三重県教育文化会館多目的ホール |
| 第3回 | テーマ | 「文化力と地域の活性化を拓く博学連携」 |
| | 期日 | 平成21年12月5日(土) 場所 三重大学講堂(三翠ホール) |
| 第4回 | テーマ | 「博物館・大学・県民がつくる学びの輪」 |
| | 期日 | 平成22年12月4日(土) 場所 アスト津 アストホール |
| 第5回 | テーマ | 「三重の近代史から地域の明日を探る」 |
| | 期日 | 平成23年11月19日(土) 場所 四日市市総合会館 視聴覚室 |
| 第6回 | テーマ | 「志摩の自然を活かす～地域と大学と博物館の連携から～」 |
| | 期日 | 平成24年8月25日(土) 場所 志摩市磯部生涯学習センター多目的ホール |

- 教育学部との博物館を活用した人材育成プログラムや学校教育教材の開発(平成23年度～)
 - ・博物館資料を用いた学習貸出パッケージの共同研究教
 - ・教育学部小専理科・附属小学校・三重中学校・松阪市立第五小学校・社会教育主事研修などにおける試行授業 ほか
- 博物館実習・インターンシップの受入
- 共催・連携事業
 - ・こども自然科学教室 期 日 平成24年7月31日(火) 場 所 三重大学附属演習林
 - ・青少年のための科学の祭典 期 日(毎年参加) 場 所 三重大学講堂

②相互協力協定

三重県総合博物館と国立大学法人三重大学との相互協力協定書

(目的)

第1条 この協定は、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）と国立大学法人三重大学（以下「大学」という。）が、相互協力によって三重の自然と歴史・文化などのかけがえのない地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに寄与することを目的とする。

(相互協力事項)

第2条 博物館と大学は、次に掲げる事項について相互に協力する。

- (1) 地域資源に関する研究とその成果の発信に関すること
- (2) 地域が主体となった地域資源の保存及び活用を支援すること
- (3) 地域資源を活かせる人材の育成に関すること
- (4) 両者が有する資産の相互利用に関すること
- (5) 他の博物館や大学及び関係団体との連携に関すること
- (6) 前各号に掲げるもののほか、目的に資すること

(連絡推進会議)

第3条 本協定の目的達成に向けた連携の協議機関として、連絡推進会議を設置する。

2 博物館及び大学の積極的かつ円滑な連携を図るため、連絡推進会議の事務局として両者に窓口を設置する。

(有効期間)

第4条 本協定の有効期間は、協定締結日から3年間とする。ただし、有効期間満了の3カ月前までに、博物館及び大学のいずれかから申し出がない場合には、更に3年間更新するものとし、以後も同様とする。

(協議)

第5条 本協定書に定める事項のほか、相互協力の細目その他必要な事項については、両者が別途協議して定めるものとする。

本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、両者が署名の上、各1通を保有する。

平成26年 2月26日

三重県津市広明町13番地

三重県

三重県知事 鈴木 英敬

三重県津市栗真町屋町1577

国立大学法人三重大学

学長 内田 淳正

2) 皇學館大学

皇學館大学とは、教員と学芸員による共同研究をはじめ、学生への人材育成支援など、お互いの知的資源を活かし三重や地域へ貢献することを目的に、平成24年12月25日に連携に関する覚書を締結した。

展示設計・製作にかかる協力や学芸員実習の受入などの連携を進めるとともに、相互協力協定の締結に向けて検討を進め、平成26年2月26日には、三重の地域振興のため、双方の知的資産を活用して連携し、三重に関連する地域資源を探求・保存継承・活用発信を行うとともに、地域に伝わる伝統や文化を尊重し、次世代に活躍する人材を育成する活動に、協働して取り組むことを目的とする相互協力協定を締結した。

①相互協力協定

三重県総合博物館と皇學館大学との相互協力協定書

(目的)

第1条 皇學館大学と三重県総合博物館は、三重の地域振興のため、双方の知的資産を活用して連携し、三重に関連する地域資源を探求・保存継承・活用発信を行うとともに、地域に伝わる伝統や文化を尊重し、次世代に活躍する人材を育成する活動に、協働して取り組む。

(連携・協力事項)

第2条 本協定による連携項目は次の通りとする。

- (1) 双方の知的資産を活用し、三重に関連する地域資源の探求・保存継承・活用発信を行うこと
- (2) 双方の知的資産、および三重に関連する地域資源を活用し、次世代を育成する活動を行うこと
- (3) 双方が持つ知的資産を、相互に利用しやすくする取組を実施すること
- (4) 他大学や園館、および関連ある団体とも連携を推進していく取組を実施すること
- (5) その他、両者が必要と認めること

(連絡推進会議)

第3条 前条に定める項目を円滑かつ効果的に進めるために、両者に連絡調整の窓口を設置し、両者が協議するための場として連絡推進会議を開催する。

(経費)

第4条 第2条に定める項目の実施に要する経費は、両者の協議により決定する。

(有効期間)

第5条 本協定の有効期間は、協定締結日から3年間とする。ただし、有効期間満了の3カ月前までに、両者のいずれからも協定の終了又は見直しの申し出がない場合には、さらに3年間更新するものとし、以後も同様の取り扱いとする。

(協議)

第6条 本協定書に定めのない事項については、両者が別途協議して定めるものとする。
本協定の締結を証するため、本書2通を作成し、記名押印の上、各自その1通を保有するものとする。

平成26年 2月26日

三重県津市広明町13番地
三重県
三重県知事 鈴木 英敬

三重県伊勢市神田久志本町1704番地
皇學館大学
学長 清水 潔

3.14 企業との連携

三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている県内企業や団体、NPOといった民間部門は、新県立博物館にとって欠かせない重要なパートナーである。連携にあたっては、一方的な協力依頼ではなく、県民・利用者、企業・団体、博物館それぞれにとってメリットとなるよう、寄付や協賛などへの協力依頼にとどまらず、展示や各種事業への参画や、広報面での協力などといった活動や運営に関する連携にも積極的に取り組んだ。特に、開館前年の平成25年度には、想定される連携メニューを記載したパンフレットを作成し、随時企業訪問するとともに、企業が多く集まるイベントへの参加や、商工団体などが主催する各種会合での説明を行うなど、広く参画を呼びかけたところ、広報・誘客面での協力や交流展示などの打診、

寄付・企業パートナーシップ会員への申し込みをいただいた。

①展示関係での連携

- ・協働での企画転移・交流展示の開催、資料の寄贈・寄託など

②イベント関係での連携

- ・博物館や企業事業所などでの研修会や講演会などの各種事業の実施など

③運営関係での連携

- ・ミュージアムショップの商品開発や商品提案、展示室などの備品や材料などの提供など

④広報、誘客関係での連携

- ・店舗などでのポスター・チラシの掲示、従業員の福利厚生や顧客サービスとしての博物館利用など

⑤資金的支援関係

- ・新県立博物館の活動に対する寄附
- ・企業パートナーシップ(一定額の協賛で、新県立博物館の利用特典を受ける制度)、コーポレーション・デー(任意の日の一定額の協賛により、その日の来館者全員の基本展示観覧料が無料となる制度)への参加
- ・企画展示や各種事業の実施に対する協賛

3.15 活動と運営のまとめ

平成21年度から毎年、その年度の新県立博物館の整備・開館に向けた検討や取組の進捗状況を「新県立博物館の活動と運営～ともに考え、活動し、成長する博物館に向けて～」Vol. 1～5としてとりまとめ、県議会をはじめ、県民のみなさんに公表してきた。

平成21年度	新県立博物館の活動と運営Vol. 1 (最終報告)	平成22年 3月
平成22年度	新県立博物館の活動と運営Vol. 2 (最終報告)	平成23年 3月
平成23年度	新県立博物館の活動と運営Vol. 3 (最終報告)	平成24年 3月
平成24年度	新県立博物館の活動と運営Vol. 4 (最終報告)	平成25年 3月
平成25年度	新県立博物館の活動と運営Vol. 5 (最終報告)	平成26年 3月

4 開館に向けた取組

4.1 MMMプロジェクト(みえ マイ ミュ ジアム プロジェクト)

新県立博物館は、「みんなで作る博物館」「ともに考え、活動し、成長する博物館」をコンセプトに掲げ、博物館の活動や運営におけるさまざまな場面で、県民・利用者のみなさんに参加・参画いただくことで、“わたしの博物館”と親しみを持っていただけるようにしていきたいと考えてきた。

その取組の一つとして、開館に向けたさまざまな活動に、県民・利用者のみなさんに自ら携わっていただくことで、新県立博物館に思い入れを持っていただけるようなプロジェクト(みえ マイ ミュージアム プロジェクト…略して「MMMプロジェクト」)を平成24年4月から開始し、のべ約9,000人に参加いただいた。

1) 新県立博物館みりよく発信隊

MieMuの開館時期や楽しみ方などについて、口コミで広めたり、ブログやツイッターで発言したり、お店や企業のエントランス等でポスターを貼ったりするなどして、新県立博物館の広報・宣伝をしていただける個人や法人を登録。平成24年4月27日(金)に募集を開始し、平成26年4月までに160名が登録。

2) 建設現場見学会「ここまで、できた！新県立博物館」

博物館建設地で現場見学会を開催。あわせて、工事中に建設現場から産出した化石の解説も実施。平成24年10月14日(日)に開催し、78名の参加。このほかにも複数回の見学会を開催した。

3) みんなで作る博物館会議「こども会議」

子どもたちと、新しい博物館の建設現場を探検したり、「こども体験展示室」で展示予定の三重に関

するクイズを考えたり、三重の“すごいこと”や“おもしろいこと”を話し合い、当館で行っていく展示やイベントを一緒に考える場として実施。

- ・平成24年度 11月4日(日)に開催し、子ども60名(大人30名)が参加。
- ・平成25年度 9月8日(日)に開催し、子ども55名が参加。

4) 三重のくらしの写真収集プロジェクト

平成23年度から引き続き、平成24年度にもMMMプロジェクトとして、三重のくらしの写真収集プロジェクトを継続実施し県内5ヶ所で写真パネル展を開催した。(平成24年11月～)(写真提供者50名(概算))
[写真パネル展の実施箇所(県内5ヶ所)]

- ・熊野市紀和鉱山資料館(平成24年11月2日(金)～11月25日(日))200名来館
- ・アピタ伊賀上野店(平成24年12月1日(土)～12月9日(日))800名来館
- ・松阪市文化財センター(平成24年12月12日(水)～平成25年1月10日(木))421名来館
- ・四日市ユーユー・カイカン(平成25年1月18日(金)～1月31日(木))3,526名来館
- ・志摩市歴史民俗資料館(平成25年2月13日(水)～2月27日(水))633名来館

5) おせち料理プロジェクト

三重県内のおせち料理をテーマに、子どもたちと調査(平成24年12月)。2,794枚の調査カードが集まり、調査の成果は、博物館の資料として大切に保存し、「こども体験展示室」で紹介。また、平成25年3月3日には交流会を開催。(調査票提出者2,794名、交流会参加者56名)。

6) みんなでつくる博物館会議

何度でも行きたくなるような楽しい博物館とするために、県民・利用者みなさんから意見をいただく場「利用しやすい博物館にするために～あなたと博物館の関わり方について～」をテーマとして実施。

- ・平成24年度は平成25年2月10日(日)に開催し、61名が参加。
- ・平成25年度は平成25年11月17日(日)に開催し、54名が参加。

7) 愛称の募集

新県立博物館が目指す姿のイメージを伝えるとともに、“わたしの博物館”さらには“みんなの博物館”として親しみや愛着を持っていただけるような愛称を募集。

全国に公募したところ1,061件(592人)の応募があり、松阪市在住の方が応募した「MieMu(みえむ)」に決定し、平成25年8月12日(月)にテーマカラー(オレンジ)、コミュニティシンボル(ミエゾウ)・ロゴマークとともに発表。

8) 思い出ミュージアム

新県立博物館の外壁に、好きな絵や文字を描いたタイルを貼り付けるプロジェクトを実施。県内5ヶ所(8回)で開催し、1,693人が参加。(タイル枚数1,023枚)

平成25年	5月6日(月・祝)(当館)	参加者：307人(開館1年前イベントとして実施)
	8月25日(日)(当館)	参加者：375人
	9月23日(月・祝)(県伊勢庁舎)	参加者：29人
	10月27日(日)(県四日市庁舎)	参加者：55人
	11月24日(日)(県伊賀庁舎)	参加者：47人
	12月15日(日)(当館)	参加者：435人
平成26年	1月13日(月・祝)(県尾鷲庁舎)	参加者：24人
	1月26日(日)(当館)	参加者：421人

9) いわしプロジェクト

基本展示室の「東紀州・熊野灘の自然コーナー」に展示するマイワシの大群をつくるプロジェクトを実施し、約3,000人が参加。

10) みんなが主役！MieMu CMプロジェクト

県民の方々に出演いただいて開館をPRするCMを制作した。県内各地と当館で撮影し、テレビCMやインターネット、館内モニターなどで放映。また、平成26年3月21日(金/祝)には参加者を募集して当館で撮影し、約150名が参加。

4.2 館長出張講演会

新県立博物館について県民のみなさんに知っていただくとともに、広く意見をいただくため、館長自らが広報マンとなって各地で「出張講演会」を実施した。平成23年11月の募集開始から平成25年度まで、32回開催した。

〔平成23年度〕	開催	6回	場所	津市・松阪市・鈴鹿市・四日市市	参加者	181名
〔平成24年度〕	開催	17回	場所	津市・鈴鹿市・いなべ市・尾鷲市・伊勢市・京都府亀岡市	参加者	761名
〔平成25年度〕	開催	9回	場所	津市	参加者	320名

4.3 開館1年前イベント

開館まで約1年となった平成25年5月に、「開館1年前イベント」を以下のとおり開催した。

開催日時 平成25年5月6日(月・祝)

開催場所 新県立博物館及び三重県総合文化センター中ホール

開催内容

(1) 午前の部(10時～12時 会場：当館) 参加者数：307人

○思い出ミュージアムの実施(上述)

(2) 午後の部(13時～17時 会場：三重県総合文化センター中ホール) 参加者数：650人

○開館1年前大発表会

- ・オープン日、開館時間、休館日、観覧料など利用情報の発表
- ・基本展示(常設展示)の内容紹介
- ・開館初年度(平成26年度)の企画展示の内容紹介
- ・養老孟司(東京大学名誉教授)講演会及び博物館長との対談
講演「三重の新県立博物館への期待」
対談「博物館でできること」
- ・博物館の館内見学(希望者のみ)

4.4 開館前行事と来館者向け印刷物

1) 開館前特別ワークショップ「100年残す！？三重のモノ、コト、ワタシ」

県民・利用者のみなさんに、開館前の今しかできない体験をしていただくことを通じて、博物館を思い出の場とする取組を「こども会議」のスピンオフプロジェクトとして実施した。博物館の使命でもある「残す」という営みを、自分の体験と重ね合わせて考えていただくため、収蔵庫や展示ケースなど、開館後は立ち入れないエリアも含め、博物館の建物全体を存分に活用して開催した。見学者も含め41名参加。

期 日 平成25年8月24日(土) 場 所 新県立博物館企画展示室ほか

2) シンポジウム「伊勢をめぐる人・モノ・文化の交流」

三重の地は東西交流の結節点であり、全国から大勢の人々がお伊勢参りに訪れ、人やモノ、文化の交流が盛んに繰り広げられた。このような伊勢をめぐる交流を物語るさまざまな資料を取り上げ、伊勢の魅力にせまるシンポジウムを三重県立美術館と齋宮歴史博物館との共催により開催した。119名参加。

期 日 平成25年10月6日(日) 場 所 三重県総合文化センター文化会館小ホール

- 基調講演 「伊勢参詣曼荼羅の世界」 西山克(関西学院大学文学部教授)
- パネル報告 「齋宮跡のひらがな墨書土器が語る都との交流」 榎村寛之(齋宮歴史博物館学芸課長)
- 「伊勢地方と曾我蕭白」 道田美貴(三重県立美術館学芸員)
- 「参宮者をもてなした江戸時代の伊勢」 太田光俊(三重県立博物館学芸員)

3) 来館者向け印刷物

開館にむけて、三つ折りの館内案内パンフレット(日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語)、平成26年度年間スケジュール、博物館要覧、並びに、基本展示の展示案内、企画展・トピック展の図録を準備した。これらは、テーマカラーのオレンジ色を基調とし、統一したデザインコンセプトに基づいて作成した。

4.5 内覧会

平成26年4月19日(土)の一般公開(グランドオープン)に先立ち、博物館の整備にあたってお世話になった方々など関係者を招いて以下のとおり内覧会を開催した。

- ・平成26年4月6日(日)14時～16時 サポートスタッフ、みりよく発信隊 約370名
- ・平成26年4月13日(日)10時～12時 地元住民 約580名
- 14時～16時 教育関係者、まちかど博物館長 約700名
- ・平成26年4月15日(火)14時～16時 市町文化行政担当者、建築関係、県外公文書館、各種協議会・
検討会等委員、市町商工会、市町観光協会、旅行代理店等
約540名
- ・平成26年4月16日(水)10時～12時展示協力者等 約200名
- 14時～16時展示協力者等 約200名

4.6 開館記念式典

平成26年4月19日(土)の一般公開(グランドオープン)に先立ち、前日の4月18日(金)に以下のとおり開館記念式典を開催した。

開催日時 平成26年4月18日(金)

開催場所 三重県総合博物館及び三重県総合文化センター中ホール

開催内容

- 1 開館記念式典(14時～14時50分 会場：三重県総合文化センター中ホール)
 - (1) 主催者挨拶 三重県知事 鈴木英敬
 - (2) 来賓祝辞 文部科学省 生涯学習政策局長 清木孝悦
三重県議会 議長 山本勝
 - (3) 来賓紹介等



開館記念式典



テープカット

- (4) 祝電披露等
- (5) 名誉館長委嘱 前三重県知事 野呂昭彦
- (6) 伊勢大神楽 「神来舞(しぐるま)」 伊勢大神楽講社 石川源太夫組
- (7) プレゼンテーション 三重県総合博物館長 布谷知夫

<三重県総合博物館(MieMu)に移動>

2 テープカット(15時～15時20分 会場：当館正面エントランス広場)

三重県総合博物館経営向上懇話会元座長 山田康彦、三重県文化審議会会長 速水亨、三重県町村会会長 谷口友見、三重県市長会会長 田中俊行、文部科学省生涯学習政策局社会教育課長 谷合俊一、三重県総合博物館名誉館長 野呂昭彦、三重県知事 鈴木英敬、三重県議会議長 山本勝、三重県商工会議所連合会副会長(津商工会議所会頭) 岡本直之、三重県商工会連合会会長 藤田正美、三重県中小企業団体中央会会長 佐久間裕之、三重県総合博物館長 布谷知夫

3 内覧会(15時20分～17時 会場：三重県総合博物館)

参加者数：755人(式典参加者)

4.7 オープニングセレモニー

平成26年4月19日(土)の一般公開(グランドオープン)にあたり、以下のとおり、開館セレモニーを実施した。

開催日時 平成26年4月19日(土) 9時～9時15分

開催場所 三重県総合博物館正面エントランス広場

開催内容

- 1 吹奏楽演奏 三重県警察音楽隊
- 2 主催者挨拶 三重県知事 鈴木英敬
- 3 ファンファーレ吹奏 三重県警察音楽隊
- 4 くす玉割り 知事、名誉館長、館長、地元小学生12名

※4月19日(土)来館者数8,973人

5 施設概要

名称 三重県総合博物館(愛称：MieMu(みえむ))
 種別 登録博物館(総合) 開館日 平成26年4月19日
 所在地 〒514-0061 津市一身田上津部田3060
 電話 059-228-2283(代) FAX 059-229-8310
 メール MieMu@pref.mie.jp
 ホームページ <http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/>
 ツイッター @mie_pref_museum
 フェイスブック <https://www.facebook.com/mie.pref.museum>

【敷地】

敷地面積 38,884㎡
 地域地区 第1種低層住居専用地域、第2種住居地域

【建物】

建築面積 6,889㎡
 延床面積 11,705㎡(各階延床積 1階：4,760㎡、2階：2,125㎡、3階：4,637㎡、屋上階：60㎡)
 構造 SRC造一部RC造、免震構造、3階建て

【 設 備 】

(電気設備)

- 受変電方式 架空方式1回線6.6KV引込
- 配電方式 1φ3W210-105V、3φ3W 210V
- 契約想定電力 665KW
- 変圧器容量 2,050kVA
- 非常用発電機 ディーゼルエンジン(燃料：軽油)3φ3W 6.6KV 400KVA
- 太陽光発電 屋上設置 120KW
- その他 情報表示設備、映像音響設備、音声案内設備、震度計測設備

(空気調和設備)

- 熱源方式 地中熱ヒートポンプ+水蓄熱槽、加湿用ガス焚蒸気ボイラー
- 熱源容量 冷却477.6kW、加熱590.4kW、ボイラー容量 換算蒸気量500kg/h
- 空調方式 収蔵庫：単一ダクト定風量方式、展示室：床吹出方式
事務室：電気式パッケージ空調方式
- 換気方式 収蔵庫・展示室：第1種換気、事務室・会議室：全熱交換器(第1種)
- 排煙方式 機械・自動排煙併用方式、自動制御 電子式

(給排水衛生設備)

- 給水方式 上水・雑用水2系統供給方式、上水受水槽8㎡、雑用水受水水槽29㎡
- ガス設備 都市ガス13A 低圧
- 消火設備 収蔵庫：窒素ガス消火設備 その他諸室：屋内消火栓、消火器
- 防犯設備 ITV監視装置、防犯センサー
- 昇降機設備 乗用 1,000kg(15人用)2基(車いす対応)、1,600kg(24人用)1基(車いす対応)、900kg(13人用)1基(車いす対応)、荷物用 4,000kg1基、
エスカレーター 1基

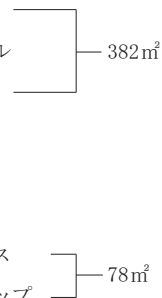
〔主要室の面積〕

3 F

- ①学習交流スペース 586㎡
- ②三重の実物図鑑 126㎡
- ③こども体験展示室 196㎡
- ④自然・民俗・考古資料閲覧室 77㎡
- ⑤古文書・公文書等閲覧室 41㎡
- ⑥美術・古文書資料閲覧室(和室) 20㎡
- ⑦特別閲覧室 14㎡
- ⑧レクチャールーム 127㎡
- ⑨基本展示室 820㎡
- ⑩企画展示室 912㎡
- ⑪展示準備室 150㎡
- ⑫授乳室 20㎡
- ⑬学芸作業室 77㎡
- ⑭共同研究室 22㎡
- ⑮学芸事務室 128㎡
- ⑯県民活動室 24㎡
- ⑰展示テラス 35㎡

2 F

- ⑱正面入り口
- ⑲エントランスホール
- ⑳受付カウンター
- ㉑交流展示室 147㎡
- ㉒交流活動室 49㎡
- ㉓実習室 112㎡
- ㉔飲食・休憩スペース
- ㉕ミュージアムショップ
- ㉖事務室 84㎡
- ㉗館長室 21㎡
- ㉘応接室 33㎡
- ㉙会議室 48㎡
- ㉚救護室 17㎡
- ㉛歴史資料・公文書整理室 48㎡
- ㉜歴史資料・公文書保存処理室 46㎡



1 F

③③ 収蔵庫エリア 2361㎡

美術工芸資料収蔵庫 214㎡

歴史資料・歴史的公文書収蔵庫 411㎡

特別収蔵庫 69㎡

借用資料収蔵庫 40㎡

人文系収蔵庫 前室 81㎡

地学資料収蔵庫 318㎡

生物標本資料収蔵庫 521㎡

大型資料収蔵庫 176㎡

自然系収蔵庫 前室 60㎡

民俗考古資料収蔵庫 238㎡

写真・映像資料収蔵庫 50㎡

液浸標本収蔵庫 67㎡

仮収蔵庫 64㎡

冷凍・冷蔵庫室 15㎡

③④ 資料受入準備室 1・2 55㎡

③⑤ 生物被害処置室 45㎡

③⑥ 荷解室 160㎡

③⑦ トラックヤード 118㎡

③⑧ 地学標本製作室

③⑨ 薄片製作室

④⑩ ドラフト室

④⑪ 化石クリーニング室

④⑫ 液浸・剥製標本製作室 37㎡

④⑬ 飼育・観察室 12㎡

④⑭ 解剖室 16㎡

④⑮ 人文資料整理室 46㎡

④⑯ 植物標本製作室 45㎡

④⑰ 昆虫標本製作室 31㎡

④⑱ 薬品庫 15㎡

④⑲ 科学分析室 1 46㎡

⑤⑰ 科学分析室 2 15㎡

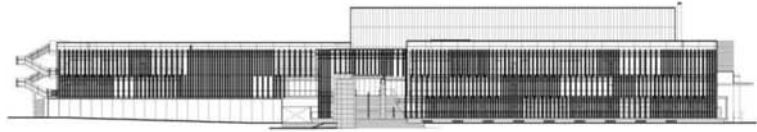
⑤⑱ 保存科学処理室 25㎡

⑤⑲ X線撮影室

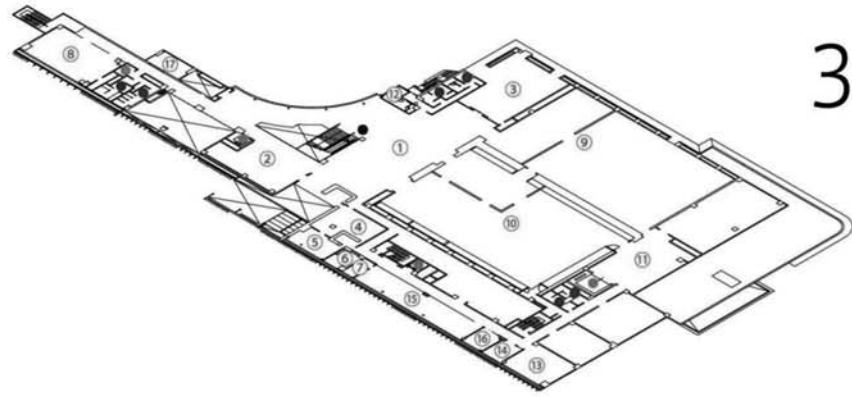
⑤⑳ 写真撮影室 73㎡

⑤㉑ 中央監視室 41㎡

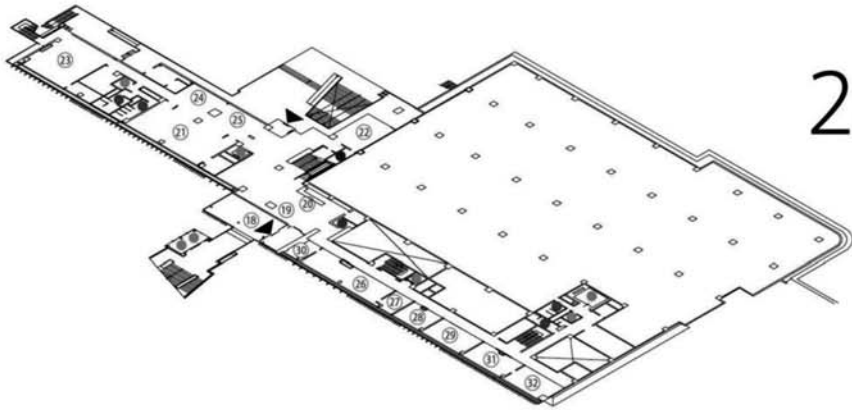
⑤㉒ 守衛室 18㎡



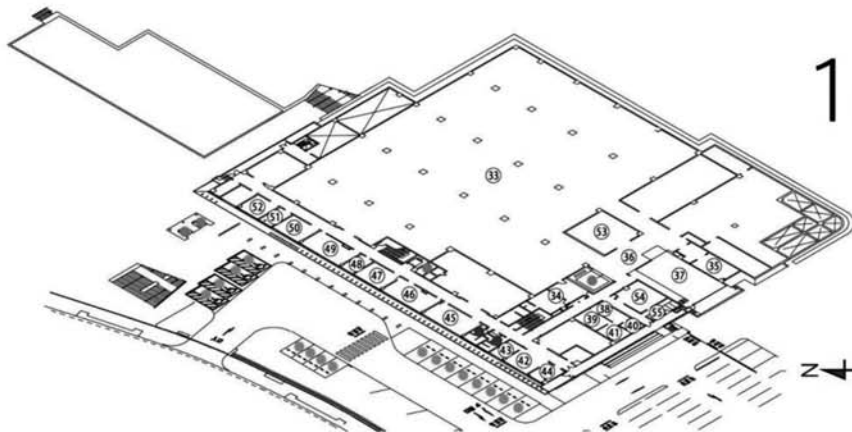
北西立面図



3F



2F



1F

- ▲ 出入口
- ロッカー
- 男子トイレ
- エレベーター
- 女子トイレ
- エスカレーター
- 多目的トイレ
- おもいやり駐車場



旧三重県立博物館



着工時の建設用地



起工式



平成23年4月



平成23年10月



地層・化石調査



平成24年2月



建築現場見学会



平成24年9月



平成24年12月



オープニングセレモニー



三重県総合博物館

II 平成26年度の取組概要

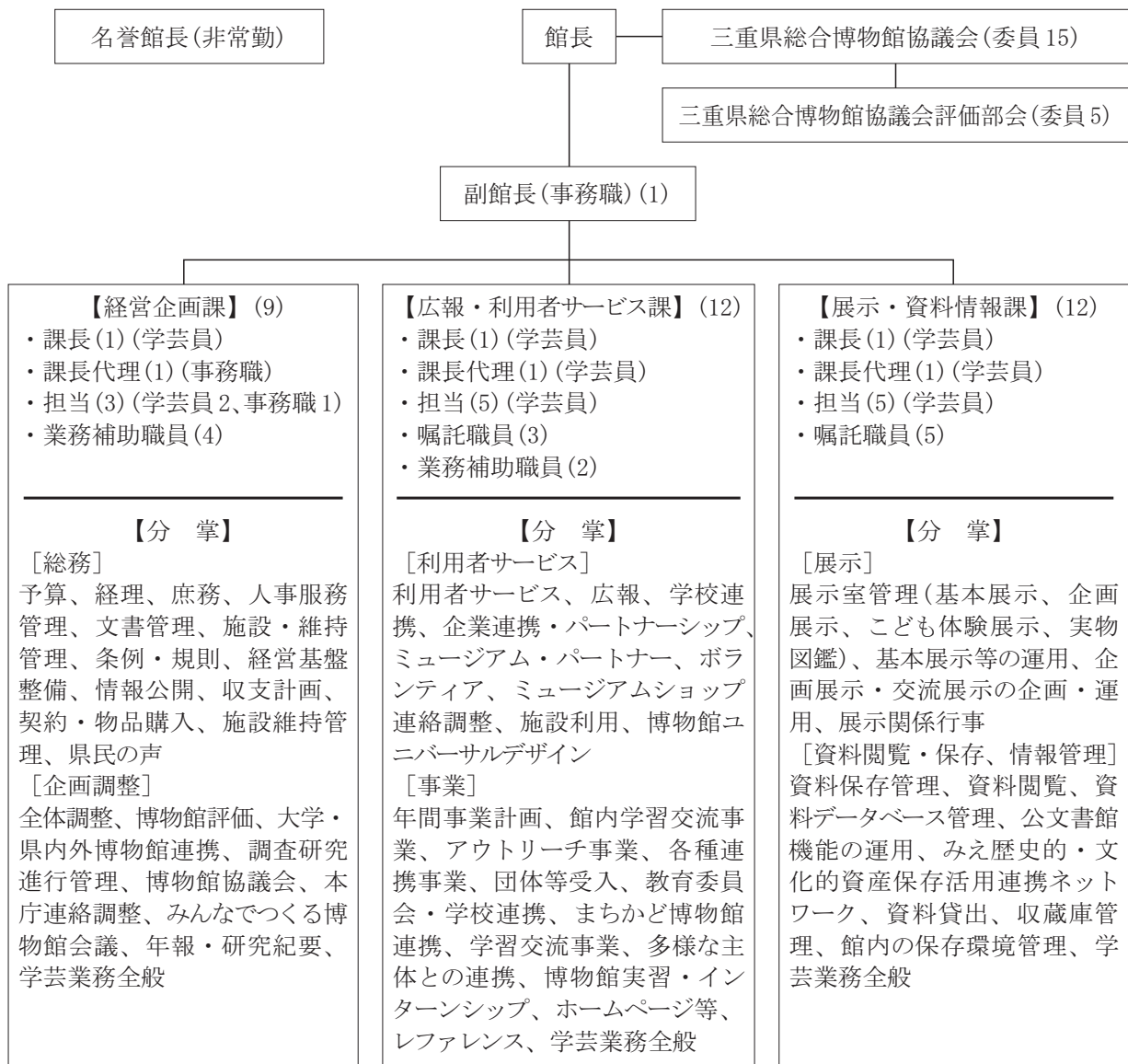
1 運営管理

1.1 事業体系

- 総合博物館管理運営費
 - ・施設維持管理 施設保守、維持 等
- 総合博物館展示等事業費
 - ・調査研究費 総合研究、専門研究、共同研究及等の調査研究活動
 - ・資料収集管理費 資料収集、資料修復、資料保存環境の管理 等
 - ・交流創造活動費 学習交流スペースでのレファレンス活動、ワークショップ 等
 - ・展示企画運用費 各種企画展の開催準備 等
 - ・アウトリーチ活動費 フィールドワーク等の博物館活動を地域との連携により県内各地で実施
 - ・広報宣伝営業推進費 広報宣伝及び企業等への営業活動

1.2 組織体制

1) 組織図・分掌



2) 職員名簿(平成27年3月31日時点)

館長	布谷 知夫	名誉館長	野呂 昭彦
副館長	岡村 順子		
経営企画課		広報・利用者サービス課	展示・資料情報課
課長	杉谷 政樹	課長	天野 秀昭
課長代理	山崎 章弘	課長代理	松本 功
主査	中野 環	主査	大西 到
主査	佐藤 元紀	学芸員	大島 康宏
主査	北村 淳一	学芸員	太田 光俊
主事	田村 香里	学芸員	森田 奈菜
業務補助職員	加藤 美智子	学芸員	中村 千恵
業務補助職員	佐藤 友莉子	嘱託員	山本 伸一
業務補助職員	玉置 紀子	嘱託司書	伊藤 泉子
業務補助職員	畑井 真由	嘱託学芸員	稲垣 玲弥
		業務補助職員	堀江 真季子
		業務補助職員	打田 美紀
		課長	岸田 早苗
		課長代理	瀧川 和也
		主幹	藤谷 彰
		主幹	宇河 雅之
		主査	中川 良平
		主査	間渕 創
		学芸員	門口 実代
		嘱託学芸員	津村 善博
		嘱託学芸員	水谷 憲二
		嘱託員	和田 明子
		嘱託員	井上 有希
		嘱託員	山本 梨加

【職員体制】 常勤職員21(館長1、副館長1、事務2、学芸員17)、嘱託8、業務補助職員6

1.3 運営状況

- ・開館時間 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア]
休館日を除く全日 9時～19時
[展示エリア]
火～金曜日 9時～17時 土日祝日 9時～19時
- ・休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、別途定める日(くん蒸など)
- ・観覧料等 [エントランスエリア・交流創造エリアなど、来館者の活動エリア] 無料
[展示エリア] 下表のとおり

	基本展示	企画展示	セット券	年間パスポート	
当日券	一般	510円	その都度定める	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,640円
	高校生以下	無料	その都度定める (無料を基本)	設定なし	設定なし
	学生(大学、各種専門学校等)	300円	その都度定める (割引を基本)	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,020円
	障がい者及びその付添者	無料	無料	設定なし	設定なし
	学校、児童福祉施設としての利用	無料	無料	設定なし	設定なし
	県民の日の記念事業の日	無料	正規価格	設定なし	—
	家庭の日(毎月第3日曜日)	正規価格の 2割引	正規価格の2割引	正規価格の2割引	—
	団体割引 (20名以上)	正規価格の 2割引	正規価格の2割引	正規価格の2割引	設定なし
前売券	設定なし	正規価格の2割引	正規価格の2割引	設定なし	

1.4 利用者数

平成26年度における当館利用者数は、以下のとおりである。なお、開館日は4月19日であり、平成26年度の開館日数は293日となっている。

また、詳細な利用者統計に関しては、Ⅲ 資料 2 事業成果一覧 に掲載する。

- 1) 入館者数 364,292人 ※博物館への入館者総数(無料スペースのみの利用者を含む)
- 2) 展示観覧者数 306,692人 ※基本展示及び企画展示の観覧者総数(無料観覧者数を含む)
(うち、基本展示184,981人 企画展示121,711人)
[参考(外数)] 交流展示、トピック展示観覧者数 41,267人
- 3) こども体験展示室利用者数 127,673人
- 4) 資料閲覧室利用者数 入室者数 4,259人 資料閲覧者 1,611人
- 5) 学校による利用者数 321校 14,516人(引率者を除く)
- 6) 各種イベント等参加者数 5.3学習支援活動事業に記載

1.5 歳入歳出決算

●歳入

単位：円

【項目】	【平成26年度決算額】
観覧料収入	66,814,450
企業からの協力(企業パートナーシップ等)	6,432,500
施設活用による収入(ミュージアムショップ等)	6,394,612
その他事業関連収入(資料利用収入等)	807,550
公的団体等からの外部資金の獲得	2,200,000
外部資金を活用した基金からの繰入	7,624,000
県費	428,649,896
合計	518,923,008

●歳出

単位：円

【項目】	【平成26年度決算額】
事業費(総合博物館展示等事業費)	120,042,413
維持管理費・一般管理費(総合博物館管理運営費)	126,677,421
人件費(職員・嘱託員・業務補助員)	272,203,174
合計	518,923,008

1.6 三重県総合博物館協議会

1) 目的

三重県総合博物館協議会は、三重県総合博物館の経営や、調査研究、資料の収集・保存、展示やワークショップなどの博物館活動、並びに、博物館活動を通じた人材育成や地域づくりについて、委員の方々に専門的立場や利用者の観点から意見・提言をいただき、博物館の事業推進に活かすことを目的として設置した。

2) 設置根拠

博物館法第20条、三重県総合博物館条例第14条

3) 設置年月日 平成26年4月19日(土)

4) 委員 県内の大学、経済界、報道機関、文化・教育機関、博物館関係者等で構成。

衛紀生 可児市文化創造センター 館長兼劇場総監督

大西かおり NPO法人大杉谷自然学校 校長

岡野友彦 皇學館大学文学部 教授 皇學館大学研究開発推進センター長 佐川記念神道博物館館長

岸本多万重 NHK津放送局 局長

齋藤彰一 株式会社三重銀行 特別顧問

末次秀行 中日新聞社三重総局 総局長

角川咲江 東近江市教育委員会歴史文化振興課 西堀榮三郎記念探検の殿堂 副主幹
 田部眞樹子 NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター 理事長
 中尾正己 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー 代表
 中村忠明 公益財団法人伊賀市文化都市協会 理事長
 西岡慶子 株式会社光機械製作所 代表取締役社長
 福島幸宏 京都府立総合資料館庶務課 新館担当兼歴史資料課行政文書担当 副主査
 森田正美 三重県小中学校長会幹事 津市立育生小学校校長
 山下治子 株式会社アム・プロモーション 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役
 山田康彦 三重大学教育学部 教授 (敬称略：五十音順)

5) 協議会

①第1回 三重県総合博物館協議会

- 1 日時 平成26年9月5日(金)14時～16時
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 衛紀生、大西かおり、岡野友彦、岸本多万重、齋藤彰一、角川咲江、田部眞樹子、中尾正己、中村忠明、西岡慶子、福島幸宏、森田正美、山下治子、山田康彦
- 4 内容
 - (1)館長挨拶
 - (2)環境生活部長挨拶
 - (3)委員紹介
 - (4)三重県総合博物館協議会の設置について
 - ・会長に山田委員、副会長に田部委員を全員一致で選出。
 - (5)三重県総合博物館の活動と運営に関する基本的な考え方について
 - (6)三重県総合博物館の開館以降の事業進捗状況について
 - (7)活動と運営に係る評価について
 - ・三重県総合博物館協議会評価部会設置要項を承認。部会委員として山下委員、中尾委員を選出。
 - (8)開館からこれまでの博物館活動について
- 5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者は6名

②第2回三重県総合博物館協議会

- 1 日時 平成27年3月4日(水)14時～16時30分
- 2 会場 三重県総合博物館レクチャールーム
- 3 出席委員 衛紀生、大西かおり、岡野友彦、岸本多万重、齋藤彰一、角川咲江、田部眞樹子、中尾正己、中村忠明、山下治子、山田康彦
- 4 内容 報告事項
 - (1)前回の協議会で指摘いただいた課題について
 - (2)三重県総合博物館の開館以降の事業進捗状況について
 - 1)展示活動の概要
 - 2)交流創造活動の概要

協議事項

- (1)入館者の確保につながる取組について
 - 1)入館者と企業連携の動向
 - 2)広報の取組
- (2)三重県総合博物館評価部会の結果を受けて
 - 1)平成27年度の評価方法

- 2) 評価項目とモニタリング項目
- (3) 平成27年度の事業計画について
- 5 会議の公開 会議は公開で行い、傍聴者は2名

1.7 三重県総合博物館協議会評価部会

1) 目的

三重県総合博物館協議会の下に、三重県総合博物館の活動と運営に対して評価を実施するために設置。

2) 設置根拠

三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱に基づき設置。

3) 設置年月日 平成26年9月5日

4) 委員

- 亀山裕美子 評価士
- 泰井良 静岡県立美術館 上席学芸員
- 田原直樹 兵庫県立人と自然の博物館 次長
- 中尾正己 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー代表 協議会委員
- 山下治子 株式会社アム・プロモーション 雑誌ミュゼ編集長・常務取締役 協議会委員
(敬称略：五十音順)

5) 第1回三重県総合博物館協議会評価部会

- 1 日時 平成27年2月4日(水)13時～16時30分
- 2 会場 三重県総合博物館会議室
- 3 出席委員 亀山裕美子、泰井良、田原直樹、中尾正己、山下治子
- 4 内容 (1) 委員紹介
 - (2) 三重県総合博物館協議会評価部会の設置について
 - ・ 部会長に山下委員、副部会長に泰井委員を全員一致で選出。
 - (3) 三重県総合博物館の活動と運営の概要について
 - (4) 三重県総合博物館の開館以降の事業進捗状況について
 - (5) 三重県総合博物館の活動と運営に係る評価の仕組みについて

2 調査研究事業

2.1 研究概要

1) 事業の趣旨・目的

博物館の使命やビジョンを達成するため、調査研究方針に基づき、調査研究を推進し、その調査研究の成果を、展示をはじめとする博物館の活用発信活動で活用することによって、人づくりや地域づくりに貢献する。

2) 事業の概要

他の研究機関との連携のもと、多分野の研究領域による総合研究や共同研究、学芸員がそれぞれの専門領域の調査研究を行う専門研究、および公文書館機能として歴史的文化的資産の調査研究活動を行った。

(1) 総合研究

「三重の自然と歴史・文化」について、三重県総合博物館の使命を体現する活動として、地域づくりに貢献する課題を総合的にとらえて研究し、博物館の全学芸員と外部関係者とともに実施する。

開館から当初3年間は、連携協定を結んでいる三重大学と連携し、志摩市域の先志摩半島地域を対象フィールドとして、地域の自然・歴史文化について総合的な調査研究を実施する。その成果は、企画展示や移動展示、研究報告会、シンポジウムなどで発信し、地域づくりに活用できるように取り組むこと

を計画している。

- ・平成26年度は、対象の地域でフィールドワークを中心に予備調査を実施した。

(2) 共同研究

博物館のキラコンテンツであるテーマや大学連携によるテーマなどを、外部の研究者とともに1年から数年間の期間で実施する。

主な実施内容：ミエゾウ化石の研究：三重の名前がついたミエゾウについては、これまでの研究成果に基づき平成26年度に企画展を開催した。

(3) 専門研究

博物館の学芸員が自らの高度な研究能力を維持していくために、専門となる自然や人文、総合分野において実施した。

布谷知夫：利用者の視点を生かした博物館運営の在り方

杉谷政樹：鳥居古墳の石棺・所在場所に関する調査

北村淳一：タナゴ亜科魚類の生態に関する研究

大島康宏：当館ミュージアムフィールドにおける昆虫類のトランセクト調査(全国科学博物館活動等助成事業(平成26年度))

間渕創：自然共生型博物館における野外由来微生物の浮遊真菌濃度予測に関する研究

間渕創：文化財等の保存・展示環境に関する研究

間渕創：文化財等の材質・構造に関する科学的手法による調査・研究

中村千恵：学校への貸し出しパッケージに関する研究

中村千恵：博物館のCI(コーポレート・アイデンティティ)に関する研究

中村千恵：展示観覧者の観覧行動に関する研究

(4) 歴史的文化的資産の調査研究

公文書館機能のための活動として、歴史的公文書をはじめとする歴史的文化的資産の調査及び関係データの収集・整備を行った。

3) 研究成果の刊行

- ・三重県総合博物館研究紀要 第1号
- ・三重県総合博物館資料叢書 No. 01(三重県行政文書 無足人取調帳)
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 開館記念企画展第1弾「MieMu発進！」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 開館記念企画展第3弾
「でかいぞミエゾウ！～化石が語る巨大ゾウの世界～」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 開館記念企画展第4弾「祈りと癒しの地 熊野」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 開館記念企画展第5弾「ふたりのウェディング事情」
- ・展覧会図録 三重県総合博物館 開館記念企画展第6弾「親鸞 高田本山専修寺の至宝」
- ・展覧解説書 三重県総合博物館 トピック展第1弾
「MieMu 誕生物語～三重県総合博物館ができるまで～」
- ・「三重県総合博物館 展示案内」
- ・展示解説パンフレット トピック展「くらしの道具」
- ・「三重・伊勢講のいま 一民俗グループによる調査の概報」

2.2 研究成果一覧

1) 発表論文等

Watanabe, K., S. Mori, T. Tanaka, N. Kanagawa, T. Itai, J. Kitamura, N. Suzuki, K. Tominaga, R. Kakioka, R. Tabata, T. Abe, Y. Tashiro, Y. Hashimoto, J. Nakajima, N. Onikura. 2014.

- Genetic population structure of *Hemigrammocyppris rasborella* (Cyprinidae) inferred from mtDNA sequences. *Ichthyological Research*, 61 : 352-360.
- Huang L, Li J, Kano Y, Sato T, Kitamura J, Shimatani Y, Wu Z, 2014. Microhabitat Use and Population Structure of a Chinese Kissing Loach, *Leptobotia tchangi*, in the North Tiaoxi River, China. *Open Journal of Ecology*, 4 : 337-345.
- 星博幸・田中里志・宇佐美徹・中川良平・津村善博・小竹一之, 2014. 岩石磁気・古地磁気測定から示唆される東海層群のガウス-松山逆転層準. *地質学雑誌*, (120) : 313-323
- 間瀬創・久岡伸功・林良典・犬塚将英, 2015. LED照明を用いた展示ケースにおける温湿度分布とその要因について. *保存科学*, 1 : 193-203.
- 水谷憲二, 2015. 戊辰戦争における奥羽鎮撫総督府の対会津藩戦略の実態—西日本平定過程との比較をもって—. *三重県総合博物館研究紀要*, 1 : 67-85.

2) 著書・編著等

- 北村淳一, 2014. タナゴ類の共存メカニズム三重県の祓川での実態から. *淡水魚研究入門：水中のぞき見学*. 長田芳和編著, pp. 85-95. (分担執筆) 東海大学出版部
- 中村千恵, 2014. 博物館教育史『人文系 博物館教育論』. 青木豊 編, pp. 60-75. 雄山閣.
- 中村千恵, 2015. 博物館の社会的役割—博物館教育論の視点から—『人間の発達と博物館学の課題：新時代の博物館経営と教育を考える』 鷹野光行・並木美砂子・青木豊 編集, pp. 156-168. 同成社.
- 荒武賢一郎・太田光俊・木下光生共編, 2015. 『日本史学のフロンティア 1 (歴史の時空を問い直す)』, 「序章」 pp. 3-6 「〈領主-民間〉関係論の再考」 pp. 47-72. 法政大学出版局.
- 荒武賢一郎・太田光俊・木下光生共編, 2015. 『日本史学のフロンティア 2 (列島の社会を問い直す)』, 「序章」 pp. 3-6. 法政大学出版局.
- 太田光俊監修, 2015. 『丸興山筋記録：江戸時代の由緒記録：鳥羽市河内町丸興山庫蔵寺所蔵』, 読解・編集鳥羽市立図書館古文書解読いろは講座, 鳥羽市教育委員会.

3) 報告・研究ノート等

- 布谷知夫, 2015. 博物館の教育学習活動と展示との関係. *三重県総合博物館研究紀要*, 1 : 1-7
- 布谷知夫・中村千恵, 2014. 報告「博物館の仕事を知ってもらうことを目的とした事業」『博物館学雑誌』, 39(2) : 15-22.
- 中村千恵, 2015. 研究ノート「三重県総合博物館(MieMu)のアイデンティティ—広報を中心に「みんなでつくる」のあり方を探る—」『三重県総合博物館研究紀要』, 1 : 9-12.
- 間瀬創, 2015. 三重県総合博物館保存環境調査(2014). *三重県総合博物館研究紀要*, 1 : 13-22
- 津村善博, 2015. 三重県内7河川の河床礫の礫種組成. *三重県総合博物館研究紀要*, 1 : 25-36
- 中野環, 2015. 三重県総合博物館所蔵 貝類コレクション—シオサザナミ科・キヌタアゲマキ科—. *三重県総合博物館研究紀要*, 1 : 37-49
- 杉谷政樹・間瀬創, 2015. 鳥居古墳の石棺・赤色顔料と若干の問題について—『鳥居古墳』発掘調査報告 補遺—. *三重県総合博物館研究紀要*, 1 : 51-66
- 山内健生・宮本大右・大島康宏・山田勝・揚妻直樹(2014) 本州西部と四国におけるコウモリ寄生ハエ類(クモバエ科, コウモリバエ科)の記録. *倉敷市立自然史博物館研究報告*, 29 : 5-6.
- 布谷知夫, 2014. 地域博物館の社会職責. 2013博物館興地方文化発展. 主編：林秋芳・蔡明志, pp. 25-36. 蘭陽博物館
- 布谷知夫, 2014. みんなの博物館 MieMu. 日本展示学会第33回研究大会資料, pp. 4-5. 日本展示学会.
- 布谷知夫, 2015. 自然史系博物館 研究, ミュージアム・マネジメント辞典, 日本ミュージアムマネジメント学会.
- 布谷知夫, 2015. 地域博物館・郷土博物館・民俗博物館 人材、組織. ミュージアム・マネジメント辞典, 日本ミュージアムマネジメント学会.

- 布谷知夫, 2014. 博物館にとっての自然保護. 地域自然史と保全, (36)2 : 81-82. 関西自然保護機構.
- 布谷知夫, 2015. 博物館にとっての新しい社会的役割. museum2015自己変革する博物館 変化し続ける組織作り要, 旨集, pp. 22-23. Museum2015実行委員会.
- 布谷知夫, 2014. 朝見遺跡(第2次)木製品の樹種同定結果. 朝見遺跡(第1・2次)発掘調査報告書, pp. 159-162. 三重県埋蔵文化財センター.
- 布谷知夫, 2015. 博物館教育の歩み. 博物館教育論, pp. 9-16. 講談社
- 布谷知夫, 2015. 今、求められる新しい博物館像. 博物館研究, 50(3):14-15. 日本博物館協会.
- 天野秀昭・宇河雅之・大島康宏・太田光俊・門口実代・岸田早苗・北村淳一・杉谷政樹・瀧川和也・津村善博・中川良平・中村千恵・松本功・間瀬創・森田奈菜, 2014. 三重県総合博物館開館記念企画展第1弾「MieMu発進！」展覧会図録
- 中川良平・津村善博, 2014. 三重県総合博物館開館記念企画展第3弾「でかいぞミエゾウ！～化石が語る巨大ゾウの世界～」展覧会図録
- 瀧川和也・天野秀昭・宇河雅之, 2014. 三重県総合博物館開館記念企画展第4弾「祈りと癒しの地熊野」展覧会図録
- 門口実代・宇河雅之・北村淳一, 2015. 三重県総合博物館開館記念企画展第5弾「ふたりのウェディング事情」展覧会図録
- 太田光俊・瀧川和也・岸田早苗・井上有希・山本梨加, 2015. 三重県総合博物館開館記念企画展第6弾「親鸞 高田本山専修寺の至宝」展覧会図録
- 岸田早苗, 2014 展示解説書三重県総合博物館トピック展第1弾「MieMu誕生物語～三重県総合博物館ができるまで～」
- 布谷知夫, 2014 三重県総合博物館 展示案内
- 宇河雅之, 2015 展示解説パンフレット トピック展「くらしの道具」

4) 普及的著作等

- 布谷知夫, 2014. ネイチャーフィーリングの観察会 自然観察のテーマ・104. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会機関誌, (106) : 2-4. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会.
- 布谷知夫, 2014. 読者の皆様へ. 月刊MieMu通信. 月刊Simple, 6月号 :
- 布谷知夫, 2014. 歩み出した、MieMu making of 三重の新県立博物館. ミュゼ, 108 : 22-23
- 布谷知夫, 2014. 芭蕉翁へのあこがれ. 芭蕉さんと私II. pp. 97-98. 芭蕉翁生誕70年記念事業実行委員会
- 布谷知夫, 2014. サクラの枝の伸び方 自然観察のテーマ・105. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会機関誌, (107) : 2-3. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会
- 前葉泰幸・布谷知夫・伊藤久美子・内田淳正・朴恵淑・成岡市・河村海斗・中村浩俊, 2015. 環境対談「世界一の環境先進大学」三重大学の地域の環境や文化向上への貢献. 環境報告書2014, pp. 16-20. 三重大学.
- 森正人・布谷知夫・清水みき・代田美里, 2014. 鼎談「大学と博物館と地域」. 三重大学TRIO, pp. 2-7.
- 布谷知夫, 2014. 森のお仕事. 三重の森林とわたしたちの暮らし, pp. 5. 三重県農林水産部みどり共生推進課.
- 布谷知夫, 2014. 自然観察の話題と勘違い 自然観察のテーマ・106. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会機関誌, 108 : 2-4. NACS-J自然観察指導員大阪連絡会.
- 布谷知夫, 2015. 生物多様性を調べる. 自然観察のテーマ. 自然観察から始まる自然保護, NACS-J日本自然保護協会.
- 布谷知夫, 2015. 日本の博物館が目指したこと 内田塾報告.

布谷知夫, 2015. 大阪自然環境保全協会はどこを目指しているのだろうか. 都市と自然, 469 : 3. 大阪自然環境保全協会.

布谷知夫, 2015. その後 三重県総合博物館/館長の夢に向けて. 日本の文化施設を歩く. 松本茂章著, pp. 259-260. 水曜社.

5) 招待講演・学会発表等

北村淳一, 5月10日. タナゴの生態と全国のタナゴの状況. 第1回菊池川流域の河川生態研究と生態系の保全—タナゴの現状と保全—. 国土交通省九州地方整備局 菊池川河川事務所. [招待講演]

間潤創, 2014年6月7日. 気流解析と実測によるLED照明を用いた展示ケース内の温湿度分布の調査. 保存修復学会第36回大会, 明治大学アカデミーコモン.

間潤創, 犬塚将英, 2015年2月9日. LED照明を用いた展示ケース内の温湿度分布調査. 文化財の保存環境に関する研究会「文化財の保存環境の制御と予測」, 東京文化財研究所.

間潤創, 2014年11月11日. 三重県における博物館等の災害時に向けた取り組みについて. 平成26年度公開承認施設会議, 文化庁.

間潤創, 2014年12月4日. 東日本大震災以降の三重県における博物館等の災害時に向けた取り組みについて. 平成26年度文化庁委託事業文化財(美術工芸品)等緊急保全活動・現況調査事業研究会「これからの文化財防災—災害への備え」, 東京文化財研究所.

間潤創, 2014年11月19日. 多様な施設における博物館資料の保存. 日本博物館協会大会, 三重県総合文化センター.

中村千恵・平賀伸夫・東垂水琢哉, 2014. 研究発表「博物館と子どもたちの日常をつなぐ～学習貸出パッケージの追跡アンケートからの考察～」. 全日本博物館学会第40回研究大会.

中村千恵, 2014. 事例発表「ミュージアム・アイデンティティの創造—MieMuのCI計画を中心に—」. 文化経済学会2014年度秋の講演会.

布谷知夫, 2014年5月12日. みえむの考え方と経過 関西博物館研究会 長岡京市市民会館. [講演]

布谷知夫, 2014年6月21日. みんなの博物館MieMu. 日本展示学会研究大会講演とシンポジウム, 三重県総合文化センターレセプションルーム. [講演]

岸田早苗, 2014年6月21日. MieMuの展示. 日本展示学会研究大会シンポジウム「ともに考え、活動し、成長する博物館の展示」, 三重県総合文化センターレセプションルーム. [発表]

布谷知夫, 2014年10月25日. 基調講演「博物館と地域社会」. 文化経済学会研究大会 文化経済学会. 三重県総合博物館. [講演]

布谷知夫, 2014年11月20日. 第62回全国博物館大会シンポジウム「今、求められる博物館像」, 日本博物館協会. 三重県総合文化センター中ホール. [進行役]

布谷知夫, 2014年11月9日. 三重県総合博物館でESD. ESD2014 in 三重実行委員会, 三重県総合博物館レクチャールーム. [講演]

布谷知夫, 2014年12月9日. 日本の博物館は何を目指そうとしてきたのか. 内田塾, 津グリーンホテル. [講演]

布谷知夫, 2015年1月13日. 住民とともに活動する博物館. Museum2015 「The Agile Museum, Building Institutions for Continual Change」基調講演. Museum2015実行委員会, 明治大学. [講演]

布谷知夫, 2015年1月13日. 研究発表9・10. Museum2015 「The Agile Museum, Building Institutions for Continual Change」, Museum2015実行委員会. 明治大学. [座長]

布谷知夫, 2015年2月18日. 今求められている新しい博物館像～三重県総合博物館～. 長野県博物館協会研修会, 長野県博物館協会・長野県教育委員会. 長野県立歴史館. [講演]

3 資料収集・保存

当館では、前身の三重県立博物館収蔵資料を引継ぎ、三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承するとともに、基本展示室、企画展示等で、三重の自然と歴史・文化に関するさまざまな資料を展示することを目的に資料を収集・保存している。

3.1 収蔵資料概要

〈自然分野〉 371,559点		
地学資料	13,526点	化石(恐竜化石・ほ乳類化石等)、岩石標本、鉱物標本等
動物資料	243,018点	ほ乳類、鳥類、昆虫類、魚類、両生類、は虫類、貝類、クモ類、カニ類、異尾類・棘皮類、海岸動物など形態：はく製、仮はく製、骨格標本、乾燥標本、液浸標本、含浸標本など ※飼育標本：特別天然記念物オオサンショウウオ 1匹
植物資料	114,990点	サク葉標本(原色植物標本、海藻標本、シダ植物標本、裸子・被子植物標本)、植物レプリカ、樹脂標本
理工資料	25点	
〈人文分野〉 138,433点		
考古資料	513点	古墳出土資料等
美術工芸資料	2,744点	絵画書跡、版画(浮世絵ほか)、工芸品(陶磁器)、工芸品(武器・武具など)
歴史資料	62,769点	古文書類、典籍・古記録類、絵図・地図類、貨幣、引札、絵はがきなど
民俗資料	5,395点	衣食住関連、信仰関連生業、生産関連、交通・運輸・通信関連、芸能・娯楽関連、社会生活関連、年中行事関連資料など
歴史的公文書	67,012点	行政文書、絵図地図等、行政刊行物
計 509,992点		平成26年7月現在

3.2 資料収集

1) 資料購入

購入日	資料名・点数
平成26年6月5日	・三重紡績伊藤家写真 1件 230点
平成27年2月24日	・神宮奉行之間事 万治四年・寛文元年 1冊・神宮奉行之間事 寛文二年 2冊
平成27年2月24日	・開帳参詣群集図 三枚続 1点
平成27年3月25日	・九鬼守隆印判状 1幅・藤堂高次書状 5通

2) 資料寄贈

平成26年度に寄贈を受けた数は19件であった。

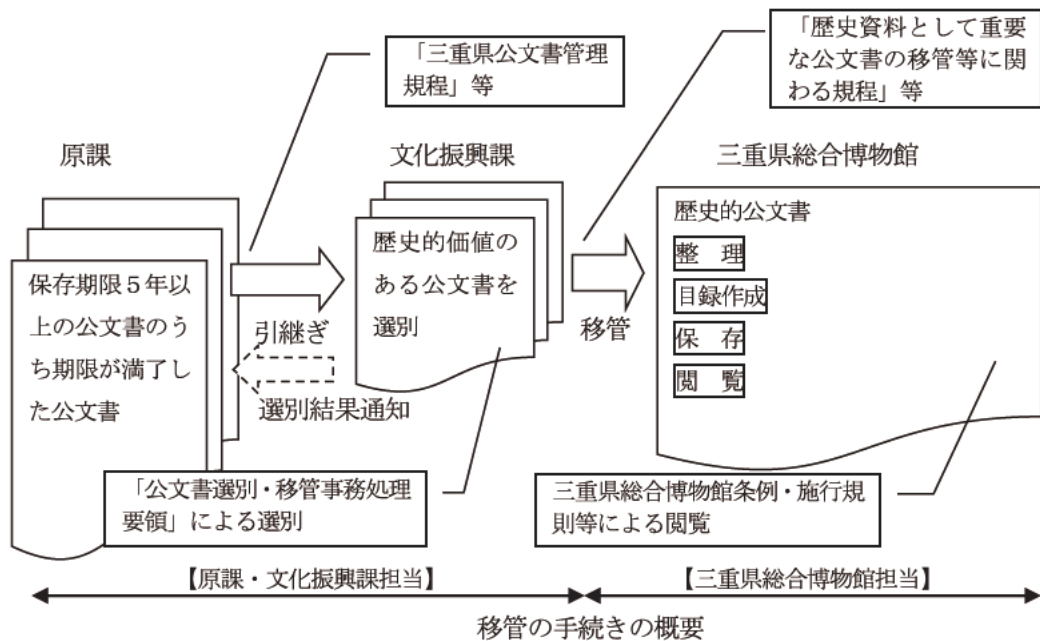
寄贈日	資料名	点数	内容	寄贈者
平成26年5月24日	津市岩田橋欄干擬宝珠	1基	寛永12年に架橋された旧岩田橋の欄干擬宝珠のひとつで、鋳物師辻但馬守・越後守の作 津市所蔵の岩田橋欄干擬宝珠(津市指定有形文化財)と同じもの	個人
平成26年6月6日	さく葉標本(ミズワラビ、サクラバハノキほか)	32点	ミズワラビ、サクラバハノキ、ヘビノボラズ、モウセンゴケ、トウカイコモウセンゴケ、タヌキマメ、ミズマツバ、ほか	団体
平成26年6月26日	地券、表彰状、雑誌ほか	49点	明治期の三重郡・員弁郡内の地券、寄付・献納金にかかる表彰状、教員免許状、明治～大正期の雑誌『三重県人』など。	個人
平成26年7月9日	ラジオ、テープレコーダーほか	38点 (6件38点)	ラジオ、オープンテープレコーダー、マフラー、図書(『和服裁縫』など)、レコード(舟木一夫など)、ほか	個人
平成26年7月15日	ブリキのバケツ、物干しほか	18点 (16件18点)	ブリキのバケツ、物干し、杓、縄とび、ものさし、コテ、かつお節削り、ほか	個人
平成26年7月11日	粉挽き	1点	そばを中心とした穀物を粉にする道具	個人

寄贈日	資料名	点数	内 容	寄贈者
平成26年 7月9日	オーブン	1点	ガスコンロの上に置いて使用する調理器具	個人
平成26年 7月10日	干しイモを作る機械	1点	サツマイモを輪切りにするための道具	個人
平成26年 7月10日	桑を入れるカゴ、蚕を飼うブリキ箱	8点 (5件8点)	桑を入れるカゴ(大・小)、蚕を飼うブリキ箱(丸形・四角形)	個人
平成26年 7月21日	トウミ	1点	大工をしていた寄贈者の祖父が製作(新案特許の証明書付属)	個人
平成26年 7月24日	鍛冶屋関係資料	1式 (44件53点)	鍛冶の道具「ハシ」「タガネ」「ハンマー」などのほか、軍隊用のマント・背負袋など	個人
平成26年 7月17日	建前に関する文書、戦地からのはがきほか	5点 (4件5点)	建前と日常の買い物の記録と、戦時中の様子を伝える資料	個人
平成26年 5月31日	国民文化祭・みえスタッフジャンパー、津市職員防災帽子(合併前)ほか	15点 (6件15点)	行政資料として、公文書館機能を有する当館にとって有益な資料	個人
平成26年 8月18日	度会郡高等小学校一覧表、水産博覧会木版画、水産博覧会褒賞授与人名一覧表、学校より家庭に希望する要項	4点	度会郡高等小学校一覧表、水産博覧会木版画、水産博覧会褒賞授与人名一覧表、学校より家庭に希望する要項	個人
平成26年 12月17日	自動式けん銃 ほか	3点	戦時中に将校が所持していたもの その来歴から平和教育教材として価値の高い資料	個人
平成26年 8月17日	徳川光貞書状、一志郡川口村・竹内文書、中沢雪城五言絶句屏風	418点	徳川光貞書状 1幅、一志郡川口村・竹内文書 415件416点、中沢雪城五言絶句屏風 2曲1双	個人
平成26年 11月27日	伊勢新聞社写真帳、最新百科知識精講、刀剣価格帳	3点	三重県に関する近代資料	個人
平成27年 1月10日	カミソリ	3点	貝印カミソリ、人形印カミソリ、資生堂ステンレス剃刀(マッハ3)	個人
平成27年 2月20日	永代太々神楽講御寄附并姓名記録、三重県師範学校二部生記念写真帖 ほか	5点	永代太々神楽講御寄附并姓名記録、三重県師範学校二部生記念写真帖、明治十九年公布綴、明治十五年二月ヨリ御布達綴、開化のはなし 上下合本	個人
平成27年 3月31日	サンバー角	1点	ミエゾウ命名者である松本彦七郎が欧米留学時に持ち帰ったもの	個人
平成27年 3月31日	一志層群産化石群ほか	80点	県内に分布する一志層群等から産出した化石群	個人
平成27年 3月31日	トバリユウ尾椎	1点	恐竜化石(トバリユウ)の一部	個人

3.3 歴史的公文書の移管

1) 当館における公文書館機能

- ① 県の歴史的公文書(原課で作成された期限満了の5年以上の公文書を文化振興課で選別し、総合博物館へ移管した公文書をいう)の受入・整理・修復・保存・閲覧・展示・調査研究
 - ② 行政資料・古文書などの収集・保存・閲覧・展示・調査研究
 - ③ 調査研究成果の発信(HP・研究紀要等刊行物の発刊)
 - ④ レファレンスへの対応
 - ⑤ 学習会・講演会・講習会等の開催
 - ⑥ 歴史的公文書等の保存・活用のための市町等との連携など
- ※②～⑤は博物館機能でもある。①、⑥が公文書館独自機能



2) 歴史的公文書の移管の概要

保存期限5年以上の公文書のうち期限が満了した公文書は、原課から環境生活部文化振興課が引き継ぎ、当館アーキビストとともに評価選別が行われる。選別された歴史的公文書は、随時当館へ移管し、整理保存処置を行って公開閲覧に供している。

3) 歴史的公文書の移管数

平成26年度に文化振興課から移管された歴史的公文書は、下記のとおりである。

環境生活部 9冊、戦略企画部 9冊、健康福祉部 4冊、県土整備部19冊、雇用経済部 2冊、
 地域連携部 9冊、農林水産部15冊、教育委員会 8冊、監査委員事務局10冊、議会事務局637冊、
 紀北地域活性化局 3冊、労働委員会事務局 3冊、企業庁43冊 合計 771冊

3.4 資料保存

平成26年度資料燻蒸

当館では収蔵庫等の定期燻蒸は原則として行わず、目視点検で虫菌害の進行が疑われる、あるいは点検自体が困難である新規収蔵資料等について、収蔵庫搬入直前に殺虫処理を行う方針をとっている。原則として二酸化炭素処理による殺虫、又は酸化エチレンによる殺虫燻蒸(0.5%)を行い、明らかにカビ被害が発生・進行している場合には酸化エチレンによる殺菌燻蒸(1%)を行う。

平成26年度には二酸化炭素処理を4回、酸化エチレンによる殺虫処理を1回、殺菌処理を2回行った。

4 展示

4.1 基本展示

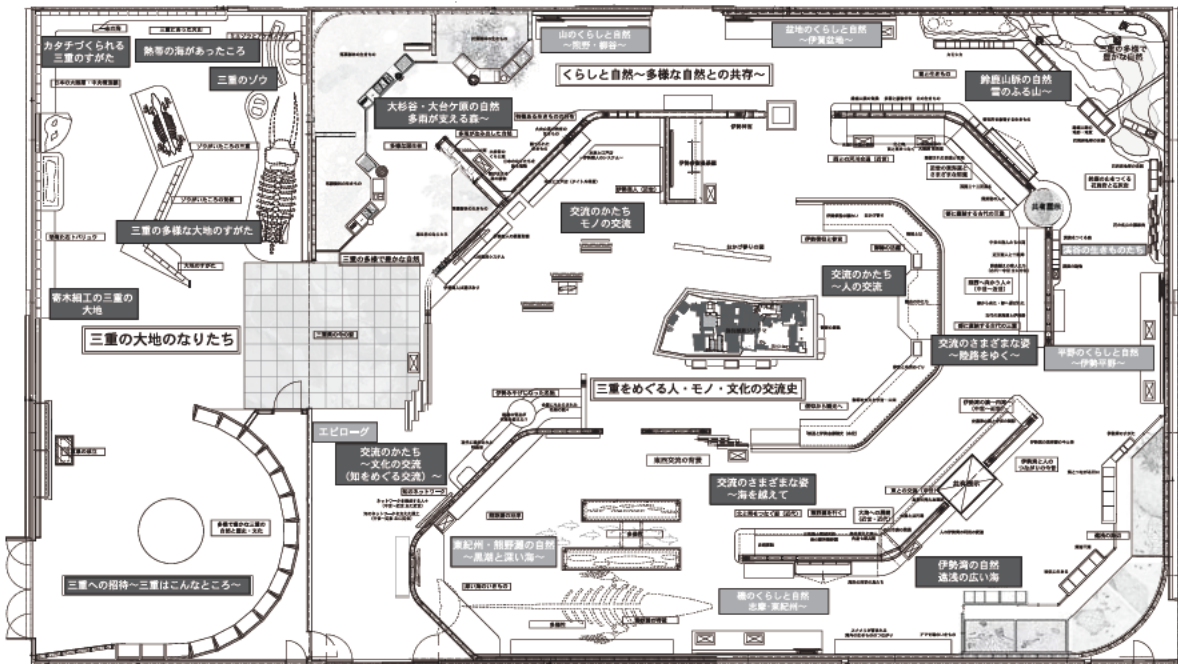
三重は、豊かな自然に恵まれ、その自然を生かしたくらしが営まれてきた土地である。また、古くからその交通の便の良さを活かし、全国から人々が行き交ってきたことから特有の歴史と文化を築きあげてきた。「基本展示室」と名付けた常設展示では、三重県がどんなところか、三重県の多様で豊かな自然と歴史・文化が持つ多彩な魅力や特色を、360°連続する三重の美しいパノラマに包まれた展示空間の中で一体的に紹介している。まるで日本の縮図のように、南北の生物相と東西の文化が絡み合って形づくられている三重の特徴を、“三重がもつ「多様性の力」”をテーマとして、「大地のなりたち」「多様で豊かな自然」「三重をめぐる人・モノ・文化の交流史」「自然とともに生きる」の4つのコーナーで紹介している。展示をご覧いただいた方が、三重を知り、自分たちが暮らしている地域について考える場になるよう設定している。

1) テーマ構成(大テーマ・中テーマ)

- 1 三重！みえ！MIE！ ①三重はこんなところ ②「三重県」の誕生 ③三重県のいま
- 2 三重の大地のなりたち ①日本列島の骨組み ②カタチづくられる三重のすがた
- 3 三重の多様で豊かな自然 ①多雨が育む森[大杉谷と大台ヶ原] ②たくさんの雪がふる山[鈴鹿山脈] ③遠浅の広い海[伊勢湾] ④黒潮が育む海と森[熊野灘と東紀州]
- 4 自然とともに生きる ①山に生かされる日々[東紀州の山村] ②里山と人とのつきあい[伊賀盆地の農村] ③人と生きものでにぎわう田んぼ[伊勢平野の農村] ④海と海女さんの約束[志摩・東紀州の漁村]
- 5 三重をめぐる人・モノ・文化の交流 ①活発な東西交流の舞台・三重 ②東西交流のさまざまな姿～海を越えてつながる～ ③東西交流のさまざまな姿～街道でつながる～ ④人の交流～伊勢をめざす人々～ ⑤モノの交流～全国に広がったブランド～ ⑥文化の交流～知がつながる世界～
- 6 博物館からのメッセージ つながろう はじまりは博物館から



基本展示室風景



基本展示室平面図

4.2 企画展示

4.2.1 企画展

1) 開館記念企画展 【第1弾・春季】MieMu発進！

【会 期】 4月19日(土)～5月18日(日) <開催日数：26日>

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【展示概要】 各分野の担当学芸員が、三重県に県立博物館ができて60年、大切に保存されてきた42万点にもおよぶ資料の中から厳選し展示を行った。「博物館のしごと 博物館って何するところ?」「収蔵資料は語る、大いに語る」といった、博物館活動自体を紹介する項目をたてて、資料の一つひとつに秘められた歴史、博物館に収蔵された理由を、資料を採集した人、寄贈してくれた人、またその資料を収蔵しようと考えた学芸員の思いとともに、資料

が持つ力、その“すごさ”を紹介した。併せて、県民のみなさんとともに行った、博物館資料を活用した取組もご覧いただきながら、三重県総合博物館が目指す方向性を提示した。

(主な資料)

鳥居古墳出土押出仏、三重県水産図解、伊藤又五郎家文書、盛盞瓶(古萬古)、歌川広重東海道五十三次(庄野・亀山)、海女関係の浮世絵、津鯨子肩衣、浮絵駿河町呉服屋図、豊饒御蔭参之図、提重、中野家資料群、トリケラトプス、スポン化石、世界のカモシカ類8種、法花湿生植物ジオラマ、ムシトリスミレレプリカ、オニバス、タラソメドン、しめ縄調査分布地図、しめ縄分布調査(写真)、お雑煮調査カード仕分け作業(写真)ほか
展示資料点数87点

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 38,591人(うち高校生以下：13,986人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	講師等
ギャラリートーク	4月20日(日) 午前・午後	企画展示室	28	当館職員 宇河雅之
	5月4日(日・祝) 午前・午後		33	
	5月18日(日) 午前・午後		23	
バックヤード見学会	4月26日(土)	館内	24	当館職員 宇河雅之
	5月3日(土・祝)		30	
	5月10日(土)		15	
	5月17日(土)		24	
計			177	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示図録(A4版114頁)

【担当】 宇河雅之、北村淳一



展示風景



B2ポスター

2) 開館記念企画展 「第2弾・初夏季」日本の心 第62回神宮式年遷宮写真展

【会期】 5月24日(土)～6月22日(日) <開催日数：26日>

【会場】 企画展示室(800㎡)

【主催】 三重県総合博物館、中日新聞社

【特別協力】 神宮司廳

【後援】 三重県博物館協会

【助成】 公益財団法人岡田文化財団

【協賛】 株式会社ニコン、株式会社濱田総業、武蔵エンジニアリング株式会社

【協 力】 株式会社写真弘社、大豊和紙工業株式会社

【展示概要】 20年ごとに神宮の社殿や装束、神宝のすべてを一新し神々をお祀りする神宮の祭事式年遷宮は、1300年以上の時を超えて脈々と受け継がれている。本展は、平成25年10月に行われた62回目の神宮式年遷宮を通じ、伝統や文化の継承を大切に、またその伝統や文化とともにある「自然」と共生しようとする、『日本の心』をテーマとした展覧会である。神宮内で行われる数多くの恒例祭典の様子をはじめ、社殿の建造や神宝、衣食住の品々などの制作に携わる神官や工芸家の風景、神宮を取り巻く自然などを、三重県出身で、平成18年から式年遷宮に関わるさまざまな取材を続けている写真家、南川三治郎氏の作品を通じて紹介した。

(主な資料)

遷宮関係写真：お木曳き、二見夫婦岩、朝熊山朝日、正宮遠望、新御正殿内宮、遷御内宮、遷御外宮 ほか

展示資料点数80点

【観 覧 料】 一般600円、大学生360円、高校生以下無料

【観覧者数】 13,086人(うち高校生以下：3,676人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
開会式・内覧会	5月23日(金)	企画展示室	87	—
講演会 「第六十二回神宮式年遷宮 取材を終えて」	5月25日(日)	レクチャールーム	64	写真家 南川三治郎
出張図書館	5月25日(日)	学習交流スペース	7	三重県立図書館職員による出張貸出
計			158	

【刊 行 物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、

【担 当】 間瀬創、瀧川和也



展示風景



B2 ポスター

3) 開館記念企画展 「第3弾・夏季」でかいぞ ミエゾウ! ~化石が語る巨大ゾウの世界~

【会 期】 7月29日(火)～9月28日(日) <開催日数：54日>

【会 場】 企画展示室(800㎡)・交流展示室(200㎡)

【展示概要】 ミエゾウは、学名に三重の名を付けられた太古のゾウで、国内でみつまっている最大の陸生哺乳類である。最大で全長8mあったと推定され、約350万年前に生息した。当館で

は、全国で初めて全身骨格標本を復元し展示している。本展では、日本各地で発見されたミエゾウや当時の様々な化石、ミエゾウが進化して小型化した子孫と推定されるアケボノゾウ、さらに進化が起こった当時の気候変動の証拠となる化石を一堂に展示した。

(主な資料)

ミエゾウ明(あきら)標本(レプリカ)、全国から産出したミエゾウ化石、古琵琶湖層群産巨大足跡化石群レプリカ(15×5.6m)、コウガゾウ等の全身骨格レプリカなど
展示資料点数500点

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 37,899人(うち高校生以下:15,338人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	8月2日(土)・3日(日)・30日(土)	企画展示室	15・65・45	当館職員 中川良平
こども化石調査体験	8月23日(土)	当館内	31	当館職員 中川良平
	9月14日(日)		32	
	9月15日(月・祝)		30	
出張図書館	8月10日(日)	学習交流スペース		県立図書館職員による出張貸出
講演会「でかいぞミエゾウ!講演会」 「ミエゾウとそのなかま〜ミエゾウはどこから来てどこへ行ったか〜」 「よみがえるミエゾウ〜3次元モデルによる全身骨格の復元〜」	8月10日(日)	レクチャールーム	中止 (台風による警報発令)	元大阪市立自然史博物館学芸課長 樽野博幸 兵庫県立大学准教授 三枝春生
計			218	

【関連事業】

レストラン連携企画(メニューの提供やチケットサービス)

期 間 7月29日(火)〜9月28日(日)

参加施設 ミュゼ・ボンヴィヴァン、トラットリア カパーチェ、ビストロ ラフルール、カフェ ミ・テール ※カフェミ・テールは8月16日(土)より参加

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示図録(A4版114頁)

【担 当】 中川良平、津村善博



展示風景



B2ポスター

4) 開館記念企画展 「第4弾・秋季」 祈りと癒しの地 熊野

【会 期】 10月11日(土)～11月24日(月・祝) <開催日数：39日>

【会 場】 企画展示室(800㎡)

【主 催】 三重県総合博物館、読売新聞社

【後 援】 三重県博物館協会

【協 力】 津松菱、三重県立相可高等学校

【助 成】 日本芸術文化振興基金

【展示概要】 紀伊山地の霊場と参詣道世界遺産登録10周年を記念して、熊野の歴史と文化について、三重県内に残る文化財等を中心に紹介した。熊野をめざす人々が行き交ったようすがうかがえる旅道具や、地域に残る熊野信仰の遺品、中でも熊野信仰の一端を担った熊野比丘尼たちが布教の際に用いた「熊野観心十界曼荼羅」などを網羅的に取り上げた。また、展示の最後に、「熊野古道 魅力の再発見」と題したコーナーを設け、映像による展示を行った。
(主な資料)

笈摺(おいずる)、熊野観心十界曼荼羅、西国巡礼細見大全、三重県指定有形民俗文化財 若山家蔵「熊野街道善根宿納札」ほか
展示資料点数600点

【観 覧 料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 17,620人(うち高校生以下：6,775人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	10月12日(日)・ 26日(日)・ 11月16日(日)	企画展示室	34・71・ 54	当館職員 瀧川和也
曼荼羅絵解き実演	10月19日(日) 10月25日(土)	学習交流スペース	61 92	盛福寺住職 村主堯春
シンポジウム 「熊野観心十界曼荼羅に関するシンポジウム」	11月2日(日)	レクチャールーム	53	兵庫県立歴史博物館館長補佐 小栗栖健治 愛知教育大学准教授 鷹巣純 盛福寺住職 村主堯春
出張図書館	11月2日(日)	学習交流スペース	15	三重県立図書館職員
東紀州の料理をつくろう①②	11月9日(日) 午前・午後	実習室	50 (30・20)	三重県立相可高校教諭 村林新吾
東紀州の料理をつくろう③	11月23日(日)		35	
計			465	

【関連事業】

「五感で楽しむ熊野」(レストラン連携スタンプラリー)

期 間 10月4日(土)～11月24日(月・祝)

参加施設 MieMu、県立美術館、ミュゼ・ボンヴィヴァン、ピストロラ・フルール、カフェミ・テール

スタンプカード扱い MieMu カード発給数 2,576枚 押印数17枚

美術館 カード発給数 715枚 押印数10枚

美術館との図録相互販売

期 間 10月4日(土)～11月24日(月・祝)

販 売 数 MieMu(美術館図録販売数) 4冊 美術館(MieMu図録販売数) 6冊

3館チケット相互割引(当館、美術館、斎宮歴史博物館)

期 間 10月4日(土)～11月24日(月・祝) ※斎宮のみ11月9日(日)で終了

MieMu：17人 美術館：12人 齋宮：4人

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、展示図録(A4版114頁)、展示資料一覧(A4版)、子ども用解説シート(A4版)

【担当】 瀧川和也



展示風景



B2ポスター

5) 開館記念企画展 【第5弾・冬春季】ふたりのウェディング事情

【会期】 1月10日(土)～3月8日(日) <開催日数：50日>

【会場】 企画展示室(800㎡)

【主催】 三重県総合博物館

【後援】 三重県博物館協会

【展示概要】 家で結婚式を行っていた頃の様子が見える結納品や嫁入り道具、祝いの席の料理から、いまどきの結婚式のあり方を表す結婚情報誌や婚姻届まで、さまざまな資料を通して結婚の移り変わりを紹介した。とくに、花嫁の衣裳については、ブライダルファッションデザイナーの桂由美氏が手がけてきたウェディングドレスと服飾文化研究会が長年かけて収集してきた打掛や振袖、ミキモトのティアラとかんざしを展示した。さらに、総合の博物館であることを活かし、クジャクをはじめとする動物たちの「ウェディング」も取り挙げた。また、関連行事として、MieMuを会場に、公募した1組のカップルの人前結婚式を行った。このカップルの出会いから結婚までのストーリーは、展示のプロローグとして思い出のモノや写真とともに紹介した。

(主な資料)

結納品、嫁入り道具、朱塗りの膳椀、ウェディングドレス、打掛、振袖、ティアラ、かんざし、結婚情報誌、パワースポットのお守りほか

展示資料点数220点

【観覧料】 一般600円 学生360円 高校生以下無料

【観覧者数】 11,151人(うち高校生以下：5,640人)

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	1月11日(日)	企画展示室	15	当館職員 門口実代
	2月22日(日)		38	
講演会「“いま”それが、ないある 婚姻の民俗」	2月1日(日)	レクチャールーム	38	岐阜女子大学名誉教授 岡田照子

博物館ウェディング	3月1日(日)	三重県総合博物館	230	公募カップル1組限定の結婚式を実施。司式(式の進行)は鈴木英敬知事
計			321	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、博物館ウェディングカップル募集チラシ(A4判)、博物館ウェディング開催案内チラシ(A4版)、展示図録(A4版88頁)、

【担当】 門口実代



展示風景



B2ポスター



博物館ウェディング



博物館ウェディング

6) 開館記念企画展 【第6弾・春季】親鸞～高田本山専修寺の至宝～

【会期】 3月21日(土・祝)～5月10日(日) <開催日数：9日 ※平成26年度>

【会場】 企画展示室(800㎡)

【主催】 三重県総合博物館、真宗高田派本山専修寺

【後援】 津市、津市教育委員会、三重県指定文化財等所有者連絡協議会、三重県博物館協会、朝日新聞社、伊勢新聞社、産経新聞社、中日新聞社、日本経済新聞社津支局、毎日新聞社、夕刊三重新聞社、読売新聞社、ケーブルコモンネット三重、CBCテレビ、中京テレビ放送(株)、三重テレビ放送、メ〜テレ、東海ラジオ放送、三重エフエム放送

【助成】 公益財団法人岡田文化財団

【展示概要】 親鸞が直拝したといわれる一光三尊仏が一身田の本山で「御開扉」される「中開帳」の時期平成27年春にあわせて、多数の文化財を所蔵する専修寺を紹介する展示を実施した。専

修寺には、「専修念仏」を推し進め、後の日本仏教界を大きく動かす思想を生み出した親鸞とその弟子が書き記した鎌倉時代以来の書物類が多く伝えられ、また、真宗高田派の寺々にも、親鸞とその弟子たちの足跡を示す品々が伝わる。鎌倉時代以来の歴史や美を伝えるこれらの品々を一挙公開し、親鸞の思想が三重県に伝えられ、現在にいたる姿を通史的にも概観できるようにした。

(主な資料)

[国宝]親鸞直弟本 西方指南抄、親鸞筆 西方指南抄、親鸞・真仏筆 三帖和讃

[重要文化財]慈円書状、親鸞筆 晨旦国十四代、親鸞筆 数名目と十悪、親鸞筆 曇摩伽菩薩云々、真仏書写 顕浄土真実教行証文類、歌仙像、真仏書写 六角堂夢想偈文、真仏書写 顕浄土真実教行証文類など

展示資料点数 410点

【観覧料】 一般800円、大学生480円、高校生以下無料

【観覧者数】 3,364人(うち高校生以下：863人)※平成26年度 開館日数9日間

【関連講座等】

行事名	開催日	会場	人数	備考(講師等)
ギャラリートーク	3月21日(土・祝)	企画展示室	38	当館職員 太田光俊
	3月29日(日)		35	
計			73	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ2種(A4版)、展示図録(A4版240頁)、

【担当】 太田光俊・瀧川和也



展示風景(入口)



B2ポスター



展示風景



展示風景

4.2.2 交流展示

県民・利用者のみなさんや諸団体など、さまざまな主体と連携して交流展示を行った。

1) 三重県博物館協会40周年記念展

我が館はここから始まった～県内博物館・美術館・資料館・水族館大集合～

- 【会 期】 6月28日(土)～7月13日(日) <開催日数：14日>
- 【会 場】 企画展示室(700㎡)＋交流展示室(200㎡)
- 【主 催】 三重県総合博物館、三重県博物館協会
- 【内 容】 三重県博物館協会40周年を記念して、三重県博物館協会加盟の52機関61施設の紹介とともに、各館の成立に関わる「我が館はここから始まった」という一品についても展示した。また、各館の特徴ある学芸員の仕事の紹介をした。
- 【主な資料】 三重県博物館協会加盟の各館園の創立に関わる資料や特徴をあらわす資料ほか
- 【観覧者数】 8,906人 ※各ブースで各館職員が観覧者に逐次説明したため、開催時間帯に入場した人の数。
- 【関連事業】

行事名	開催日	会場	人数	講師等
各館職員によるギャラリートーク	6月29日(日)	企画展示室	450※	三重県博物館協会加盟館職員
	7月5日(土)		390※	
学芸員のはなし「三重県の博物館めぐり～MieMuの展示から～」	6月29日(日)	レクチャールーム	21	当館職員 太田光俊
計			861	

【刊行物】 ポスター(B2版)、チラシ(A4版)、三重の博物館パンフレット(A4版8頁)

【担 当】 太田光俊



展示風景(企画展示室)



展示風景(交流展示室)



A4チラシ(表面)

2) 企業コラボレーション展示

四日市でカツオと野鳥をはぐくむ工場～たんけん味の素東海事業所～

- 【会 期】 10月4日(土)～11月24日(月・祝) <開催日数：45日>
- 【会 場】 交流展示室(200㎡)

- 【主催】 三重県総合博物館、味の素株式会社 東海事業所
- 【内容】 味の素株式会社東海事業所で造っている「ほんだし」の原料となるカツオの資源保護の取組や、敷地内にある池を中心とした「味の素株式会社東海事業所バードサンクチュアリin 四日市」など、知られざる魅力を展示した。
- 【主な資料】 環境への取組やおいしさへのこだわりなどに関する資料やパネル
- 【観覧者数】 13,404人
- 【関連事業】

行事名	開催日と回数	会場	人数	講師等
味覚教室①②③	11月15日(土)3回	実習室	106	味の素株式会社東海事業所 職員
味覚教室①②③	11月22日(土)3回		103	
計			209	

【担当】 松本功



展示風景(交流展示室)



A4チラシ(表面)

3) 交流展示 三重のまちかど博物館

- 【会期】 12月2日(火)～12月23日(火・祝) <開催日数: 19日>
- 【会場】 企画展示室(800㎡)
- 【主催】 三重県総合博物館、各まちかど博物館
- 【内容】 三重県には約500館ものまちかど博物館があり、各館が地域の特色ある文化資産や伝統の技などを展示、公開している。このような資料等を一堂に会して展示、公開することにより、県民のみなさんにまちかど博物館を知ってもらい、理解を深めてもらう機会とした。
- 【主な資料】 各まちかど博物館の資料など
- 【観覧者数】 5,642人
- 【関連事業】

行事名	開催日	会場	人数	講師等
ワークショップ「ちぎり絵ワークショップ」	12月7日(日)	企画展示室	約150	ちぎり絵ギャラリー和素 山中美智代
ワークショップ「刻字体験会」	12月9日(火)・12日(金)・19日(金)	企画展示室	約15	刻字でくのぼう 青木健斉
ワークショップ「レーシングカーの体験試乗と写真撮影会」	12月21日(日)	企画展示室(ホワイエ空間)	約96	ウエストレーシングカーズ 神谷誠二郎

ワークショップ「グラスアートワークショップ」	12月23日(火・祝)	企画展示室	約150	生活色彩「グラスアート」 西尾朋子
ワークショップ「旧御師丸岡宗大夫邸の御札づくり」	12月23日(火・祝)	企画展示室	約40	旧御師丸岡宗大夫邸 丸岡正之
期間限定展示「プラレール」	12月20日(土)～ 12月23日(火・祝)	交流展示室	約480	鈴鹿電池鉄道 猿木淳
実演「伊勢音頭体験」	12月7日(日)	交流展示室	約50	伊勢音頭資料館 畑嘉高
計			約981	

【担当】 大西到



展示風景



A4チラシ(表面)

4) 交流展示 荘厳と静寂の回廊

【会期】 3月28日(土)～5月10日(日) <開催日数：3日※平成26年度>

【会場】 交流展示室 (200㎡)

【主催】 真宗高田派本山専修寺

【内容】 企画展「親鸞～高田本山専修寺の至宝～」にあわせて、高田本山の色とりどりの四季を収めた写真の展示、大型モニターによる画像展示、巨大な高田本山の立華（生け花の一種）の実物を展示した。

【主な資料】 高田本山の四季の写真パネル、立華など

【観覧者数】 1,140人 ※平成26年度開館日数3日



展示風景(入口)



展示風景

4.2.3 トピック展示

三重の自然や歴史・文化、博物館についてなど、話題性のある小規模な展示を当館主催で開催した。

1) MieMu誕生物語 ～三重県総合博物館ができるまで～

【会 期】 4月19日(土)～6月22日(日) <開催日数：56日>

【会 場】 交流展示室(200㎡)

【内 容】 三重県総合博物館が開館するまで、県民・利用者みなさまが、“わたしの博物館”として大事に使ってもらえる博物館づくりのために、こだわり続けた昭和60年から平成26年の開館までの10,000日間の様子を紹介した。

【主な資料】 旧三重県立博物館の活動写真、新県立博物館の建築・展示製作の検討にかかる模型・資材・材料検討資料、ティーンズプロジェクト関係資料ほか

【観覧者数】 8,275人

【関連事業】

行事名	開催日	会場	人数	講師等
ギャラリートーク	4月20日(日) 午前・午後	交流展示室	10(4・6)	当館職員 岸田早苗
	5月4日(日・祝) 午前・午後		10(2・8)	
	5月18日(日) 午前・午後		12(6・6)	
	6月8日(日)		4	
	6月22日(日)		2	
計			38	

【刊 行 物】 図録(A4変形版28頁)

【担 当】 岸田早苗



展示風景



B2ポスター

2) 暮らしの道具

【会 期】 1月4日(日)～2月22日(日) <開催日数：43日>

【会 場】 交流展示室(200㎡)

【内 容】 小学校3年生で学ぶ「昔の暮らし」に合わせて、かつて生活の中で用いられていた道具を展示するとともに、実際に使用体験を行いました。

【主な資料】 洗濯板 石臼 ダイアル電話ほか

【観覧者数】 3,900人

【関連事業】

行事名	開催日と回数	会場	人数	講師等
ギャラリートーク	2月22日(日) 午前・午後	企画展示室	22 (12・10)	当館職員 宇河雅之
	計		22	

【刊 行 物】 図録(A4版22頁)

【担 当】 宇河雅之



展示風景



展示風景

4.3 こども体験展示室

こども体験展示室は小さな子どもでも博物館を身近に感じ、楽しみながら学びを得られる展示室である。展示室の中は、やってみるコーナー、しらべるコーナー、つたえるコーナー、未就学児コーナーの4つのコーナーにわかれており、それぞれの場所で子どもたちが自ら展示を探してみつけ、興味をもったものをしらべ、発見したことを発表できる。この一連の流れは博物館の学芸員の仕事の調査・研究・展示発表と同じであり、その体験ができるようになっている。

1) やってみるコーナー

三重県の身近な自然や文化を海、川、山、地面、町、家という6つの場所ごとに展示している。また立体的な構造をしているため、実際に自然の中で生物を探しているかのように楽しみながら発見することができる。ハンズ・オン展示を取り入れており、展示物に触ってみたり、音を聞いたりすることができる。

2) しらべるコーナー

やってみるコーナーでみつけたもの、興味をもったものについて図鑑などで調べることができる。引き出しには『なにこれボックス』があり、中には体験しながら学べるキットが入っている。

3) つたえるコーナー

やってみるコーナーでみつけたこと、しらべるコーナーでわかったことを紙に書いて友達に伝えて共有することができる。展示ケースには子どもたちが見つけたものや、つくった作品などを展示し、定期的に更新する。

4) 未就学児コーナー

未就学児でも親子で安心して博物館を楽しめるように、やわらかいクッションを使ったスペースで絵本を読むことができる。本棚の一部には中に入れる場所があり、絵本は普通のおはなしだけでなく博物館や三重に関連したものも用意している。



こども体験展示室 平面図

4.4 三重の実物図鑑

昆虫や植物、動物、伝統工芸品など三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を、図鑑のようにじっくりと間近で見ることができる展示室。

1) 自然分野

自然に関する資料は、図鑑のような分類展示を意識し、動物、植物、岩石・鉱物、化石ごとに展示している。動植物においては、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、その他貝類や甲殻類などの無脊椎動物、植物ごとにコーナーを分けて展示している。さらに剥製、樹脂封入標本、乾燥標本、樹脂含浸標本、さく葉標本といった異なる保存技術の標本を、その技術の特徴を紹介しながら展示している。化石については、化石の時代ごとに展示している。岩石については、堆積岩、火成岩、変成岩の岩石分類に、さらに川原の石は河川ごとに展示している。鉱物については、ケイ酸塩鉱物、元素鉱物など化学成分ごとに分類して展示している。

映像やグラフィック、触れる標本など、生物の生態を伝える展示手法を加えて、身近な三重の魅力を再発見できるように展示している。

平成26年度は、常設の展示に加えて、次の取組を行った。

【昆虫】 平成26年度に実施した県民参加型事業「みんなでつくろう！ミュージアムフィールドの実物昆虫図鑑」（一般財団法人全国科学博物館振興財団 平成26年度全国科学博物館活動等助成事業の助成により実施）で行った調査結果を月ごとに展示することで、来館者に対し身近に生息する昆虫類をタイムリーに紹介したほか、博物館と県民との共同活動をアピールした。

【貝類】 「今週の貝」として、ミニ資料カード・解説を設置して紹介(随時)

【岩石】 話題性のある資料について、パンフレット等を設置して紹介(随時)

寄贈を受けた資料の中から、三重県産のオパール鉱物を展示に追加した。

2) 人文分野

三重の歴史と文化に関する資料を、出土したモノ、受け継がれたモノ、継承されるワザ、愛用されたモノ、受け継いでいくキロクといった分類で展示し、受け継がれてきた経緯とともに、資料の特徴を際立たせるようにしている。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えを行った。

【展示一覧】

コーナー	展示期間	展示資料
出土したモノ	4月19日(土) ～6月30日(月)	納所遺跡出土遺物(三重県埋蔵文化財センター蔵)
	7月1日(火) ～10月10日(金)	鳥居古墳出土押出仏(津市鳥居町の鳥居古墳から見つかった一光三尊押出仏ほか)
	10月11日(土)～	松の鼻古墳出土遺物(鳥羽市松の鼻古墳から出土した須恵器など)
受け継がれたモノ	4月19日(土) ～6月30日(月)	参宮名所図会 六曲一隻 本居宣長画像 一幅
	7月1日(火) ～10月10日(金)	熊野古道伊勢路 世界遺産登録10周年記念企画 熊野の本地絵巻 一卷 熊野参詣道中絵図 一卷 西国三十三所名所図会 巻三 擬宝珠 一基(寄贈資料の津市岩田橋の欄干の擬宝珠)
	10月11日(土) ～1月21日(水)	六鯨図 一卷 擬宝珠 一基(寄贈資料の津市岩田橋の欄干の擬宝珠)
	1月22日(木)～	舞楽図巻 一卷 擬宝珠 一基(寄贈資料の津市岩田橋の欄干の擬宝珠)
継承されるワザ	4月19日(土) ～6月30日(月)	伊勢型紙4点(人間国宝児玉博氏作品、喜田寅三氏作品)、 小紋反物2点
	7月1日(火)～	伊勢型紙4点(人間国宝児玉博氏作品、喜田寅三氏作品)、 彫刻道具10点
愛用されたモノ	4月19日(土)～	オルガン 一基 テレビ 一台

受け継いでいく キロク	4月19日(土) ～6月30日(月)	内国勸業博覧会・水産博覧会関連資料等3点
	7月1日(火) ～10月10日(金)	地誌と地籍図の編さん関連資料2点
	10月11日(土) ～1月21日(水)	無足人由緒書・無足人取調帳関連資料4点
	1月22日(木)～	明治期の町村大合併関連資料4点

4.5 オオサンショウウオ生態展示

館内の観察水槽にてオオサンショウウオのさんちゃんを飼育し生態展示を行っている。このオオサンショウウオ(さんちゃん)は平成4年に名張市美旗の小波田川にて保護し、当館の前身にあたる旧県立博物館で飼育していたものを平成26年2月に現施設に移動し飼育している。

各月第2土曜日の午前11時から給餌公開を実施した。参加人数等は 5.3.1 講座 を参照。

4.6 学習交流スペース展示等

学習交流スペースは、交流創造エリアの中心的な役割を果たすスペースで、交流創造エリアの諸室や展示エリアとも機能連携しながら、三重に関する興味や関心、目的に応じた県民・利用者のみなさんの学習や研究、グループ・団体等の活動と交流の舞台となっている。

①レファレンスカウンター

学習交流スペースの核となる場として、学芸員や担当者が常駐し、レファレンスを行っている。

②資料相談コーナー

三重の実物図鑑や資料閲覧室、書庫等を活用しながら、利用者の資料相談に対応している。

③資料閲覧室

実物資料や図書資料などを実際に見て調べたい利用者の閲覧に対応している。

④開架書架・情報コーナー

三重の自然と歴史・文化に関する書籍や資料検索端末などの情報を見ることができるコーナーである。

⑤ワークショップコーナー

来館者が気軽に参加できる多様なワークショップを実施している。

⑥くつろぎコーナー

ミュージアムフィールドを眺めながら、来館者がゆったりとくつろぐことのできるコーナーである。

⑦活動コーナー

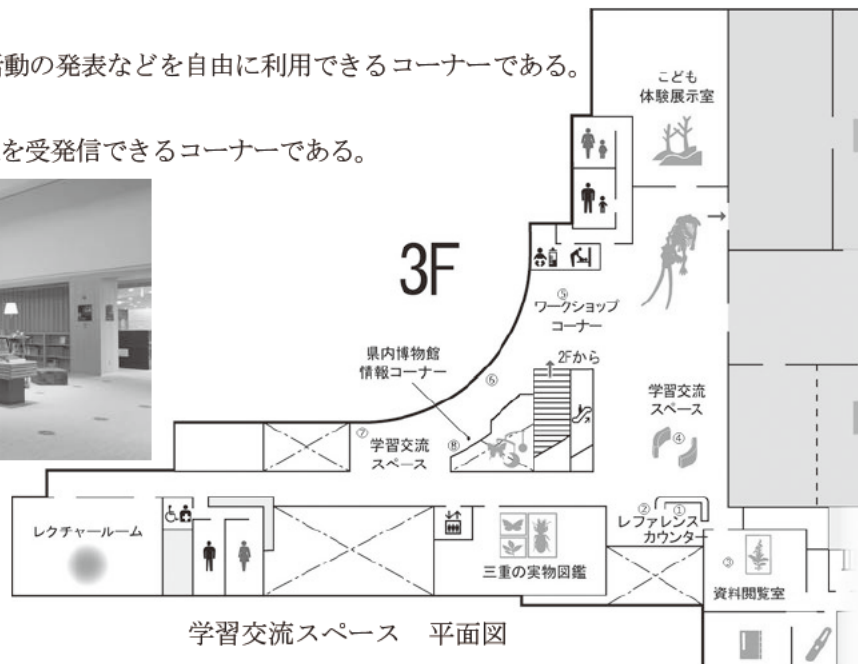
来館者がミーティングや活動の発表などを自由に利用できるコーナーである。

⑧県内博物館情報コーナー

来館者が県内博物館の情報を受発信できるコーナーである。



学習交流スペース風景



学習交流スペース 平面図

4.7 三重を知る1,000冊

学習交流スペースの「三重を知る1,000冊コーナー」には、三重に関連する本や各分野の学芸員が厳選した図鑑、辞典、専門書、読み物や写真集などを約1,000冊配架している。ここでは、来館者が展示を見て興味を持ったこと、身近な動植物や郷土の歴史、博物館に関することなどさまざまな興味を深めることができる。調べものを使用するほかにも、来館者の休息場所としても利用できる場所である。また、企画展示にあわせ、関連する本の展示なども行っている。

4.8 野外展示

1) ミュージアムフィールド

基礎データ 面積 ミュージアムフィールド全体 約28,400㎡
(観察の林 約18,800㎡、交流の広場 約4,370㎡、駐車場ゾーン 約5,230㎡)

(1) 観察の林

- ①シイの林 常緑広葉樹のツブラジイを中心とした林、林内は暗く下草も少ない。この地域では数百年単位でまもられてきた神社の森などで見ることができる。
- ②アベマキの林 落葉広葉樹のアベマキを中心とした林、コナラなどが混生し、秋には紅葉しドングリも拾うことができる。落葉することで秋から春にかけては林内に光が差し込み明るい一方、夏には葉が茂り暗くなるなど一年の中で環境が大きく変わる。里山と呼ばれる典型的なタイプである。アベマキは戦後に人為的に植えられたものと思われる。なお、アベマキ林の一体にはヲノ坪A遺跡が所在する。
- ③アカマツの林 センター博物館整備にかかり、平成8年埋蔵文化財発掘調査(ヲノ坪B遺跡)に際して、草木が刈り取られた場所が再生した林。ススキなどの草地にアカマツが芽生え、ちょうど10年目を迎えた林である。植物の移り変わりを観察する場所としてそのままの形で活用を行っている。

三重県総合博物館の建設に際して、周辺地域でも開発等で減少している里山残存林の博物館活動での活用を目的として保存した。里山残存林であったため放置され、藪山となっていた林床の下草等を刈り取る最低限の手を加えた状態で管理している。

主な構成樹種	高木層	ツブラジイ、コナラ、アベマキ、クロガネモチ、ヤマザクラ、ヤマモモ、アカマツ、タブノキ、ハゼノキ
	亜高木層	シロダモ、カクレミノ
	低木層	ミミズバイ、ネズミモチ、ヒサカキ、アオキ
	草本	ネザサ、ベニシダ、ヤブミョウガ

(2) 交流の広場

モウソウチクの林が広がり、周辺の里山を圧迫していたため、博物館の建設に当たりこれを抜根して一部を除き駆除、そこへ国産のシバを植えて広場とした。

シバの広場の周辺には「木のずかん」と称するゾーンを設けて、屋内展示等で紹介されている三重の植生やくらしにかかわりのある樹木を植栽。また、県内産の岩石や各河川の砂利を用いた通路等を設置

・交流の広場の植栽

ドングリのなかま	アカガシ、ウバメガシ、クヌギ、ウラジロガシ、シリブカガシ、ツクバネガシ、スタジイ、マテバジイ、ナラガシワ、カシワなど
葉になる植物	ニッケイ、キハダ、ナツメ、クコ、カリン、テンダイウヤクなど
布などを染める植物	クチナシ、シャリンバイなど
くらしの中の植物	ミツマタ、コウゾ、キリ、シナノキ、トチノキ、カキ、ザクロなど
マツやスギのなかま	スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、カヤ、イヌガヤ、コウヤマキ、イチイなど

虫があつまる植物	カラタチ、マグワ、イボタノキ、シダレヤナギなど
サクラのなかま	カンヒザクラ、エドヒガン、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、カスミザクラ
ツツジのなかま	アカヤシオ、シロヤシオ、ヤマツツジ、ヒカゲツツジ、コアブラツツジ ベニドウダン、サツキ、モチツツジなど

- ・ 県内産岩石を用いた石のベンチ
- ・ 県内河川礫を用いた階段洗い出し
- ・ モウソウチクの残置林
- ・ 野外学習スペース

【参考】三重県総合博物館里山ゾーンの以前の姿と現植生について

① 観察の林の開発前の姿

- ・ 戦後すぐの航空写真で確認すると、モウソウチクである部分は畑地からシイ林。
- ・ 総合文化センターの完成時点(平成6年)には、モウソウチク林と、放棄された雑木林であった。また、駐車場として一部造成された。センター博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査(ヲノ坪遺跡B遺跡)が行われたため、跡地は一部にアカマツ幼木が混じる草地となっていた。
- ・ 10年前にセンター博物館が計画されたときと比べ、著しくモウソウチクとメダケが勢力を広げた。
- ・ 放置された雑木林内の林床は低木やササやメダケが繁茂したヤブ山となっていた。

② 里山ゾーンの造成にあたり

- ・ モウソウチクは繁殖力が強くコントロールが困難なため、一部を除き駆除した。伐採したタケは、チップとして現地へ戻した。
- ・ 雑木林は現存樹木をそのまま保存。なお、アベマキ林一帯のヲノ坪A遺跡は現状保存。
- ・ 雑木林での林床のササヤブの刈り取りを行い、埋土種子の発芽を促進。
- ・ 里山としての環境を備える意味から、水田または湿地環境の設置も検討したが、維持管理の面から断念。(ただし隣接地にため池は存在)
- ・ 造成により改変される地域に生育していた、一部樹木を移植して里山ゾーンに補植。

③ 自然植生および植栽計画

- ・ 里山の植生

④ 観察会や生きもの調査の場

- ・ 館長と歩こう観察の林 三重大学教育学部と連携した活用プログラムの開発
- ・ 利用者と協働による定期的な生きもの調査の実施
- ・ 「第39回ふれあいグリーンキャンペーン」寄贈式 平成26年6月14日(土)
- ・ 三重トヨペット株式会社寄贈、中日新聞社協賛によるコナラ植樹 40本

4.9 移動展示

イオンモールなどの商業施設等で実施した広報PRのためのブース出展において、博物館の施設や展示を紹介する移動展示を行った。(参加人数等、詳細は8広報8.6その他の頁参照)

5 交流創造活動事業

5.1 事業の趣旨・目的

三重の自然と歴史・文化に関する知りたい、学びたい、調べたいなどのさまざまなニーズに対応するとともに、県民・利用者、諸団体、館の相互交流の場となることにより、新たな創造や発信へとつなげるために、閲覧レファレンス活動事業、学習支援活動事業、諸団体との交流・連携事業を展開する。

5.2 閲覧レファレンス活動事業

5.2.1 レファレンス活動

学習交流スペースの利用者に対して、レファレンスカウンターに学芸員が常駐し、三重の自然と歴史・文化、博物館利用に関する質問や疑問、相談に応じている。展示を楽しむだけでなく、さまざまな分野の専門家と日常的に出会うことができる場を用意し利用者と情報交換できる場となっている。

5.2.2 資料利用（閲覧・特別利用）

公文書館機能をもつ当館では、資料閲覧室において、歴史的公文書をはじめとする収蔵資料の閲覧に対応している。資料閲覧室には、三重の自然と歴史・文化に関する参考図書、三重県行政文書複製物（一部閉架）、三重県公報複製物（一部閉架）等が配架されており自由に閲覧可能である。収蔵庫の収蔵資料、書庫の収蔵図書の閲覧については、事前予約が基本となるが閲覧することができる。また、所定の手続きを行うことにより、収蔵資料の写真掲載や貸出等の資料特別利用についても対応を行っている。

1) 資料閲覧室の閲覧資料内訳（平成26年4月から平成27年3月末まで）

閲覧状況	種目	資料内容	閲覧者数
閉架収蔵資料 閲覧	自然系	動物・植物・鉱物その他	6
	人文系	考古資料/絵図・地図/刷り物/絵葉書/歴史資料/絵画・墨蹟/陶磁器/民俗その他	37
		写真資料/映像資料	2
		古文書（一紙物・整理済文書群及び県史からの移管文書群/典籍類）	17
		歴史的公文書（行政文書・選別移管公文書/絵図・地図）	53
		歴史的公文書（行政刊行物）	8
	図書	図書（閉架図書）	26
	行政利用	県議会議事筆記・古文書・明治期公文書・選別公文書・マイクロフィルム	11
上記資料合計		160	
開架資料閲覧	図書・複製物（明治期公文書・三重県公報）・映像等		1,451
室内見学者			2,648
資料閲覧室入室者数合計			4,259

2) 資料特別利用一覧

(資料貸出)

利用資料名	申請者	目的	期間
海女の写真 干潟の生物標本	志摩市教育委員会	志摩市歴史民俗資料館企画展示での展示	平成26年 7月10日～ 9月9日
東海道名所之内桑名屋敷楼 他 7件	朝日町歴史博物館	企画展「名物やきはまぐり～街道の文化～」における展示	平成27年 1月17日～ 2月15日
淡水魚類の樹脂封入標本	斎宮歴史博物館	エントランスホールでの展示	平成27年 2月23日～ 3月10日

(掲載許可)

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
鳥羽城之絵図	個人	宝永地震被害城郭データベース	4月1日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社天夢人	朝日新聞出版『週刊江戸三百藩』 3号 風俗辞典「丁稚奉公」	4月30日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
トバリユウの右上腕骨 トバリユウの右大腿骨	株式会社小学館	『小学館の図鑑NEO 新版 恐竜』 (仮)	5月1日
豊饒御蔭参之図	学校法人高宮学園	2014代々木ゼミナール夏期講習会 テキスト「早慶日本史」	5月12日
合冊「三重県水産図解」P46「サメ」	あいち知多農業協同組合	JAあいち知多組合員向け広報誌 「あぐりっ子」	5月28日
西国三十三所名所図会（除福、八 鬼山荒神茶屋、裸行上人）	三重テレビ放送	「熊野古道 ～お伊勢さんからも うひとつの聖地へ～」 第四話 神々が降り立った地・熊野 ～八 鬼山から浜街道～	5月29日
長田三郎兵衛改津御城下分間絵図 （享保四年六月）	個人	三重大学歴史都市研究センター編 『藤堂藩と地域社会』（仮題）	6月6日
伊勢参宮名所図会巻5上	株式会社毎日放送	毎日放送「ちちんぷいぷい」	6月10日
豊饒御蔭参之図	株式会社天夢人	朝日新聞出版『週刊江戸三百藩』 8月号	6月11日
豊饒御蔭参之図	株式会社ベストセラーズ	歴史人2014年8月号「東大の日本 史合格講座」	6月12日
博物館外観及び展示室画像	一般財団法人建設物価 調査会	月刊 物価資料 平成26年9月 号	6月19日
カモシカの剥製「クマノⅡ号」 2本の蹄	株式会社どりむ社	PHP研究所『日本にしかない生 き物図鑑』（仮）	6月21日
ヒメタイコウチ 標本写真	株式会社大林組	株式会社大林組 コーポレート レポート2014	6月23日
亜瀝青炭	株式会社スタッフラビ	フジテレビ「池上彰 緊急スペシ ヤル」	7月1日
豊饒御蔭参之図	株式会社ネクサス	BS-TBS「謎解き！江戸のス スメ」	7月7日
津綾子肩衣 三重の縞木綿	三重テレビエンタープ ライズ	三重テレビ放送「ゲンキ！み え生き活きレポート」	7月15日
縄文土器片 志摩市柳谷遺跡	三重県環境生活部	『三重県史』通史編 原始古代	7月23日
三重県水産図解 鯨捕漁之図	株式会社クワッド	DVD「海の恵みと日本人 サン マ」	7月31日
伊勢の海土 長鮑制之図	株式会社アイオン	BS日テレ「キズナのチカラ」	8月1日
郡町村分合取調書、三重郡室山村 全図 ほか	四郷郷土資料保存会	郷土の歴史に関する出版物	8月3日
伊勢古市備前屋踊りの図（国貞） 伊勢古市踊図（周廷）	個人	「伊勢名物通神風」現代語表記書 き下し文のカットとして利用	8月5日
伊勢参宮名所図会 中川原	株式会社スタジオポルト	『地図と写真から見える！日本 の街道歴史を掘る』	8月11日
伊勢表産地調査報告書 ほか	個人	『部落解放研究』（一般社団法人 部落解放・人権研究所紀要）	8月13日
ミエゾウ全身骨格	みなくち子どもの森自然 館	市行政情報番組「きらめきこう か」	9月4日
豊饒御蔭参之図	学校法人高宮学園代々 木ゼミナール	「2014センター試験プレテスト （日本史A）」	9月16日
豊饒御蔭参之図	公益財団法人北九州市 芸術文化振興財団	ワークショップで制作するプロモ ーションビデオ	9月18日
豊饒御蔭参之図	株式会社ファイコム	近畿日本鉄道 式年遷宮NAVI Webサイト	9月18日
津城 御城下分間絵図	株式会社碧水社	「日本の城」98号「津城の縄 張」	9月22日
伊勢古市備前屋桜花楼踊りの図 （豊谷）	株式会社田園工房	読売テレビ「遠くへ行きたい」	9月29日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
三重県尾鷲町（現尾鷲市）の写真 （太田金典氏撮影）	NHK津放送局	ナビゲーション「戦争に隠された地震被害～昭和東南海地震から70年目の記録～」	9月29日
三重県水産図解 石蔵部分	グループ・コロンブス 株式会社	学研教育出版『うなぎ 一億年の謎を追って』	10月1日
トバリユウ上腕骨、大腿骨	NHK札幌放送局	「北海道クローズアップ恐竜大発掘」	10月1日
伊勢暦（天明4年、天保5年、天保6年）	三重県教育委員会	トークセミナー 歩いて旅する！ 「世界遺産となった道 熊野参詣道伊勢路」資料及び電子書籍 （一般向け・中高生向け）	10月2日
伊勢参宮名所図会のうち、古市のにぎわい部分	株式会社セブンオークス・ パブリッシング	マガジンハウス「YUKARI（ゆかり）」 Vol.17「日本の旅」特集「日本の旅のルーツお伊勢参り」	10月8日
三重県総合博物館外観	三重県社会科研究会	社会科副読本「三重のすがた」	10月11日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社マックオフィス	朝日新聞出版「大江戸捜査網DVD コレクション第26号」	10月20日
三重県水産図説 鮑漁 婦之図	株式会社ファイコム	鳥羽市観光公式サイト「恋する鳥羽」 海女の歴史コンテンツ内	10月23日
伊勢の引札	有限会社大悠社	学研教育出版『くらべる100年 「もの」がたり』	10月24日
トバリユウ上腕骨、大腿骨	NHK札幌放送局	「サイエンスZERO恐竜大発掘」	10月28日
三重鉄道敷設関係図面土木課（大正5～10年）（うち鉄道図面、機関車図等）	個人	鉄道雑誌「鉄道ピクトリアル」 もしくは「レールマガジン」	10月29日
伊勢参宮名所図会 中川原	株式会社テレビ朝日	テレビ朝日「Qさま!!特別編」	11月7日
三重県下頑民暴動之図、浮絵駿河町呉服屋図、豊饒御蔭参之図	株式会社日本入試センター	サピックス小学部 学習教材	11月11日
小学少年双六	株式会社ベネッセコーポレーション	平成27年度進研ゼミ小学講座 チャレンジ3年生1月号	11月17日
9種類のお雑煮の集合写真 青菜/小豆/具材の多い雑煮の写真3点	サイテック・コミュニケーションズ	公益社団法人日本化学会会誌「化学と工業」2015年1月号	11月25日
避水移居実況図 ほか	伊賀市	『伊賀市史』第3巻通史編近現代	11月28日
浮絵駿河町呉服屋図	株式会社フォーチュンボックス	晋遊社「江戸新知識100+α」	11月30日
東南海地震の尾鷲市の被害写真 （太田金典氏撮影）	NHK（報道局ネット報道部）	NHK NEWSWEB（NHKのニュースサイト）	12月8日
舞楽図説 春鶯囀	株式会社近衛ロンド	朝日新聞出版『平安の大事典』	12月12日
伊勢参宮名所図会 明星部分	株式会社民衆社	『社会科の授業 小学6年』	12月17日
伊勢参宮名所図会 間の山 豊饒御蔭参之図 伊勢参宮 宮川の渡し	テレビ朝日映像株式会社	BS朝日「ニッポン絶景街道」	12月23日
伊勢暦（文政2年）	株式会社TBSビジョン	BS-TBS「美しい日本に出会う旅」	12月24日
アルミ製ランドセル	河合産業株式会社	全国の小学校又は販売店で手渡しする情報誌	12月26日
稗田村之図 ほか9点	栄郷土史研究会	『さかえ郷土史』	12月26日
ギフチョウ、ゲンゴロウ など	三重県農林水産部	『三重県レッドデータブック2015』	1月9日
三重県産貝類標本リスト	三重貝なかま	三重県自然誌の会「（仮称）三重県生物誌（貝類）」	1月14日

利用資料名	申請者	掲載先	申請日
伊勢参宮 宮川の渡	四日市市	市政情報番組 「ちゃんねるよっかいち」	1月15日
豊饒御蔭参之図	株式会社エディット	『角川まんが学習シリーズ日本の歴史』第11巻及び電子書籍	1月27日
桑名家寄贈・寄託資料 寄贈刀剣、 桑名家寄贈・寄託資料 寄託刀剣	高知県立歴史民俗資料館	企画展示室（写真パネル）企画 展広報物等	1月29日
土族就産一件（十駕社社号社長御届） 元津県卒復族哀願（内務省土族許可書）	個人	『三重の古文化』第100号	1月30日
外宮御宮地図	酒垂神社	『千尋の浜草と藤のかき葉 本 居宣長と門人加藤吉彦の生涯』	2月1日
豊饒御蔭参之図	株式会社ゴーシュ	宝島社『逆説の明治維新』	2月2日
三重県水産図解楯切網 須賀利浦、 矢口浦	株式会社名古屋東通企 画	CBCテレビ「ゴゴスマ」	2月4日
三重県水産図解（鮪漁） 東海道名所改正道中記 擬革紙製の煙草入れ	三重県環境生活部	『三重県史』通史編近現代1	2月4日
トバリユウの右の大腿骨 トバリユウの左の大腿骨 ニルソニア	築地書館株式会社	『日本の恐竜図鑑2 白亜紀の 真実（仮題）』	2月6日
ミエゾウ全身復元骨格	株式会社ロム・インター ナショナル	実業之日本社『三重「地理・地 名・地図」の謎』	2月7日
明治30年1月臨時県会議事筆記ほか	個人	『三重の古文化』第100号	2月16日
豊饒御蔭参之図	株式会社進学会	「歴史（上）」、「夏季講習会」、 「冬季講習会」	2月18日
ヤナギダニヒタチオビ、ミエヒタチオビ など	東海化石研究会	東海化石研究会機関誌「化石の 友」60号	2月19日
博物館の外観写真	度会町立度会小学校	社会科3・4年副読本「わたした ちの度会町」	2月20日
徴兵告諭（大林文庫）ほか	三重県環境生活部	『三重県史』通史編 近現代1	2月24日
ミエゾウ復元画	宇佐市民図書館	『新・宇佐ふるさとの歴史』	2月26日
サンゴ化石、チタスナモグリ	東海化石研究会	東海化石研究会機関誌「化石の 友」60号	2月26日
トバリユウ想像図（画：岡本泰子）	有限会社ハユマ	株式会社新学社「夏、夏、ポピー （仮称）」	3月4日
ニホンオオカミ頭骨（レプリカ）ほか	三重県立熊野古道セン ター	三重県立熊野古道センター『くま の・みち叢書 熊野古道の獣』	3月5日
トバリユウの化石	株式会社新日本出版社	『恐竜冒険館 4巨大竜と翼竜』 「恐竜の見られる博物館3」	3月12日
豊饒御蔭参之図 伊勢参宮名所図会 中川原部分	株式会社テイクス	三重テレビ「ええじゃないか。」	3月16日

(その他の利用)

利用資料名	申請者	目的	申請日
度会郡嶋津村/伊勢国度会郡古和浦 全図贅浦全図 度会郡鶴倉村/伊勢 国度会郡	南伊勢町教育委員会	県指定文化財候補にかかる情報 の照会についての回答資料	7月16日
「詳しく見よう三重」現状/(明治時代) 《河辺・長岡・渋見・上津部田・観 音寺・広明台地域（津西地区）》 「詳しく見よう三重」現状/(昭和20・ 40・50年代) 上記築（津西地区）	個人	三重大学大学院工学研究科特別 課程 研究課題「津西地区昔と 今」	8月3日
勢州鮑取り之図、山海名産尽、大日 本物産図会、光氏磯辺遊之図、伊勢 の海士長鮑制之図	志摩市教育委員会	志摩市歴史民俗資料館企画展 「志摩の海女さん」展示パネル	8月19日

利用資料名	申請者	目的	申請日
ミエゾウ全身骨格	三重県高等学校文化連盟	近畿高等学校総合文化祭 総合開会式 三重県紹介で使用	9月4日
岩田橋欄干の擬宝珠	古美術修理 すぎもと	学術上の調査研究のための利用	10月6日
三重鉄道敷設関係図面 土木課	個人	四日市市役所公共交通室主催「公共交通について」参考資料	10月22日
度会郡一之瀬村/伊勢国度会郡南中村全図	南なかむら未来 (あした) 築き隊	南中村公民館でのパネル展示	11月20日
四日市港近傍町村之図 (明治19年)	四日市市役所 環境部 環境保全課	平成27年3月開館予定の「(仮称) 四日市公害と環境未来館」の常設展示にて、展示グラフィックパネル、映像などに使用	11月27日
東海道名所之内桑名屋敷楼 他7点	朝日町歴史博物館	学術上の調査研究のための利用	12月23日
明治31年通常三重県会議筆記	三重郷土会	『三重の郷土会』機関誌掲載論文の引用箇所点検	2月22日
パレオパラドキシア 大白歯、パレオパラドキシア 小白歯、パレオパラドキシア 脛骨	東京大学大学院理学研究科	学術上の調査研究のための利用	3月13日

5.3 学習支援活動事業

博物館の利用者に、三重の自然と歴史・文化や博物館の活動に対する興味・関心を持つきっかけや深める機会を提供することを目的として、講座やワークショップ、フィールドワークなどの学習支援活動を実施している。

5.3.1 講座

1) MieMuセミナー

三重の魅力を探究し、基本展示の展示内容について、より詳しく知ることができ、かつ興味が持てるように、三重の自然と歴史・文化に関する専門家として外部講師を招いて行う講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
御在所山の自然	7月20日(日)	レクチャールーム	30	御在所ロープウェイ株式会社 企画広報部長 森 豊
パレオパラドキシアとその仲間の生態	9月21日(日)		32	大阪市立自然史博物館 学芸員 林 昭次
松坂に本拠を構えた長谷川治郎兵衛家について	11月16日(日)		62	松阪市文化財保護審議委員 門暉代司
基本展示「里山と人とのつきあい - 伊賀盆地の農村 -」に展示している、勸請縄について	1月18日(日)		36	伊賀市文化財保護審議会委員 福田良彦
江戸時代の伊勢～その檀所廻りと「参宮」～	3月22日(日)		38	三重県環境生活部文化振興課 県史編さん班主幹 小林 秀
計			198	

2) 学芸員フリートーク

各月の第4土曜日に当館の学芸員がそれぞれの専門分野について講演する講座。来館者が気軽に参加できる講座。平成26年度は全12回開催

行事名	開催日	会場	人数	講師
植物観察とタンポポ観察	4月26日(土)	レクチャールーム	8	当館館長 布谷知夫
身近な植物観察	5月24日(土)		5	当館館長 布谷知夫
虫をじっくり見てみよう?ホタル?	6月28日(土)		46	当館職員 大島康宏
伊勢商人の話	7月27日(日)		13	当館職員 太田光俊
津藩の大名級家臣・名張藤堂家	8月23日(土)		7	当館職員 藤谷彰
実はコケ、ぜんぶ植物なんです	9月27日(土)		7	当館職員 森田奈菜

行事名	開催日	会場	人数	講師
熊野観心十界曼荼羅についての話	10月13日(月・祝)	レクチャー ルーム	13	当館職員 瀧川和也
タナゴ亜科魚類の話	11月22日(土)		14	当館職員 北村淳一
平安貴族の年末年始	12月27日(土)		15	当館職員 宇河雅之
幕末維新期の三重県域	1月24日(土)		19	当館職員 水谷憲二
はじめてみよう！身近な貝の観察	2月21日(土)		18	当館職員 中野 環
鎌倉時代の人ほどどんなお金をつかっていたのだろうか？	3月28日(土)		8	当館職員 杉谷政樹
計			173	

3) MieMuフォーラム

三重大学との連携による講座。基本展示「人の交流～伊勢をめざす人々～」コーナーの中心的展示「御師三日市大夫次郎の屋敷」の復元に携わっていただいた方々を講師に招き建築の視点から迫った。

行事名	開催日	会場	人数	講師
三重大学連携 「伊勢参宮と御師 御師屋敷を復元する」	3月29日(日)	レクチャー ルーム	65	三重大学工学研究科教授 菅原洋一 株式会社継承社名古屋事務所 所長 野村俊也 STANDS ARCHITECTS代表 横関 浩
計			65	

4) 同定会

海や山、自宅や学校で見つけた動物、植物、化石などの標本を持ち寄って、各分野の専門家と一緒に名前を調べるイベント。会場内で昆虫切り紙ワークショップも開催

行事名	開催日	会場	人数	講師
標本の名前を調べてみよう(同定会)	8月24日(日)	レクチャー ルーム	30	当館職員、外部講師 ※詳細は以下のとおり
昆虫切り紙ワークショップ			159	
計			189	

※講師 [植物]当館職員 松本功・森田奈菜 [昆虫]三重昆虫談話会 河北均、当館職員 大島康宏
[貝類]当館職員 中野環 [脊椎動物]元三重県立博物館館長 富田靖男、当館職員 北村淳一
[岩石・鉱物]皇學館高等学校 上野貴司 [化石]当館職員 中川良平・津村善博

5) わくわくサイエンス

実験、観察、工作などの自然史系分野の体験教室

行事名	開催日	会場	人数	講師
化石レプリカづくり	5月31日(土)	実習室	52	当館職員 津村善博
ミクロの世界を旅しよう	8月16日(土)		78	NPO法人楽知ん研究所 代表理事 宮地祐司 協力：三重大学
	8月17日(日)		78	
葉っぱスタンプで遊ぼう	8月23日(土)		10	当館職員 森田奈菜
エネルギー・放射線実験教室	9月14日(日)	レクチャー ルーム	119	日本科学技術振興財団
	9月15日(月・祝)		115	
葉脈をとり出そう	10月5日(日)	実習室	26	当館職員 森田奈菜
化石レプリカづくり	12月13日(土)		31	当館職員 津村善博
顕微鏡を使ってみよう	2月15日(日)		30	当館職員 森田奈菜
計			539	

6) 古文書調査法 研修講座

古文書の調査法や解読について、5回連続して行う講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
研修講座①	6月15日(日)	レクチャー ルーム ほか	14	当館職員
研修講座②	8月31日(日)		15	藤谷彰 瀧川和也 太田光俊
研修講座③	10月11日(土)		12	水谷憲二
研修講座④	12月20日(土)		14	三重県環境生活部文化振興課 県史編さん班

研修講座⑤	2月22日(日)		14	主幹 小林 秀 主幹 筒井正明
計			69	

7) さんちゃんのお食事会

館内で飼育しているオオサンショウウオの給餌を公開し、観察する講座。各月第2土曜日に実施

行事名	開催日	会場	人数	講師
さんちゃんのお食事会	5月10日(土)	オオサンショウウオ 観察水槽前	68	当館職員 中川良平
	6月14日(土)		70	当館職員 中野 環 当館職員 大島康宏
	7月12日(土)		90	当館職員 北村淳一
	8月9日(土)		72	
	9月13日(土)		75	
	10月11日(土)		51	
	11月8日(土)		55	
	12月13日(土)		53	
	1月10日(土)		53	
	2月14日(土)		66	
	3月14日(土)		57	当館職員 中野 環
計			710	

8) 週末ワークショップ

1ヶ月に1回程度実施する自由参加型の講座。奇数月第4土曜日には、ミュージアム・パートナーのおもしろ博物館グループが担当

行事名	開催日	会場	人数	講師
パタパタはばたくちょうちよをつくろう	5月24日(土)	学 習 交 流 ス ペ ー ス	140	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
みえの「森」「木」っていいね! in MieMu	6月28日(土)		100	三重県農林水産部 みどり共生推進課
こすりだし図鑑をつくろう	7月21日(月・祝)		122	当館職員 稲垣玲弥
ミエゾウ足跡スタンプ	7月26日(土)		36	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
シュロでバッタをつくろう	9月14日(日)		33	当館館長 布谷知夫 当館職員 稲垣玲弥
さんちゃんの紙工作	9月27日(土)		19	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
ドングリで遊ぼう(ドングリゴマ、 ドングリネックレス)	10月19日(日)		35	当館職員 稲垣玲弥
ドングリで遊ぼう(ドングリ人形)	11月15日(土)		41	当館職員 稲垣玲弥
ゆらゆらトンボ	11月22日(土)		49	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
マツボックリでクリスマスツリー をつくろう	12月14日(日)		70	当館職員 稲垣玲弥
正月かざりづくり体験	12月20日(土)	交 流 活 動 室	25	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
雪の結晶切り紙をつくろう	1月18日(日)	学 習 交 流 ス ペ ー ス	80	当館職員 稲垣玲弥
海のモンスターを探してマイ水族館をつくろう	1月24日(土)		21	ミュージアム・パートナー おもしろ博物館グループ
メッセージカードをつくろう	2月14日(土)		35	当館職員 稲垣玲弥 当館職員 中村千恵
伊勢型紙をつかってカードをつくろう	3月28日(土)		81	当館職員 稲垣玲弥
計			887	

9) 開館記念 夏休みイベント

開館記念企画展第3弾「でかいぞ ミエゾウ!～化石が語る巨大ゾウの世界～」の開催に先立ち、ミエゾウの世界を描いた絵本「ぼく、見つけたよ」の作者であるあべ弘士氏を招き、子どもたちといっしょに、1階

のミュージアムフィールドへつながるトンネルの壁面にミエゾウの世界を描くワークショップを開催。

行事名	開催日	会場	人数	講師
みんなで描こう！ミエゾウの世界	7月26日(土)	ピロティ	20	絵本作家 あべ弘士 協力：こどもの本専門店メリー ゴーランド店主 増田喜昭
計			20	

5.3.2 フィールドワーク

1) 館長と歩こう！観察の林

館長や学芸員が参加者と一緒にミュージアムフィールドを歩く自然観察会。5月から11月の第1土曜日に当日申込みにより実施

行事名	開催日	会場	人数	講師
館長と歩こう！観察の林(5月)	5月3日(土・祝)	ミュージアム フィールド	15	当館館長 布谷知夫
館長と歩こう！観察の林(7月)	7月5日(土)		8	
館長と歩こう！観察の林(8月)	8月2日(土)		32	
館長と歩こう！観察の林(9月)	9月6日(土)		4	当館職員 松本 功
館長と歩こう！観察の林(10月)	10月4日(土)		20	当館館長 布谷知夫
計			79	

※6月7日(土)、11月1日(土)は雨天のため、中止した。

2) 親子で標本づくりにチャレンジ！

ミュージアムフィールドで昆虫や植物の観察・採集を行い、実際に標本をつくる体験講座

行事名	開催日	会場	人数	講師
親子で標本づくりに チャレンジ！	10月18日(土)	ミュージアムフィールド および実習室	28	学芸員 大島康宏
計			28	

※8月9日(土)は台風接近による警報発令のため中止した。

3) 身近な地学

県内の特徴的な岩石や地層、化石の観察会

行事名	開催日	会場	人数	講師
身近な地学Ⅰ(川原の石 - 櫛田川 -)	5月10日(土)	多気町古江櫛田川 右岸河床	25	当館職員 津村善博 当館職員 中川良平
身近な地学Ⅱ(一志層群 の化石の観察会)	12月6日(土)	津市美里町 長野川 河床	29	
計			54	

4) 文化財探訪

学芸員と一緒に、県内の文化財を訪ね歩く行事

行事名	開催日	会場	人数	講師
伊勢商人の町射和と熊野 への道	11月9日(日)	多気町射和・相可	11	当館職員 太田光俊 当館職員 天野秀昭
高田本山専修寺を歩く	3月22日(土)	津市内	35	
計			46	

5.3.3 学習支援冊子・マップ

博物館の展示や資料、活動に関する情報を発信するために、情報誌「みえんしす」の刊行を開始したほか、博物館活動の象徴として学習交流スペースに展示しているミエゾウについて分かりやすく解説したパンフレット、学校の遠足や社会見学に活用できる子ども向けの基本展示室MAPを作成した。

- ・三重県総合博物館情報誌「みえんしす」(第1号～第4号)

1号(10月2日発行) 特集「祈りと癒しの地 熊野」

- 2号（11月20日発行） 特集「三重のまちかど博物館」
- 3号（1月9日発行） 特集「結婚式は時代とともに」
- 4号（3月6日発行） 特集「親鸞 高田本山専修寺の至宝」

- ・「ミエゾウってなんだ??」
- ・「基本展示室MAP」

5.3.4 人材育成支援活動

1) 博物館学芸員実習

各大学における「博物館学芸員資格」の必須科目である「博物館実習」を希望する学生の受け入れを行った。

①Aコース

[実習生] 三重大学（4名）、皇學館大学（2名）、愛知学院大学、京都橘大学、京都造形芸術大学、静岡大学、金沢大学、九州保健福祉大学、福島大学（各1名）

日 程	概 要
8月20日(水)	・ガイダンス、新博物館の整備について ・保存科学入門、館内見学・博物館学入門、課題発表会
8月21日(木)	・収蔵庫見学（人文分野・自然分野） ・資料の取り扱い（人文分野・自然分野）
8月22日(金)	・子ども体験展示室 解説書づくり
8月23日(土)	・「親子化石さがし」 補助 ・「わくわくサイエンス」 補助
8月24日(日)	・「同定会」 補助

※静岡大学の学生1名は、上記に加えて、8月16日（土）・17日（日）・26日（火）～28日（木）にワークショップや広報活動、展示室の観覧者行動調査など、合計10日間の実習を行った。

②Bコース（三重大学との相互協定による連携事業として実施）

[実習生] 三重大学（2名）

日 程	概 要
8月3日(日)	・M祭！「切り紙で昆虫博士になろう」 補助
11月8日(土)	・オオサンショウウオについての館内アンケート
11月9日(日)	・アンケート結果打込み 補助
11月16日(日)	・公文書の取り扱い
12月7日(日)	・古文書・公文書の整理
12月13日(土)	・「わくわくサイエンス」 補助
12月14日(日)	・週末ワークショップ 補助

2) インターンシップ

博物館での就業経験を希望する学生の受け入れを行った。

[実習生] 三重大学（1名）

日 程	概 要
8月12日(火)	・施設の概要説明、館内案内 ・博物館業務概要説明等
8月13日(水)	・受付、案内業務(1) ・学習交流スペース運営業務
8月14日(木)	・展示室運営業務 ・レファレンス業務
8月15日(金)	・受付、案内業務(2) ・展示室運営業務

5.4 他機関・諸団体との交流・連携事業

博物館活動の基本的な活動の視点である「協創」と「連携」に基づき、他機関・諸団体との交流と連携を深め、新たな創造と発信の機会とするために、連携のための協議、連携・協力による講演会や各種ワークショップ、展示、博物館の活用等を実施した。

5.4.1 学校

1) 遠足・社会見学等の利用

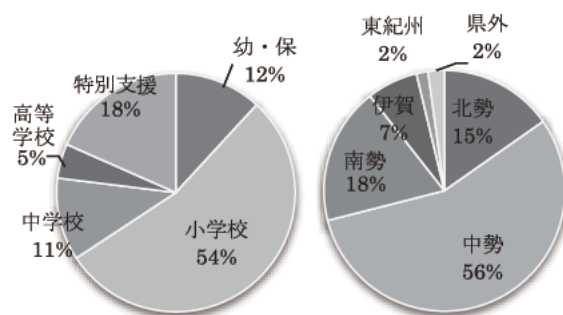
平成26年度の学校利用については幼稚園等38園、小学校173校、中学校36校、高等学校15校、特別支援学校59校の計321校であった。また、地域別の利用状況については、北勢地区49校、中勢地区179校、南勢地区59校、伊賀地区22校、東紀州地区5校、県外7校であった。また、小学校3年生で学ぶ「昔の暮らし」の学習時期に合わせてトピック展示「暮らしの道具」を開催し、会期中に展示見学のために来館した小学校10校に、学芸員が道具の使用体験を交えた解説対応を行った。

	幼稚園等	小学校	中学校	高等学校	特別支援
実数	38	173	36	15	59
割合(%)	11.8	53.9	11.2	4.7	18.4

校種別の利用数

	北勢	中勢	南勢	伊賀	東紀州	県外
実数	49	179	59	22	5	7
割合(%)	15.3	55.8	18.4	6.9	1.6	2.2

地域別の利用校数



校種別の利用割合

地域別の利用割合

2) 教職員研修

博物館と学校教育との連携の観点から、教職員の方々に博物館の活動や施設等について知っていただき、学校教育における博物館活用を促進するために講師派遣、教員研修（個人・団体）の受入を行った。

<総合教育センター講座>

8月19日 地学研修 講師派遣

12月11日 総合教育センター研修講座 研修終了後当館の紹介

<教員研修>

7月1日 高田高等学校教員研修

8月20日 津市教育研究会社会科部会

7月26日 鈴鹿高等学校教員研修

8月29日 三重県小学校理科教育振興会

8月5日 亀山市教員(理科部会)研修

11月27日 いなべ市・員弁郡小中学校長会

8月5日 亀山市教員(生活総合部会)研修

2月6日 高等学校美術研究会研修会

8月5日 伊勢市教育研究会

2月12日 三重県高等学校理科教育会研究会

8月6日 伊賀市教育研究会小学校部

役員会視察

8月8日 松阪市社会科研究会

2月25日 松阪市小学校社会科教育部会

8月20日 津市教育研究会理科部会

3) スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業への協力

・三重県立津高等学校のスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業

SSH探求活動として6名の学芸員が講座を担当した。(平成26年8月21日)

森田奈菜 (植物)、大島康宏 (昆虫)、中野環 (海産無脊椎動物)、太田光俊 (歴史)、門口実代 (民俗)、宇河雅之 (歴史・民俗)

4) 中学生の職場体験

平成26年度については、試行的な取組として、1校の受入れを行った。

・津市立南ヶ丘中学校2年生 3名 (平成26年9月9日～9月11日)

5.4.2 大学

1) 三重大学

三重大学とは、平成26年2月に締結した「三重県総合博物館と国立大学法人三重大学との相互協力協

定」に基づき、三重の自然と歴史・文化などのかけがえのない地域資源を活かし、文化振興と地域づくりに寄与することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。(相互協力協定書はP27に掲載)

①連携事業

(1) 共同研究

- ・志摩市志先志摩半島における総合的な地域調査

志摩市志摩町を中心とする先志摩半島地域を対象とする総合調査。3か年事業(平成24～26年度)の初年度にあたる本年度は、概況と課題を把握するための予備調査を実施した。

- ・学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発(平成25～29年度)

(2) 連携フォーラム

- ・三重大学MieMu連携フォーラム「伊勢参宮と御師屋敷邸宅を復元する」

期 日 平成27年3月29日(日) 場 所 レクチャールーム

基本展示の御師三日市大夫次郎の屋敷の復元をめぐる建築史の視点からの講演とパネル討議。

(3) 博物館実習

- ・Aコース(平成26年8月20日(水)～8月24日(日)) 三重大学生 4名受入

- ・Bコース(平成26年8月3日(日)、11月8日(土)、11月9日(日)、11月16日(日)、12月7日(日))
三重大学生 2名受入

(4) インターンシップ

博物館での就労経験を希望する学生1名受入(平成26年8月12日(火)～8月15日(金))

(5) 博物館学芸員養成課程授業

[授業担当]

- ・生物資源学部の学芸員養成課程授業科目 「博物館資料論」「博物館資料保存論」

講義の一部を当館職員中川良平・大島康宏が担当

[授業協力]

- ・人文学部博物館実習 ①バックヤード等の施設見学(平成26年5月28日(水))、②保存環境に関する施設・設備見学(平成26年6月4日(水))、③歴史資料の資料取扱の研修(平成26年7月9日(水))

- ・教育学部博物館概論 ①博物館見学(平成26年4月19日(土))、②バックヤード等の施設見学(平成26年7月13日(日))

(6) 授業での施設利用

- ・教育学部里山林実習(平成26年11月15日(土)、ミュージアムフィールド・基本展示室)

- ・教育学部施設見学(平成26年7月5日(土))

(7) 教育学部理科教育講座と博物館との連絡会議

期 日 平成26年9月2日(火)、平成27年3月24日(火)

(8) 連携講座など

- ・親子孫で たのしい仮説実験講座「ミクロの世界を旅しよう」(NPO法人楽知ん研究所)

期 日 平成26年8月16日(土)、17日(日) 場 所 実習室

- ・自然観察会「博物館の森を調べよう！」

期 日 平成26年7月27日(日) 場 所 ミュージアムフィールド

- ・子どものための科学の祭典

期 日 平成26年7月19日(土) 場 所 三重大学講堂 内 容 昆虫切り紙

(9) その他

- ・共生環境学専攻博士後期課程 特別シンポジウム「緑のループ 新しい持続的社會に向けて」(平成

27年3月27日(金)、レクチャールーム)

- ・赤塚植物園の森事前調査(平成26年8月13日(水))

②連絡推進会議

三重大学博学連携推進室 吉岡基、菅原洋一、山田康彦、塚本明、木村妙子、高野恵子
三重県総合博物館 布谷知夫、杉谷政樹、天野秀昭、中野環、北村淳一、間渕創

- ・第1回 日時 平成26年7月14日(月) 場所 三重大学図書館
内容 ・連絡推進会議(第3条)のあり方と要綱について
・相互協力事項(第2条)について
先志摩半島(志摩町)共同調査、お伊勢参りシンポジウム など ほか
- ・第2回 日時 平成26年9月11日(木) 場所 会議室
内容 ・連絡推進会議の設置要綱について
・先志摩半島の共同調査について
・御師屋敷をテーマにした講演プログラムについて ほか
- ・第3回 日時 平成26年12月17日(水) 場所 三重大学図書館
内容 ・先志摩半島の共同調査について
・次年度事業等について
MieMuフォーラム、博学連携シンポジウム など ほか
- ・第4回 日時 平成27年3月5日(木) 場所 会議室
内容 ・先志摩半島の共同調査の進捗について
・次年度事業について
先志摩半島共同調査内容、博学連携シンポジウム など ほか

2) 皇學館大学

皇學館大学とは、平成25年2月に締結した「三重県総合博物館と皇學館大学との相互協力協定」に基づき、三重の地域振興のため、双方の知的資産を活用して連携し、三重に関連する地域資源を探求・保存継承・活用発信を行うとともに、地域に伝わる伝統や文化を尊重し、次世代に活躍する人材を育成することを目的として、相互協力による連携事業に取り組んでいる。また、連携の協議機関として、連絡調整会議を設置し、定期的に事業調整・協議を行っている。(相互協力協定書はP28に掲載)

①連携内容

(1) 共同研究

- ・皇學館大学 佐川記念神道博物館の所蔵資料を用いた調査・研究
神道博物館所蔵の鏡鑑類コレクションの科学的分析などの共同研究。本年年度は資料確認、調査方法について協議を行い、次年度から本格的に実施

(2) 博物館実習

- ・Aコース(平成26年8月20日(水)～8月24日(日)) 皇學館大学生 2名受入

(3) 博物館学芸員養成課程授業

- ・学芸員養成課程授業科目:「博物館経営論」「博物館資料保存論」「博物館資料論」
講義の一部を当館職員布谷知夫、間渕創、天野秀昭が担当

(4) 授業などでの施設利用

- ・参拝見学にともなう見学(平成26年11月5日(水))

(5) 学生育成にかかる事業

- ・当館資料を用いた古文書調査(平成27年3月4日～6日、人文資料整理室ほか)

(6) 連携講座

- ・ビブリオバトルin MieMu

期 日 平成26年10月5日(日) 場 所 学習交流スペース

企画展「祈りと癒しの地 熊野」に関連し、「聖地」をテーマに本を紹介するビブリオバトルを実施

②連絡推進会議

皇學館大学研究開発推進センター 岡野友彦、岡田芳幸、中松豊、千枝大志、前田和宏、橋本久、
長谷川寛子

三重県総合博物館 杉谷政樹、岸田早苗、中野環、北村淳一、中村千恵

- ・第1回 日 時 平成26年8月8日(金) 場 所 会議室
内 容 ・連絡推進会議(協定第3条)のあり方と要綱について
・連携・協力事項(協定第2条)について
総合博物館資料を用いた学生育成の調査等、学芸員養成課程授業への協力、
ビブリオバトルの開催など ほか
- ・第2回 日 時 平成26年11月27日(木) 場 所 皇學館大学 佐川記念神道博物館
内 容 ・連絡推進会議(協定第3条)の要綱について
・連携・協力事項(協定第2条)について
古文書調査補助(学生育成)、神道博物館所蔵資料の共同研究、学芸員養
成課程授業への協力、ボランティアによる協力など ほか
- ・第3回 日 時 平成27年3月5日(木) 場 所 会議室
内 容 ・探求・保存継承・活用発信について
総合博所蔵資料の調査補助(学生育成)、神道博物館所蔵の共同研究、
・次世代育成について
・次年度の学芸員養成課程授業への協力

5.4.3 博物館

三重県内には登録博物館19館、博物館相当施設3館及び類似施設82館あり、相互に情報交換や企画展等での資料貸借などの相互協力を行っている。県内博物館の53機関70施設が加盟する三重県博物館協会の事務局が当館に置かれていることから、県内博物館との全体的な連携は主に同協会事業を兼ねて行っている。

また、県外の博物館との関係では、全国組織である日本博物館協会、同近畿支部、全国科学博物館協議会、全国歴史民俗系博物館協議会に加盟している。このうち、平成26年11月には第62回全国博物館大会が三重県で開催され、共催機関・会場館として参画した。また、岐阜県博物館との連携に向けた準備を推進した。

1) 三重県博物館協会

三重県博物館協会は、昭和48年に三重県内の博物館園等の相互連携を密にし、博物館事業等の普及発展を図り、三重県の文化の進展に寄与することを目的として設立され、平成26年度には県内博物館の53機関70施設が加盟している。当館館長が理事に選任され、また、当館が協会事務局を引き受けている。

①総 会

期 日 平成26年5月16日(金) 場 所 レクチャールーム

②事業内容

(1) 研修事業

「博物館協会会員館のネットワーク強化」、「研修機会の充実」として各博物館施設と協力して実施。

○会員館スキルアップ研修

全国博物館大会の運営・参加を研修の機会とした。

○会員館ネットワーク強化事業

情報交換会 期 日 平成26年5月16日(金) 場 所 レクチャールームほか

内 容 総会后、40周年記念事業の運営について情報交換を実施

(2) 三重県博物館協会教育普及事業

○公開講座「ミュージアム・トーク みえものがたり」

本年度は、40周年記念事業などのため、例年の講座は中止とし、同事業における学芸員の話やギャラリートークを代替に位置づけた。

(3) 博物館関係情報共有事業

第62回全国博物館大会が三重県で開催され、当協会会員館園職員が実行委員や運営スタッフとして参画するとともに、大会概要を作成し、会員館園に配布・情報共有した。

(4) 三重県博物館協会HP充実事業

ブログについて、40周年記念事業ワーキンググループ有志により情報掲載を中心に運営。

(5) 東海三県博物館研究交流会

期 日 平成26年10月17日（金） 場 所 愛知県陶磁美術館

テーマ：「地域と結びついた博物館活動～地域に必要とされる館になるために～」

内 容：愛知県の事例発表 湯浅大司（新城市設楽原歴史資料館）

三重県の事例発表 北村淳一（三重県総合博物館）

岐阜県の事例発表 金子徳彦（古今伝授の里フィールドミュージアム）

参加者：愛知県40名、岐阜県8名、三重県9名

(6) 三重県博物館協会 創立40周年記念事業

○三重県博物館協会40周年記念展

「我が館はここからはじまった～県内博物館・美術館・資料館・水族館大集合～」

※文化庁補助事業：平成26年度文化芸術振興費補助金 地域と共働した美術館・歴史博物館
創造活動支援事業

事業名称：三重県内の博物館のネットワーク形成を目指す展示事業

期 間 平成26年6月28日（土）～7月13日（日） 場 所：企画展示室・交流展示室

参加館園数 70館 展示資料 三重県の博物館史を物語る多種多様な資料約150件

観覧料 無料 来場者 8,906名

関連行事

・学芸員のはなし 期 日 6月29日（日） 講 師 当館職員 太田光俊
内 容 「三重県の博物館めぐり～MieMuの基本展示から～」
参加者 20名

・ギャラリートーク 期 日 6月29日（日） 講 師 各館担当者 参加者 450名
期 日 7月5日（土） 講 師 各館担当者 参加者 390名
※ギャラリートーク参加者数は、解説実施時間中に入室した人数

○記念事業小冊子の作成

三重県博物館協会40周年記念展 成果報告書「我が館はここから始まった」を作成。

(7) 第62回全国博物館大会の共催および参画

平成26年11月に三重県で開催された第62回全国博物館大会には、三重県博物館協会が共催者として参画することになり、実行委員会を組織して対応を行った。実行委員会には、顧問1名、実行委員長1名、副委員長2名、実行委員14名、事務局員6名が参画した。

また、大会期間中には、三重県博物館協会加盟館園から運営スタッフとしてのべ127名が参加し、大会期間を含む5日間に施設無料観覧の協力（会員63館、非加盟施設1館）を行った。

(8) 災害発生時の相互協力事業

○台風等の災害発生時の情報調査

災害発生時に、県教育委員会社会教育・文化財保護課、環境生活部文化振興課県史編さん班、三重県博物館協会事務局（当館）の三者で情報集約と相互共有を行った。

① 平成26年8月9日（土）（台風11号） ② 平成26年10月14日（火）（台風19号）

2) 第62回全国博物館大会

第62回全国博物館大会が三重県で開催され、当館は共催者である三重県の所管機関、会場館として参画した。また、三重県博物館協会の事務局として、同大会実行委員会の事務局機能を担当した。

第62回全国博物館大会

大会テーマ 多様化する博物館—対話と連携で未来を探る—

主 催 公益財団法人日本博物館協会

共 催 三重県、三重県教育委員会、津市、津市教育委員会、三重県博物館協会

後 援 文部科学省

会 期 平成26年11月19日（水）～21日（金）

場 所 三重県総合文化センター・三重県総合博物館・県内三重県博物館協会加盟館園等

参加者 約500名

概 要

11月19日 開会式、全体会議、表彰式、基調講演、全国博物館フォーラム、朗読劇

〔開会式〕

挨拶 日本博物館協会会長 錢谷真美

祝 辞 文部科学大臣、三重県知事、津市長

表彰式 顕彰、棚橋賞、博物館活動奨励賞

〔基調講演〕

演 題 「日本の博物館／文化について、知事として思うこと」

講 師 三重県知事 鈴木英敬

〔全国博物館フォーラム〕

司 会 日本博物館協会専務理事 半田昌之

講 師 全国科学博物館協議会理事長 林良博、全国美術館会議副会長 山梨俊夫、
全国歴史民俗系博物館協議会国立歴史民俗博物館長 久留島浩、日本動物園水族館協
会会長 荒井一利、文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長 谷合俊一、
文化庁文化財部美術学芸課課長 早川俊章

11月20日 シンポジウム、決議起草委員会、分科会、全体会議、閉会式、三重県総合博物館案内

〔シンポジウム〕

テーマ 「今、求められる新しい博物館像」

司 会 三重県総合博物館館長 布谷知夫

講 師 東京都美術館交流係長 佐々木秀彦、萩博物館学芸専門監 樋口尚樹
岐阜女子大学非常勤講師 富本真理子

〔分科会〕

・分科会1 テーマ 「中高生と博物館」

司 会 四日市市立博物館館付主幹 川本一也、松浦武四郎記念館学芸員 山本命

講 師 丹青研究所文化空間情報室室長 石川貴敏、鈴鹿高等学校自然科学部顧問・教諭
西飯信一郎、松阪市文化財センター主査 大木栄

・分科会2 テーマ 「観光・まちづくりと博物館」

司 会 亀山市歴史博物館館長 小林秀樹、斎宮歴史博物館主幹・課長代理 星野利幸、

講 師 福井県立恐竜博物館営業推進課課長 梅田克昌、NPO法人伊勢河崎まちづくり衆 理
事長 高橋徹、亀山市市民文化部長 嶋村明彦、明和町齋宮跡・
文化観光課文化財保存活用監 中野敦夫

・分科会3 テーマ 「博物館資料をめぐる課題」

司 会 三重県立美術館課長 田中善明、朝日町歴史博物館次長 浅川充弘
講 師 海の博物館館長 石原義剛、横浜美術館主任学芸員 端山聡子、三重県総合博物館展
示・資料情報課主査 間淵創

〔施設見学〕

- ・三重県総合博物館 (MieMu) の展示等案内
- 11月21日 三重県内施設見学
- ・Aコース (伊勢・鳥羽コース)
視察施設 式年遷宮記念せんぐう館・神宮(外宮)・河崎商人館・真珠博物館・鳥羽水族館
 - ・Bコース (鳥羽・志摩コース)
視察施設 海の博物館・志摩市歴史民俗資料館・志摩マリランド
 - ・Cコース (松阪・伊勢コース)
視察施設 松阪商人の館・旧長谷川邸・本居宣長記念館・斎宮歴史博物館・式年遷宮記念せんぐう館・神宮(外宮)

5.4.4 文化交流ゾーン

三重県では、三重県総合文化センター（三重県文化会館・三重県生涯学習センター・三重県男女共同参画センター・三重県立図書館）、当館及び県立美術館を含む地域を文化交流ゾーンと捉え、全体としての魅力を高めることで、より多くの人々が訪れ、さまざまな文化に接し、感性を高めることができる場の形成をめざしている。

このため、文化交流ゾーン各館に斎宮歴史博物館を加えた県立文化施設では、各館長による文化交流ゾーン関係館長会議、また、その実務レベルの文化交流ゾーン関係施設課長等会議を毎月定期的に開催し、連携強化を図っている。会議では、各館の運営や事業に関する情報の交換・共有をはじめ、文化交流ゾーンの利用促進に向けた全体広報、社会見学の受入や企画展・講座・イベントなどかかわる連携について協議を行い、個々の連携事業の実施につなげている。また、特に、隣接する三重県総合文化センターとは事務連絡会議、駐車場会議を開催し、相互の円滑な日常的運営に努めている。

1) 総合文化センター

8月3日（日）に三重県総合センターで開催されたM祭！の一会場として、下記の事業を連携して実施した。

- ・切り紙で昆虫博士になろう！ 会場：学習交流スペース 参加人数：180名
- ・写真師 松原豊さんのお絵かきツアー「カメラの原点”カメラ・オブスクラ”で、みえむ (MieMu) を描こう！」 会場：レクチャールーム・館内 参加人数20名

2) 県立図書館

企画展の開催に合わせ、相互利用の促進を図るための取組を行った。博物館内では企画展示の関連図書の貸出しを行う出張図書館や図書館が作成した企画展関連図書のブックリストを展示入口で配布、図書館内では企画展に関するPR展示と関連図書の展示などを行った。

《実施内容》

- ・開館記念企画展第2弾「日本の心」 出張図書館（5月25日）、ブックリスト
- ・開館記念企画展第3弾「でかいぞ ミエゾウ！」 出張図書館（8月10日台風による警報発令のため中止）、ブックリスト
- ・開館記念企画展第4弾「祈りと癒しの地 熊野」 出張図書館（11月2日）ブックリスト
- ・開館記念企画展第5弾「ふたりのウェディング事情」 図書館内PR展示

3) 県立美術館、斎宮歴史博物館

「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録10周年を記念して、県立3館で同時期に熊野古道に関する

企画展を開催している機会をとらえて、各観覧券の半券による相互割引を行った。

実施時期：10月4日（土）～11月24日（月・祝）

対象企画展

三重県総合博物館

開館記念企画展第4弾「祈りと癒しの地 熊野」10月11日（土）～11月24日（月・祝）

三重県立美術館

企画展「カミノノクマノ一聖なる場所へ」9月20日（土）～11月24日（月・祝）

斎宮歴史博物館

記念特別展「伊勢と熊野の歌」10月4日（土）～11月9日（日）

※上記取組の他に、美術館との企画展図録の相互販売、博物館・美術館・近隣レストラン3店舗（ミュゼボンヴィヴァン、ビストロラ・フルール、カフェミ・テール）との連携によるスタンプラリーを実施した。

5.4.5 国県市町など

1) 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク（みえ歴史ネット）

県・市町・関係諸機関が連携し、地域の歴史的文化的資産の保存と活用を図ることを目的とし、平成23年6月、県内25市町の32機関と県の3機関が加入して「三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク」が発足した。平成26年度は、2回の会議と技術講習会を実施した。なお、発足以来、環境生活部文化振興課県史編さん班がネットワーク事務局を受け持ってきたが、公文書館機能をもつ当館が開館したことにより、第1回ネットワーク会議での承認を得て、当館が事務局を引き受けることとなった。

第1回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議

日 時：平成26年10月31日（金）

会 場：三重県総合博物館 レクチャールーム

主な内容：事務局を県史編さん班から総合博物館へと変更する。それに伴い、要綱を改正する。

また、レスキューマニュアルの修正も行った。

第2回 三重県歴史的・文化的資産保存活用連携ネットワーク会議及び技術講習会

日 時：平成27年2月4日（水）

会 場：三重県総合博物館 レクチャールーム及び公文書修復室

第1部 みえ歴史ネット会議

主な内容：第1回会議以降の進捗状況等確認。現況調査のモデル事業を実施する。

第2部 技術講習会

テ ー マ：「古文書等歴史資料の保存と修復」

講 師：国文学研究資料館准教授修復担当 青木睦

主な内容：古文書・歴史的公文書などの史料や文化財を後世に伝えていくためには、それらの置かれている保存環境をより良い状態にする必要がある。保存環境についての講演及び簡易な修復法の技術講習を行う。

2) 公文書館関係

公文書館関係機関開催の会議等へ参加した。

全国公文書館長会議 日時：平成26年6月10日（火） 於：札幌市

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）全国（福岡）大会及び研修会

日時：平成26年11月13日（木）～14日（金） 於：福岡市

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）全国近畿部会への加盟

その他、独立行政法人国立公文書館デジタルアーカイブ横断検索システムへのリンク

3) 文化財保存についての地域協力

地域にある文化財の保存・活用への協力は当館の使命としており、文化財の保存や修復方法に関する問い合わせへの回答・助言を行うとともに、必要に応じて当館の保存科学担当者が環境調査や資料分析を行った。

主な内容としては、収蔵施設等の温度・湿度の管理や生物被害対策への助言・調査、X線や赤外線による資料調査であり、平成26年度は次の対応を行った。

環境調査及び文化財調査の対応件数 10件

環境管理についての助言等の件数 7件

5.4.6 その他の諸機関・諸団体

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
独立行政法人造幣局	地方自治法施行60周年記念貨幣展	5月3日(土・祝)～6日(火・祝)	学習交流スペース	地方自治法施行60周年記念貨幣等を展示	3,041
三重県環境学習情報センター	連携講座「生存戦略」	5月17日(土)	総合文化センター中研修室	連携講座の1回目、チョウをテーマとする講座	46
日本展示学会	日本展示学会シンポジウム	6月21日(土)	総合文化センターレセプションルーム	MieMuの展示を事例とする博物館展示における市民参画等について議論	111
日本展示学会	日本展示学会研究大会	6月22日(日)	レクチャールーム	日本展示学会会員による研究発表	81
三重県環境学習情報センター	ヒヌマイトトンボ観察会	6月28日(土)	宮川浄化センター(伊勢市大湊町)	ヒヌマイトトンボの観察会	47
三重県観光誘客課	観光キャンペーン	7月6日(日)	学習交流スペース	三重県への観光を促進・喚起するためのイベント	—
三重県農林水産部(農林水産技師女子会プロジェクト)	楽しく・おいしく・正しく学べる食育体験教室	7月19日(土)～20日(日)	実習室	小学生の親子を対象とする食育体験教室	36
三重県林業研究所	研究成果報告会	8月22日(金)	レクチャールーム	林業に関する研究成果の報告会	50
三重県美し国プロジェクトチーム	美し国PRイベント	8月24日(日)	学習交流スペース	三重県が推進する美し国をPRするイベント	—
三重県教育委員会、三重県社会教育委員連絡協議会	社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」イベント	8月27日(水)	総合文化センター、博物館学習交流スペース等	県内の大学等に通う学生が社会教育実践を情報発信するイベントにおいて児童・生徒向け体験コーナーを実施	—
三重県環境学習情報センター	連携講座「生存戦略」	9月13日(土)	レクチャールーム	連携講座の2回目、トンボをテーマとする講座	46
三重県警察	交通安全キャンペーン	9月19日(金)	学習交流スペース	夕暮れ時の交通安全啓発イベント	—
三重県健康福祉部	ガン県民運動	9月20日(土)～30日(火)	学習交流スペース	「がんを知り、がん予防」をテーマとした展示	—
三重県農林水産部みどり共生推進課	みえ森林フェスタ2014	10月4日(土)	総合文化センターフレンテみえ	ミュージアムフィールド昆虫調査展示 ドングリでコマをつくらう	94
文化経済学会	文化経済学会秋の講演会	10月25日(土)	レクチャールーム	「博物館と文化会館の経営～三重県総合博物館MieMuと三重県文化会館～」をテーマに、基調講演、事例発表、シンポジウムを実施	73

機関・団体名	事業名	期間	会場	概要	人数
三重県教育委員会	高校生フェスティバル	10月25日(土)～26日(日)	総合文化センター、博物館実習室	高校生フェスティバルの会場の一つとして県内高校を紹介する「高校紹介ひろば」を実施	—
三重県教育委員会	日本の世界遺産パネル展	11月5日(水)～11月24日(月・祝)	学習交流スペース	世界遺産登録10年を記念して開催した企画展「祈りと癒しの地 熊野」と連動して、国内の世界遺産を紹介するパネル展示を開催	—
三重県環境学習情報センター	スキルアップ講座	11月15日(土)	レクチャールーム	「驚きのクモの世界」をテーマとする講座	45
三重県農林水産部みどり共生推進課	第1回みえの森フォトコンテスト入賞作品展示	11月22日(土)～12月7日(日)	学習交流スペース	県内の幼児・小中高校生から応募された「三重の森林」をテーマとする写真の入賞・優秀作品を展示	—
三重県木材協同組合連合会、三重県木材青壮年団連合会	第32回三重県児童・生徒木工工作コンクール 入賞作品展示	11月22日(土)～12月7日(日)	学習交流スペース	県内の小学生から応募された木工工作作品の入賞・優秀作品を展示	—
水産海洋学会、三重県水産研究所、愛知県水産試験場	水産海洋地域研究会集	11月29日(土)	レクチャールーム	伊勢湾全域のアサリ資源の復活をめざして行う集	120
三重県環境学習情報センター	連携講座「生存戦略」	12月6日(土)	レクチャールーム	連携講座の3回目、花をテーマとする講座	55
三重県下水道課	下水道ポスター展	12月9日(火)～12月14日(日)	学習交流スペース	下水道をテーマとしたポスターの受賞作品展示	—
三重県地域産学官連携水産研究連絡会議	第5回みえ水産フォーラム	12月13日(土)	レクチャールーム	県内の水産研究機関が日頃の成果を報告	53
三重生物教育会	第63回三重生物研究発表会	2月7日(土)	レクチャールーム	県内の小中高校生が理科学習・クラブ活動の成果を発表	80
三重県環境学習情報センター	連携講座「生存戦略」	2月14日(土)午前	レクチャールーム	連携講座の4回目、類人猿をテーマとする講座	60
三重県環境学習情報センター	スキルアップ講座	2月14日(土)午後	レクチャールーム	「小面積皆伐による里山管理」をテーマとする講座	55
三重県環境学習情報センター	かんきょう絵手紙作品展示 入選作・応募作展示	2月15日(日)～28日(土)	学習交流スペース	小中高校生から応募された環境をテーマとする絵手紙作品の入選策と応募作を展示	—
三重県真珠養殖連絡協議会	真珠ふれあいひろば～アコヤ真珠を体験しよう～	2月22日(日)	学習交流スペース、レクチャールーム	真珠に関する展示、オリジナル写真立てやアクセサリーづくり体験によるイベント	—
しぜん文化祭実行委員会	三重しぜん文化祭 in みえむ	3月14日(土)～15日(日)	交流展示室、交流活動室、学習交流スペース	しぜん文化祭実行委員会との共催、県内の自然関連団体のブース展等	2,124
三重県環境学習情報センター	スキルアップ講座	3月21日(土)午前	レクチャールーム	「地球温暖化による気候変化と感染症をテーマとする講座	37
三重県環境学習情報センター	スキルアップ講座	3月21日(土・祝)午後	レクチャールーム	「海ごみの問題を考える～漂流・漂着ごみが生物や環境に与える影響～」をテーマとする講座	42
中部電力	電気実験教室	3月27日(金)	実習室	子どもを対象とする電気に関する実験教室	118

[みえ出前トーク]

依頼元	開催日時	会場	概要	人数	担当
一般社団法人 三重県薬剤師会	6月7日(土)	ベルセ島崎	新しい県立博物館が誕生します	13	宇河
三重県建築士会	9月20日(土)	サンワーク津	三重が持つ多様性の力	21	瀧川
はぎ遊話会	9月28日(日)	笹屋東4丁目集会所	みえむを使った自由な学び	28	天野
松阪商工会議所 交通運輸部会	10月22日(水)	三重県トラック協会 松阪支部	MieMuで学ぶ 三重が持つ多様性の力	27	松本
計				89	

5.5 他機関・団体への協力（職員の諸団体への協力活動）

他機関や団体から依頼を受けて各種委員や講師依頼等を受けて実施した講演や講座について学芸員ごとに講演、講座などの内容（テーマ）、依頼元、開催場所、実施日について記載した。

5.5.1 委員、講師等の依頼

布谷知夫（三重県総合博物館館長）

[委員等]

- 1 琵琶湖博物館名誉学芸員（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 2 琵琶湖博物館特別研究員（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 3 ESD in 三重実行委員会外部委員（2014年9月25日～2015年3月31日）
- 4 文化庁研修企画運営委員会，座長（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 5 和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会，委員・会長（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 6 タカラホールディング助成評価委員会，委員（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 7 国立歴史民俗博物館展示更新検討委員会，委員（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 8 守山市下之郷保存整備活用基本計画検討部会，委員（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 9 日本ヨシ笛協会顧問（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 10 関西自然保護機構，監事（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 11 日本自然保護協会自然観察指導員講習会講師（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 12 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会，委員（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 13 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会植物ワーキンググループ，委員（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 14 NACS-J自然観察指導員大阪連絡会，顧問（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 15 自然観察指導員三重県連絡会，顧問（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 16 特定非営利法人西日本自然史系博物館ネットワーク 監事（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 17 三重県博物館協会理事（2014年4月1日～2015年3月1日）
- 18 第62回全国博物館大会実行委員会委員長（2014年11月19～21日）
- 19 第62回全国博物館大会全体会議議長（2014年11月19～20日）
- 20 全日本博物館学会、運営委員（2014年4月1日～2015年3月31日）
- 21 全日本博物館学会、学会誌編集委員会委員（2014年4月1日～2015年3月31日）

[大学講師]

- 1 放送大学「博物館概論」担当講師（2014年3月31日～2015年3月31日）
- 2 滋賀県立大学「博物館教育論」非常勤講師（2014年4月1日～2015年3月31日）

[講師等]

- 1 MieMu：三重県総合博物館の紹介 東海4県議会議長会 三重県総合博物館レクチャールーム講師（2014年4月8日）

- 2 レイモンドホールに関わって大学との連携を 三重大学レイモンドホール・リニューアル式典 三重大学三重大学レイモンドホール講師 (2014年4月15日)
- 3 ご挨拶とMieMuの紹介 三重県総合博物館MieMu開館記念式典 三重県総合博物館MieMu さん化センター中ホール講師 (2014年4月18日)
- 4 MieMu: 三重県総合博物館がやろうとしていること 鈴鹿市ロータリークラブ 鈴鹿市商工会議所講師 (2014年5月7日)
- 5 MieMu: 三重県総合博物館がやろうとしていること 三重県経営者協会 三重県総合博物館レクチャールーム 講師 (2014年5月9日)
- 6 三重県総合博物館MieMuを観る 都市環境ゼミナール 三重県総合博物館レクチャールーム 講師 (2014年5月17日)
- 7 MieMuの理念と現在 東近江市博物館群 三重県総合博物館 講師 (2014年5月21日)
- 8 博物館でできること 千種公民館女性教室 三重県総合博物館実習室講師 (2014年5月30日)
- 9 みえむの活動と紹介 津市商工会議所 三重県総合博物館実験実習室 講師 (2014年7月3日)
- 10 植物の観察と調査をしてみよう 三重県生物研究会 三重県総合博物館レクチャールーム. 講師 (2014年7月31日)
- 11 三重県総合博物館: みえむの運営の考え方 都道府県立美術館副館長等事務責任者会議 愛知芸術文化センター 講師 (2014年8月7日)
- 12 大学と地域: 三重大学国際環境教育研究センター環境座談会 三重大学レイモンドホール講師 (2014年8月28日)
- 13 森の観察会 大川学園 風の森オズ講師 (2014年9月3日)
- 14 野外実習・森の観察 NACS-J自然観察指導員講習会 三重県自然観察指導員連絡会・三重県環境教育情報センター 四日市少年自然の家 講師 (2014年9月6日)
- 15 講義「自然の観察」/ NACS-J自然観察指導員講習会 三重県自然観察指導員連絡会・三重県環境教育情報センター 四日市少年自然の家 講師 (2014年9月6日)
- 16 野外実習・テーマひろい NACS-J自然観察指導員講習会 三重県自然観察指導員講習会 三重県自然観察指導員連絡会・三重県環境教育情報センター 四日市少年自然の家 講師 (2014年9月7日)
- 17 森正人・布谷知夫・清水みき・代田美里 鼎談 三重大学TRIO編集部 三重県総合博物館交流活動講師 (2014年9月10日)
- 18 博物館で身近な問題について考える 近大高専土曜講座 近畿大学工業高等専門学校1号館大教室 講師 (2014年9月13日)
- 19 博物館とミュージアムエデュケーター 第4回文化庁エデュケーター研修 文化庁 東京国立博物館黒田記念館講師 (2014年9月17日)
- 20 第4回文化庁エデュケーター研修前期全体コーディネーター 文化庁 東京国立博物館黒田記念館・東京都立葛飾天文と郷土:博物館 講師 (2014年9月17日～19日)
- 21 三重県の文化と自然 おもてなし三重観光ボランティアガイド連絡協議会研修会 三重県男女共同参画センター 講師 (2014年10月8日)
- 22 三重県総合博物館:MieMu これまでとこれからやりたいこと 学校事務職員研究大会 学校事務職員会総合文化センター多目的ホール講師 (2014年10月16日)
- 23 里山保全活動から暮らしを見つめる 三重県森林ボランティア交流大会 津市青少年野外活動センター 講師 (2014年10月18日)
- 24 みえむの使い方と楽しみ方 私学協会総合文化センター多目的ホール講師 (2014年10月18日)
- 25 博物館での学びとは 博物館に求められるものとボランティアの役割 四日市市立博物館ボランティア研修 四日市中部地区市民センター 講師 (2014年10月26日)

- 26 MieMuの紹介 伊賀の歴史を学ぶ会 実習室講師 (2014年11月2日)
- 27 三重県総合博物館(MieMu)がやろうとしていること 三重県互助組合三支部合同津地区居住者の会総会及び地域魅力ディスカバリー事業 総合文化センター大ホール講師 (2014年11月3日)
- 28 MieMu三重県総合博物館がやろうとしていること 津市商工会議所金融保険部会 三重県総合博物館レクチャールーム講師 (2014年11月11日)
- 29 三重県総合博物館MieMu 地方自治体議員フォーラム 会議室 講師 (2014年11月14日)
- 30 大阪城公園観察会 NACS-J自然観察指導員大阪連絡会 大阪城公園講師 (2014年11月22日)
- 31 自然観察から始まる自然保護 インストラクター養成講座特別企画 大阪自然環境保全協会そよごの会 大阪府環境情報センター 講師 (2014年11月22日)
- 32 博物館という場を生かす～ESDの視点から～ 館長懇談会 三重県総合博物館レクチャールーム 講師 (2014年12月4日)
- 33 昭和東南海地震70年シンポジウム～過去の災害から学び、未来に生かす～ みえ防災・減災センター 三重県・三重大学 津リージョンプラザ 講師 (2014年12月6日)
- 34 日本の博物館の役割・位置 第4回文化庁ミュージアムマネージメント研修 東京国立博物館黒田記念会館 講師 (2014年12月10日)
- 35 第4回文化庁ミュージアムマネージメント研修 東京国立博物館黒田記念会館 全体コーディネーター (2014年12月10日～12日)
- 36 天然記念物と泉葛城山ブナ林保全の経過 和泉葛城山ブナ林リレートーク 岸和田市教育委員会 岸和田市公民館 講師 (2015年1月24日)
- 37 三重県総合博物館が目指す仕事と社会的役割 三重大学医学部同門会 津都ホテル講師 (2015年1月25日)
- 38 三重の自然と文化の多様さ 医師会一志支部 久居病院 講師 (2015年1月28日)
- 39 全体のまとめ. 文化庁第4回エデュケーター研修 文化庁 葛飾区郷土と天文の博物館 講師 (2015年1月30日)
- 40 生物多様性と私たちそして暮らし 朽木生きものふれあいの里多様性講演会 滋賀県生きものふれあい室 安曇川公民館団体活動室 講師 (2015年2月11日)
- 41 三重県総合博物館：MieMuで私たちの暮らしを考える, 伊賀市社会福祉協議会法人内研修, 伊賀市文化会館 講師 (2015年2月27日)
- 42 三重県総合博物館について, 滋賀県里山の会, 三重県総合博物館会議室, 講師 (2015年3月7日)
- 43 三重県総合博物館：MieMuで私たちの暮らしを考える, 四日市市市民大学熟年クラス, 四日市市教育委員会, 四日市市文化会館, 講師 (2015年3月11日)
- 44 三重県環境影響評価委員会, 幹事 [宛職]

瀧川和也(主幹・課長代理・学芸員)

[委員等]

- 1 四日市市文化財保護審議会 委員
- 2 鈴鹿市文化財調査会 委員
- 3 亀山市文化財保護審議会 委員
- 4 津市文化財保護審議会 委員

松本功(主幹・課長代理・学芸員)

[講師等]

- 1 みえ出前トーク「MieMuで学ぶ!三重が持つ多様性の力」三重県トラック協会松阪支部(2014年10月22日)
- 2 「三重の自然のおもしろさ」三重大附属小学校4年生(2014年10月24日)

3 「三重の自然のおもしろさ」三重県立津東高等学校 図書館 (2014年11月14日)

藤谷彰 (主幹・学芸員)

[講師等]

1 川越町古文書講座, 川越町, 川越町あいあいセンター (平成27年1月21日, 2月18日, 3月18日の3回)

中野環 (主査・学芸員)

[委員等]

1 河川水辺の国勢調査アドバイザー, 国土交通省 三重河川事務所

2 三重県生物多様性保全検討委員会委員, 三重県農林水産部

[講師等]

1 水生生物の総合学習 (主催: 津市立片田小学校) (2014年6月17日)

2 水生生物の総合学習 (主催: 津市立一身田小学校) (2014年6月28日)

3 生きものの名前を調べてみよう ~「標本」をつくってみませんか~, しまこどもセンター・三重県環境保全事業団 (2014年8月3日)

4 ぼくら生き物調査隊 採って調べて形にしよう! 三重県環境保全事業団 (2014年8月10日)

5 干潟における環境調査, 津市教育研究会 (2014年8月20日)

6 南伊勢町教育振興会研修会, 南伊勢町教育振興会 (2014年8月22日)

7 文化祭体験学習 [標本作り教室], 南伊勢町立南島中学校 (2014年11月1日)

北村淳一 (主査・学芸員)

[委員等]

1 淡水魚保全のための提言作成に向けた検討会検討委員 (環境省)

2 平成26年度イタセンパラ生息域外保全検討会アドバイザー (環境省中部地方環境事務所)

3 木曾川ワンド環境検討会委員 (国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所)

4 利根川下流部自然再生モニタリング委員会委員 (国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所)

5 国営施設応急対策事業「宮川用水地区」環境調査に係る調査協力 (農林水産省東海農政局木曾川水系土地改良調査管理事務所)

6 農業農村整備事業環境アドバイザー協議会委員 (三重県農林水産部農業基盤整備課)

7 祓川環境保全全体会議座長

8 祓川環境美化推進協議会推進委員

9 ミナミアカヒレタビラ保護対策協議会 (島根県環境生活部自然環境課)

10 大阪市立博物館施設指定管理予定者選定委員会選定委員 (大阪市経済戦略局文化部文化課)

[講師等]

1 第1回菊池川流域の河川生態研究と生態系の保全ータナゴの現状と保全ー, 九州大学工学研究院, 熊本県玉名市市民会館 (2014年5月10日)

2 水生生物の総合学習, 松阪市立朝見小学校, 校内 (2014年6月5日)

3 水生生物の総合学習, 明和町立下御糸小学校, 校内 (2014年6月27日)

4 多気郡教育研究会, 多気郡教育研究会, 祓川 (2014年7月23日)

5 「魚と環境」のお話し, 櫛田川第一漁業協同組合 ※雨天中止 (2014年8月10日)

6 水生生物の総合学習, 松阪市立朝見小学校, 校内 (2014年9月9日)

7 第39回東海三県博物館協会研究交流会 (2014年10月17日)

8 櫛田川の環境を考える勉強会, 国土交通省三重河川国道事務所 (2014年11月28日)

間瀬創（主査・学芸員）

[委員等]

- 1 文化財保存修復学会災害対策調査部会拡大委員

[講演等]

- 1 「三重県における博物館等の災害時に向けた取り組みについて」公開承認施設会議，文化庁（2014年11月11日）
- 2 「多様な施設における博物館資料の保存」日本博物館協会大会，三重県総合文化センター（2014年11月19日）
- 3 「東日本大震災以降の三重県における博物館等の災害時に向けた取り組みについて」平成26年度文化庁委託事業「文化財（美術工芸品）等緊急保全活動・現況調査事業」，東京文化財研究所（2014年12月4日）
- 4 「LED照明を用いた展示ケース内の温湿度分布調査」保存環境研究会「文化財の保存環境の制御と予測」，東京文化財研究所（2015年2月9日）

中川良平（主査・学芸員）

[講師等]

- 1 さかえサイエンストーク「化石から読み解く日本列島の哺乳類相の起源ーミエゾウからトブネズミまでー」名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 あいちサイエンスフェスティバル事務局 名古屋テレビ塔スカイデッキ（2014年10月10日）

太田光俊（学芸員）

[講師等]

- 1 「食と信仰のかかわりー東西世界でのさまざまなかたちー」、三重県、公益財団法人味の素の文化センター主催 パネリストとして報告・討論（2014年10月15日）
- 2 「古文書解読いろは講座」講師（2014年10月24日・11月28日・12月19日・1月16日・2月20日）

森田奈菜（学芸員）

[講師等]

- 1 植物観察会，津市（2014年10月26日）
- 2 コケ観察会，三重県民の森（2014年11月15日）

津村善博（嘱託学芸員）

[委員等]

- 1 三重県環境影響評価委員
- 2 下水道処理建設に関するアドバイザー，三重県中勢流域下水道事務所（2014年3月31日～2015年3月31日）
- 3 鈴鹿亀山道路環境調査アドバイザー，三重県県土整備部（2014年10月20日～2015年11月30日）
- 4 津市文化財保護審議会委員
- 5 松阪市文化財保護審議会委員
- 6 丹生水銀調査委員

水谷憲二（嘱託学芸員）

[講師等]

- 1 「幕末維新の動乱ー桑名士民が体験した戊辰戦争ー」 桑名市在良公民館・心豊かに生きよう学級、於：桑名市在良公民館2階大研修室（2014年6月13日）
- 2 「戊辰戦争と藤堂藩一幕末維新の動乱をめぐる三重県域の様相ー」 有造館ゼミナール、於：アストビル公民館研修室A（2014年7月11日）
- 3 「織田・豊臣時代の桑名ー「桑名城」はいつから存在したのかー」 ふるさと多度文学館講演会、於：ふるさと多度文学館2階視聴覚室（2014年11月30日）
- 4 「戊辰戦争と三重県域の諸藩ー桑名藩と津藩の選択ー」 三重歴史研究会・新春講演会、於：三重県北勢地域地場産業センター5階第5研修室（2015年1月25日）

6 企業との連携

6.1 事業の趣旨・目的

博物館活動の基本的な活動の視点の一つである多様な主体との連携を進めるにあたり、三重県の経済・産業・雇用・文化などの面で大きな役割を担っている企業・団体との交流と連携に取り組んでいる。金銭的な支援だけでなく、新たな創造と発信の機会とするために、講演会や各種ワークショップ、パネル展示等を共催して実施している。

- ・寄附 企画展示の充実や、展示・収蔵資料の保存や修繕など、博物館の活動全般に対する金銭的な支援
- ・企業パートナーシップ 一定額を会費として支払うことにより、博物館の利用に関する各種の特典を受けられる。
- ・コーポレーション・デー 任意の日に一定額の協賛をすることで、その日の来館者全員の基本展示観覧料が無料になり、合わせて企業PRなどができる。

6.2 パートナー企業数（平成26年3月末現在）※重複あり

- ・企業パートナーシップ会員 137社
- ・寄附支援企業 84社

6.3 連携事業

1) コーポレーション・デー

企業名	実施日	主なイベント
株式会社ケーブルコモンネット三重	6月22日(日)	各社キャラ来館
三重県信用農業協同組合連合会	6月29日(日)	フィールドワーク
株式会社百五銀行	8月9日(土)	がんを知る展示
中京テレビ放送株式会社	9月27日(土)	民話朗読会

※コーポレーション・デー：多くの方に博物館に親しんでいただくきっかけとして、企業等の協賛により、特定の日の基本展示観覧料を無料化。協賛企業等は、チラシの配布など自らの広報活動を実施できる制度。

2) 展示

展示名	企業の協力内容
「四日市でカツオと野鳥をはぐくむ工場～たんけん味の素東海事業所～」	展示の企画、開催
でかいぞミエゾウ！ 祈りと癒しの地 熊野	地域のレストランと連携し、観覧者に飲食割引
ふたりのウェディング事情	展示資料の借用 博物館ウェディングの企画・実施

3) イベント

内容
伊勢湾をテーマとした夏休み親子向け船上イベントにおいて、当館学芸員が伊勢湾の生き物に関する講演を実施
企業がMieMuで、ワークショップやパネル展示を実施 ※うまみ教室、電気教室、ポスター展
百貨店の催事やショッピングモールにおける展示やイベントの実施
食文化をテーマとしたシンポジウムにおいて、当館学芸員がパネリストとして参加し、基本展示室で展示している御師料理等について紹介

4) ショップ関係

内容
地域のレストランと連携したオリジナル弁当、デザート等を開発してショップで販売、レストラン店舗でもオリジナルメニューを販売
MieMuオリジナル商品(和菓子、ジャム等)を開発、ショップで販売

5) その他 県外や海外からの来客を案内、社内報への掲載、景品に観覧券利用など



コーポレーションデー



電気教室

7 利用者との協創

7.1 事業の趣旨・目的

三重県総合博物館の基本的な活動の視点である「県民・利用者との協創」に基づく取組として、旧県立博物館時代の「サポートスタッフ」を発展的に継承し、開館とともに活動を開始した「三重県総合博物館ミュージアム・パートナー」の活動への支援、平成27年度から展開する「ボランティア」活動の募集を行った。

7.2 三重県総合博物館ミュージアム・パートナー

旧県立博物館時代の平成18年度に結成され新博物館整備活動にもかかわった「サポートスタッフ」を母体に、博物館とともに活動し、支える外部団体として「ミュージアム・パートナー」が発足した。当館学芸員が活動を支援し、独自の講座・観察会を実施し、三重の自然と歴史・文化について調査・観察、発信する活動を行っている。また、サポートスタッフ時代から様々な分野で活動していたグループ活動を引き継ぎ、3グループが活動を行っている。

1) 会員数 152組 230名 (平成27年3月31日現在)

2) 主な活動内容

- ・会員を対象とする講座、フィールドワーク等の事業を実施
- ・会報を発行
- ・博物館活動への参加・協力、博物館との連携によるワークショップ等の実施
- ・仲間とともに興味・関心を深めることができるグループ活動（歴史、民俗、生きもの、染織、おもしろ博物館、ユニバーサルミュージアムの6グループ）
- ・総会（年1回）、事務局会議（月1回）、役員会（年6回）、グループ代表者会議を開催

3) 活動内容

- ・学芸員ミニ講座 シリーズ「MieMuの秘密」

当館の学芸員が、基本展示の内容について、展示制作にかかわる話を交えて解説する。

開催場所：レクチャールーム

第1回 基本展示室（くらし）編 講師：当館職員 門口実代

開催日 7月13日（日） 参加者数 26名

第2回 基本展示室（人文）編 講師：当館職員 太田光俊

開催日 9月13日（土） 参加者数 3名

第3回 基本展示室（自然）編 講師：当館職員 北村淳一

開催日 11月23日（日） 参加者数 18名

第4回 基本展示室（ミュージアムフィールド編）編 講師：当館職員 松本功・津村善博

開催日 1月17日（土） 参加者数 8名

・こだわり講座

ミュージアム・パートナー会員が講演を行う講座で、ミュージアム・パートナー内での活動のみに限定せず、個人での活動などについても紹介する。

開催場所：レクチャールーム（第2回は交流活動室）

第1回「自然の中の科学～おもしろ物理をのぞく～」 講師：岡本猛

開催日 8月24日（日） 参加者数 3名

第2回「三重県は化石の宝庫～化石は語る～」 講師：松橋義隆

開催日 10月5日（日） 参加者数 18名

第3回「試論・家康の逃避行 本邦初公開・聞けば絶対面白い」 講師：清水重久

開催日 12月7日（日） 参加者数 60名

第4回「イルカとクジラ なぜなに話」 講師：尾崎直

開催日 2月8日（日） 参加者数 30名

・基礎研修

博物館での資料の扱い方について、当館の学芸員が講師となって行う講座

開催場所：第1回 レクチャールーム、第2回 レクチャールーム・資料閲覧室和室

第1回「博物館活動の概要説明および資料の取り扱い体験」

講師：当館職員 松本功、岸田早苗

開催日 7月6日（日） 参加者数 25名

第2回「博物館活動の概要説明および資料の取り扱い体験」

講師：当館職員 大島康宏・中川良平・森田奈菜・岸田早苗・天野秀昭

開催日 12月7日（日） 参加者数 18名

・フィールドワーク

博物館学芸員などが講師を行い、館外での観察会事業

第1回 松名瀬干潟・生きもの観察会 講師 当館職員 北村淳一

開催日 6月14日（土） 参加者数 28名

開催場所 松名瀬海岸（松阪市）

第2回 七宝焼アートヴィレッジ

開催日 3月29日（日） 参加者数 19名

開催場所 七宝焼アートヴィレッジ（愛知県あま市）

・博物館めぐり

県内外の博物館を訪れ、バックヤードを含め見学

橿原昆虫館見学

開催場所 橿原市橿原昆虫館（奈良県橿原市南山町）

開催日 2月14日（土） 参加者数 16名

・企画展内覧会

ミュージアム・パートナーを対象とする企画展内覧会を実施

第1回 開館記念企画展第3弾「でかいぞミエゾウ！」

開催日 7月28日（月） 参加者数 52名

第2回 開館記念企画展第4弾「祈りと癒しの地 熊野」

開催日 10月10日（金） 参加者数 25名

第3回 開館記念企画展第5弾「ふたりのウェディング」

開催日 1月9日（金） 参加者数 21名

第4回 開館記念企画展第6弾「親鸞 高田本山専修寺の至宝」

開催日 3月20日(金) 参加者数 29名

・ミュージアム・パートナー発表会「こんなんしとるんやに2015」

ミュージアム・パートナーが今年度行った活動について発表、展示する行事。

開催日 3月7日(土)・8日(日) 開催場所 交流展示室・学習交流スペースなど

※実行委員会(会議、展示物確認作業、前日準備等)

実施日 10月5日(日)、11月2日(日)、12月14日(日)、2月1日(日)・15日(日)、3月6日(金)

・平成26年度総会

開催日 5月31日(土) 開催場所 レクチャールーム 参加者数 63名

・会議等

役員会 8月24日(日)、9月5日(金)・14日(日)、10月5日(日)、12月14日(日)、1月10日(土)、
2月8日(日)、3月14日(土)

事務局会議(発送作業等を含む)

4月24日(木)、6月28日(土)、6月29日(日)、12月27日(土)、1月31日(土)、

2月6日(金)、2月26日(木)、3月14日(土)、3月26日(木)

・グループ活動

<企画局・情報局(事務局)>

企画局と情報局は、相互に連携しながらミュージアム・パートナーの活動や企画と情報発信に取り
組むグループである。定期的集まり、企画局は会の運営や事業計画、情報局は通信の発行など主な
活動とした。なお、両グループでは活動方針を見直し、平成27年度から「ミュージアム・パートナ
事務局」として一本化し、会の運営に関わる活動を行うこととなった。

<ユニバーサル・ミュージアムグループ>

ワークショップや実践的な活動を通じて、障がいをお持ちの方とともに博物館を楽しむための方法
について考えている。平成26年度は特に目の不自由な方に博物館の魅力伝えるために必要なことや
モノについて検討し、触地図や展示内容を深めてもらうためのグッズ(触れない展示資料の感触を体
感してもらう)を試作した。

<民俗グループ>

毎月第1土曜日に例会、第2金曜日に農具班の例会をおこなった。例会では、県内の各地域に残る
伊勢講について、各自が聞き取り調査をした成果を持ち寄り、グループ内で共有した。農具班の活動
では、旧上野農業高校から寄贈された農具を整理し、農具の使い方や伊賀地方の農事暦について詳し
い方をお招きしてお話を伺った。年度末には、「こんなんしとるんやに2015」の展示を通して1年間
の活動成果を伝え、多くの方々にご覧いただいた。

<化石・鉱物グループ>

大地が好きで、太古の時代にロマンを求める老若男女のグループで、化石や鉱物を求めて県内各地
でフィールドワークを楽しんでいる。企画展「でかいぞミエゾウ!~化石が語る巨大ゾウの世界~」
にグループとして、工夫を凝らして、服部川の化石の展示を行った。また、「こんなんしとるんやに2015」
では、櫛田川の石を使って「石の名まえ当てクイズ」を行った。現地観察会や石の勉強会をしたりし
て当日に臨んだ。化石・鉱物グループは、平成26年度末をもって解散し、次年度からは、博物館事業
の「地球探検隊」への参加に活動の拠点を移す。

<おもしろ博物館グループ>

博物館で子どもから大人まで楽しむことができる体験学習やモノづくり教室の企画や運営を行うグ
ループである。平成26年度の主な活動は、毎月第4土曜日午前中に活動打合せを行い、奇数月の第4
土曜日午後には週末ワークショップとして簡単な工作教室等を実施した。8月には県総合文化センター
で行われるM祭!での「ゆらゆらチョウチョづくり」や、津市内の百貨店で行われた企画展示広報に

合わせた「ミエゾウ足跡スタンプトートバッグづくり」などを実施し、年末には恒例となっている「正月飾りづくり」を行った。

<生きものグループ>

一年を通じて櫛田川水系の支流における魚類相調査を中心に活動を行った。初夏には河口に広がる松名瀬干潟の観察会、上流域の蓮川や仁柿川、中下流域の孫川や佐奈川、三重県農林水産部主催の祓川生態系維持回復事業へ参加した。また夏休み期間中に石水溪と大杉谷自然学校にて1泊2日の合宿を行い、翌2月には岐阜県博物館の魚研究会との魚類調査を岐阜市にて行った。環境フェアやしぜん文化祭への出展も行った。

<歴史グループ>

毎月第1土曜日に、輪読会を開催した。特に伊藤又五郎家文書の輪読を行い、各自の古文書読解能力の向上をはかった。毎週木曜日は文書整理の会を開催した。ここでは、白子伊達家文書を中心とした未整理資料の整理を進めつつ、古文書読解能力及び、目録作成能力の向上を図り、あわせて館蔵資料の整備にも資するように活動した。その成果を、「こんなんしとるんやに2015」にて伊達家文書を中心に展示を行い示した。

<染織グループ>

かつて伊勢木綿、松阪木綿と呼ばれ全国的に有名であった三重県の織物や藍染めなどについて、多くの方に知っていただくことをめざしている。博物館の里山で藍などを栽培し、それをを用いた染色に力を入れている。また、育てた藍の種を希望者に配布する活動や、「染める」や「織る」という現代では馴染みの薄い作業を身近に感じてもらうため、体験講座を開催している。メンバー各々が自分の研究や興味を深め、グループ内で発表しあうことや、染めの実験も予定している。

※この他にも、グループ活動一環として博物館資料の整理等（歴史グループによる古文書整理、民俗グループによる民俗資料整理など）に取り組んでもらっている。

7.3 ボランティア

1) 募集開始の経緯

旧県立博物館で平成18年度から活動を開始したサポートスタッフ活動は、博物館を舞台として利用者の興味関心の自己実現を目指す活動であったが、その後、博物館で何らかの活動をしたいが、特に興味関心など専門的な活動の場は求めている利用者から、ボランティア活動を望む声が多く寄せられた。これを受けて、サポートスタッフが発展的に改称したミュージアム・パートナーと、ボランティアとの活動内容の整理を行ったうえで、平成26年度末にボランティアの募集を行った。

2) ボランティアの活動内容

「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざし、県民のみなさんとの「協創」の一環として「みえむボランティア」を募集し、博物館のスタッフとして職員とともに博物館活動を支える活動を行う。

- ・来館者対応ボランティア：展示室(こども体験展示室含む)・受付・館内案内や行事対応など
- ・ミュージアムフィールドボランティア：フィールドの日常的な維持管理(除草・植栽管理など)
- ・保存環境ボランティア：基礎データ調査など資料保存業務の補助(活動は月1回程度)

3) 応募資格：18歳以上で、次にあてはまる人であれば申請可。(高校生は、保護者の承諾が必要)

- ・みえむの使命・活動理念・ビジョンに共感し、みえむをより良くしたいという思いのある方。
- ・博物館活動に興味・関心と意欲があり、人と接することが好きな方。
- ・月に3回以上の活動が可能(保存環境は除く)で、博物館へ無理なく通うことができる方。
- ・事前研修の全3回をすべて受講できる方

※報酬・交通費・食事代などの支給はなし。

※ボランティア活動にかかわる保険については当館の費用負担にて加入。

※ボランティアの登録は年度ごとに更新するものとし、連続での更新は原則3年を最長。

4) 募集定員：定員 約90名

- ・来館者対応ボランティア 70名
- ・ミュージアムフィールドボランティア 10名
- ・保存環境ボランティア 10名

5) 募集方法

募集パンフレット5,000部を製作し、県ボランティアセンター、各市町社会福祉協議会、市民活動センター、県内図書館、津市内公民館、県内大学・短期大学などへ配布依頼を行った。

6) 選考方法

書類選考ののち面接を行い、下記の事前研修Ⅰ～Ⅲの受講後にボランティア登録。

- ① 平成27年3月6日(金) 書類選考結果通知
- ② 平成27年3月14日(土) 面接
- ③ 平成27年3月21日(土・祝) 事前研修Ⅰ みえむの概要と目指すもの
- ④ 平成27年3月22日(日) 事前研修Ⅱ 博物館でのボランティア活動とは
- ⑤ 平成27年3月28日(土) 事前研修Ⅲ 各ボランティア内容別研修

7) 応募結果

申込み総数 50名

希望活動別総数

- ・来館者対応ボランティア 31名
- ・ミュージアムフィールドボランティア 12名
- ・保存環境ボランティア 23名

※兼務を含む。面接の結果、全員登録としたが、保存環境ボランティアのみ定員を大幅に超えたため、希望者に確認を行い専願または特に希望する14名に絞り込みを行った。

8 広報

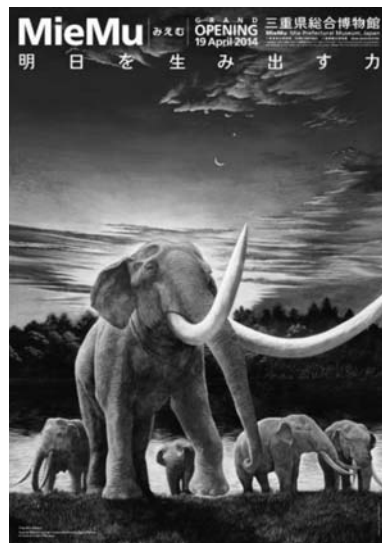
8.1 開館PR公式ポスタ

開館に向けた機運と期待を喚起するために、開館PR公式を3種類作成し、第1弾から第3弾まで段階的に公開発信した。

- ・開館PR公式ポスター



第1弾



第2弾



第3弾

8.2 新聞・テレビ・ラジオ

1) 新聞

平成26年度における新聞への掲載実績は、327件であった。

なかには、開館を盛り上げるべく当館の特集連載を組んでいただいたものもあり、各企画展の展示内容に関するもののほか、オリジナルグッズの販売や「博物館ウェディング」など事業の紹介なども記事として掲載された。

2) テレビ

平成26年度におけるテレビでの報道実績は、41件であった。

開館直後の4月、5月を中心に数が多い。クイズ番組にて企画展「でかいぞ ミエゾウ！」に合わせたミエゾウに関するクイズを生放送するなど、ニュースのみに限らず様々な形で情報発信することができた。

3) ラジオ

平成26年度におけるラジオでの報道実績は、40件であった。

8.3 雑誌

1) 雑誌・フリーペーパー

平成26年度の掲載実績は、雑誌が20件、フリーペーパーが24件の計44件であった。

津市近郊の情報を扱うフリーペーパーでは、定期的に情報を掲載していただける関係ができており、今後も継続していく。また読者プレゼントとして、各企画展の招待券を提供する場合もあった。

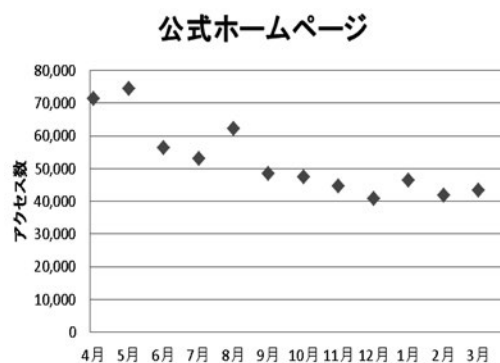
2) 社内報等その他の発行者

社内報や業界誌など、その他の発行者への掲載実績は、9件であった。新しい施設ということで、従業員の方や、地域の産業界の方に対して当館の施設を紹介することができた。

8.4 ホームページ

1) 月間アクセス数

月	アクセス数 (単位：回)	月	アクセス数 (単位：回)
4月	71,257	10月	47,439
5月	74,429	11月	44,550
6月	56,209	12月	40,765
7月	52,960	1月	46,405
8月	62,251	2月	41,882
9月	48,348	3月	43,206

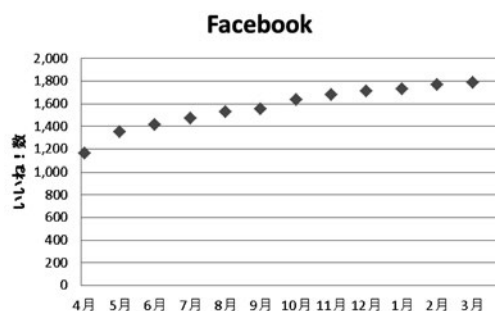


8.5 Facebook・Twitter

当館では、博物館を身近に感じより親しんでいただくことを目的として、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）のうちFacebookとTwitterの運用を行っている。

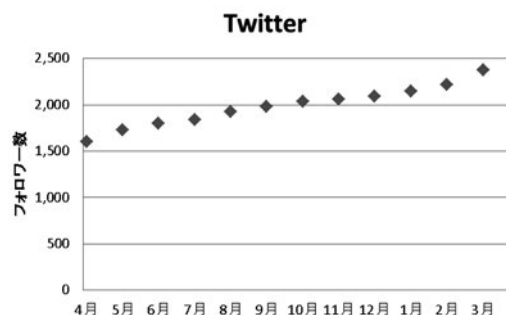
1) Facebook 月間の「いいね！」数

月	いいね！数	月	いいね！数
4月	1,160	10月	1,638
5月	1,352	11月	1,677
6月	1,415	12月	1,708
7月	1,473	1月	1,729
8月	1,526	2月	1,768
9月	1,555	3月	1,786



2) Twitter 月間のフォロワー数

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4月	1,604	10月	2,035
5月	1,730	11月	2,063
6月	1,802	12月	2,094
7月	1,837	1月	2,148
8月	1,927	2月	2,218
9月	1,983	3月	2,376



8.6 その他

広報活動の一環として、イオンモールなどの商業施設にブース出展し、博物館の施設や展示を紹介する移動展示やPRイベント等を行った。

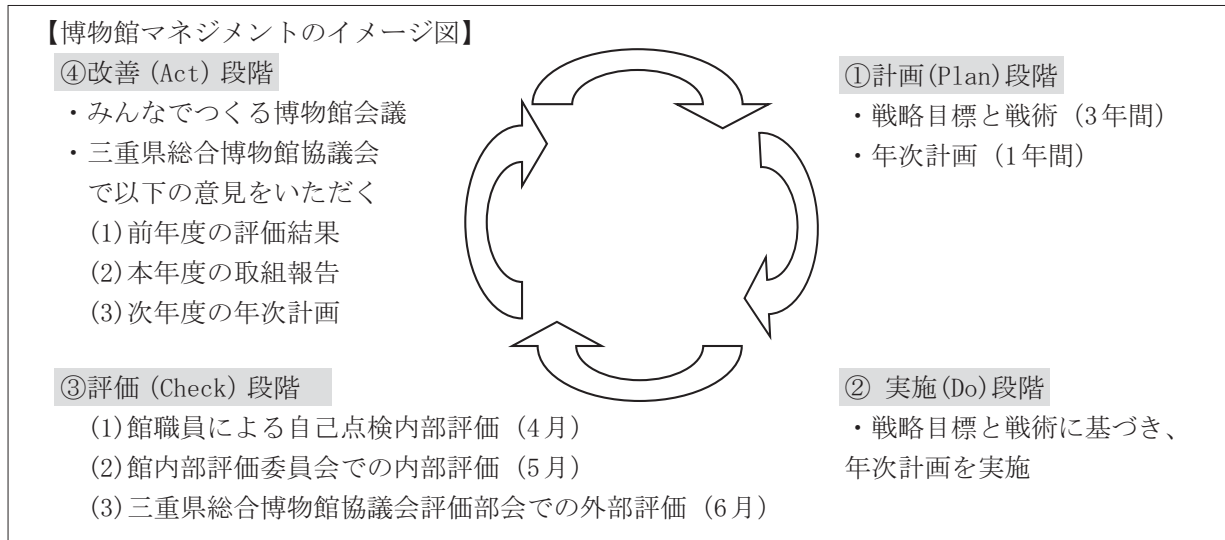
行事名	期間	会場	概要	参加人数
イオンモール東員 ブース出展	4月18日(金) ～20日(日)	イオンモール 東員	パネル・ポスター展示 パンフレット配布	58,746
三重テラス ブース出展	4月23日(水) ～29日(火・祝)	三重テラス	パネル・ポスター展示 パンフレット配布	575
イオンレイクタウン ブース出展	6月6日(金) ～9日(月)	イオンレイクタ ウン (埼玉県越谷市)	パネル・ポスター展示 パンフレット配布	321,287
イオンモール東員 ブース出展	8月18日(月) ～24日(日)	イオンモール 東員	パネル展示	1,500
イオンモール東員 ブース出展	8月23日(土) 8月24日(日)		ミエゾウぬりえ	270
イオンモール東員 ブース出展	8月23日(土) 8月24日(日)		MieMuに関するクイズ	155
イオン熊野 ブース出展	10月13日(月) ～19日(日)	イオン熊野	パネル展示	200
イオン熊野 ブース出展	10月19日(日)		ミエゾウぬりえ クイズ	48
イオン尾鷲 ブース出展	10月22日(水) ～29日(水)	イオン尾鷲	パネル展示	300
三重大学学祭 ブース出展	11月1日(土) ～2日(日)	三重大学	パネル展示 ぬりえ	32
イオンモール堺北花 田 ブース出展	11月1日(土) ～3日(月・祝)	イオンモール 堺北花田	パネル展示	1,350
イオンモール堺北花 田 ブース出展	11月1日(土) ～3日(月・祝)		ミエゾウぬりえ クイズ	579
イオン四日市尾平店 ブース出展	10月30日(木) ～11月9日(日)	イオン 四日市尾平店	パネル展示	600
イオン四日市尾平店 ブース出展	11月9日(日)		ミエゾウぬりえ クイズ	166
イオン鳥羽店 ブース出展	11月10日(月) ～16日(日)	イオン鳥羽店	パネル展示	250
イオン鳥羽店 ブース出展	11月16日(日)		ミエゾウぬりえ クイズ	52
リーディング産業展 ブース出展	11月14日(金) ～15日(土)	四日市ドーム	企業向けPR ミエゾウぬりえ	600
三重県民大縁会 ブース出展	11月22日(土)	サンアリーナ	パネル・ポスター展示 パンフレット配布	500
イオン四日市北 ブース出展	2月28日(土)	イオン四日市北	第7回企画展PRの昆虫クイズ てんとう虫ぬりえ	266
計				382,905

9 博物館の評価

9.1 評価のしくみ

三重県総合博物館の活動を県民・利用者のみなさんと、「ともに考え、活動し、成長させていく」ため、最も重要な基盤となるのが「博物館マネジメント」である。

三重県総合博物館では、「博物館マネジメント」として、毎年の活動と運営を「計画(Plan)－実施(Do)－評価(Check)－改善(Act)」のサイクルとして展開していく評価と改善のしくみを構築している。



1) 計画段階

① 短期計画(3年間)

「三重県総合博物館協議会」や「みんなで作る博物館会議」などに意見を求めながら、短期(3年間)の戦略目標と戦術を作成、公表する。

戦略計画は3年間、重点的に目的をもって取り組む戦略目標、戦略目標達成のために具体的に取り組む戦術を決め、戦略や戦術の成果を評価する指標とその目標値を定める。

② 年次計画

短期計画のプロセスと同様に、1年間の事業計画を作成し、概要は、「三重県総合博物館年報」に掲載して公表する。

2) 施段階

実施にあたっては、来館者アンケートを分析し、利用者による評価を集約する。

利用者数、満足度など、博物館の状況を表す数値データなども集計する。

3) 評価段階

実施段階で得たアンケート等のデータを活用し、段階的に①自己点検評価、②内部評価、③外部評価を組み合わせた総合評価を行う。

①自己点検評価：前年度の戦略と戦術に基づいて実施された活動と運営について、各活動と運営を担当した職員が成果指標のデータ分析を行い、活動と運営の成果について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う(4月)。

②内部評価：館職員による内部評価委員会を設置し、自己点検評価者とともに、各事業について事実確認とともに、評価と改善点を含んだ総括を行う(5月)。

③外部評価：内部評価委員会でまとめた事実確認と評価、改善点を元に、外部評価として設置した三重県総合博物館協議会の評価部会(委員5名)が、前年度の活動と運営の成果について評価をし、改善点を付す(6月)。

また、事業を日常的に確認し改善するために、内部において毎日朝夕2回の「日常点検報告会（5分）」と定期および臨時の戦略会議をもつ。定期戦略会議としては、第1休館日に全職員による「MieMuミーティング（1時間）」と館常勤職員による「運営ミーティング（3時間）」を開催している。また、毎週週初めに課長代理以上の職員による「トップミーティング（2時間）」を開催している。

【評価と改善のしくみの構築】

先行事例を調査し、自己評価と外部評価（県民・利用者参加型の評価を含む）を効果的に取り入れ、目標・指標の設定から事実確認、評価、改善策の打ち出しまで一連の制度の構築に向けて県民のみならず博物館評価を専門とする外部有識者とともに検討している。

4) 改善段階

前年度の活動と運営に対する評価結果と本年度の取組について、来館者アンケートとみんなで作る博物館会議および三重県総合博物館協議会などでいただいた意見を参考に、次年度の年次計画や次期3年間の戦略目標や戦術を構築させていく。

9.2 平成26年度の戦略目標と戦術の評価結果

平成26年度の評価結果は、次の日程で実施した。

館職員の自己点検内部評価は、平成27年4月中に各戦略と戦術の担当者が評価シートをまとめた。内部評価委員会は平成27年5月15日（金）及び5月22日（金）に実施し、外部評価は平成27年6月11日（木）に三重県総合博物館協議会評価部会を実施した。評価結果の概要は以下のとおりであり、各戦略目標と戦術の詳細な評価結果については、巻末の事業成果一覧に掲載した。

①内部評価結果（概要）

- ・開館初年度で、11本の企画展を実施したことや開館前後の大規模広報により、幅広い層の展示観覧者とともに、年度後半には、一定のリピータを確保することができた。展示観覧者アンケートを通じて、展示等に満足いただくとともに、館のビジョンである「三重の特徴と素晴らしさに気づいて」もられたことが、確認できた。また、MieMuを県内で広く認知していただくことができた。

- ・一方で、極めて多くの企画展を開催したことや利用者対応にかかる運営面の課題が多かったことから、それらの対応等に館全体の経営資源の内、極めて多くを配分せざるを得なくなり、地域を対象とする総合研究などに時間を割く事ができず、一部の事業における低い実施実績や低い満足度の要因になった。次年度以降、無理のない適正な事業数の設定や人員配置体制、準備期間を設けるなど、本評価制度が有効に機能するよう努める必要がある。

- ・なお、企業との連携については、1名の専任職員を配置し、全職員が担当企業を決め対応してきたことで、連携事業25件の実施や賛助金収入約7千万円を得るなど、企業の支援を獲得して、ともに活動できたことは、県による直営状況にあっては、高く評価できる。

②外部評価結果（概要）

- ・内部評価の結果に関して概ね妥当と考える。

- ・ただし、戦術9及び戦略6に関しては、内部評価結果と異なり、戦術9「活動への参画促進のために、ミュージアム・パートナー制度を支援します」はミュージアム・パートナー事業を充分実施していると考え、評価結果を「3」から「4」に上げた。

- ・また、戦略6「経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します」は、経営資源を効果的に配分できていない様子がうかがえたことから、初年度なので「評価できず」とした評価を「1」とした。

- ・なお現評価制度については、運営の根幹部分を戦略・戦術にして評価しているが、利用者の視点での戦略・戦術がなく、その評価がないのが課題である。

9.3 みんなでつくる博物館会議

1) みんなでつくる博物館会議

目 的

「みんなでつくる博物館会議」は、県民・利用者みなさんが楽しくMieMuに参加することで博物館づくりに参画することを目的としている。県民・利用者にとって楽しい博物館とはどのようなものか、博物館の楽しみ方とはどのようなかたちがあるかなどこれからのMieMuのあり方について話し合う機会とした。

今回は、開館までに博物館の学芸員が時間をかけて思いを込めながら工夫をこらして準備してきた「展示」について、みんなで話し合った。

実施日時 平成27年1月31日（土）

実施場所 三重県総合博物館 レクチャールーム

参加人数 28名（展示室討論内訳：基本展示17名、企画展示11名）

内 容 「～おもしろい展示って何だろう？学芸員としゃべろう～」をテーマとし、博物館の展示について考える機会とした。討論に先立って、開館1年目の活動と運営の考え方、これまでの会議やアンケート結果の活用について報告した。

基本展示と企画展示のグループに分かれ、学芸員の展示解説を聞き、展示について、グループ討論を行った。グループ討論での意見は、全体討論の場で共有し、利用しやすい展示について意見をまとめた。

2) こども会議

目 的

「こども会議」は、子どもたちが博物館づくりへの参画のしくみの一つとなるよう、平成24年度から試行的に毎年開催してきた。子どもたちにとって、魅力的な博物館とはどのようなものか、大人も交えてMieMuのあり方について話し合う機会を設けることを目的としている。

平成26年度は、「展示」をテーマに、子どもたちの視点から見た基本展示室の楽しみ方を共有する試みを行った。

実施日時 平成26年11月8日（土） 13時30分～17時

実施場所 三重県総合博物館（MieMu）レクチャールーム及び基本展示室

参加人数 4名

内 容 カメラを片手にMieMuの基本展示室を探検して、MieMuでの冒険物語を考える。それぞれの子どもたちが、基本展示室を見て想像した自分だけのストーリーを絵本にまとめ、後日こども体験展示室で絵本の展示を行った。

9.4 アンケート結果概要

1) 目的

博物館利用者の意見と要望、ニーズ、満足度、与えた影響を把握しながら、今後の施設利用や接遇、展示活動、交流創造活動、広報のあり方などを検討・改善し、利用しやすく地域の役に立つ博物館づくりを進めるために来館者アンケートを実施している。さらに、ビジョンや戦略目標、戦術における毎年の達成度を評価するためのデータ収集も目的としている。

2) 実施方法

展示観覧者に対してのアンケートは、基本展示室、企画展示室、交流展示室の各展示室出口付近に机と椅子を置き、アンケート記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のアンケート用紙と鉛筆及びアンケート回収箱を置き、展示観覧者が自由にアンケートに記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。

入館者に対してのアンケートは、学習交流スペースに机と椅子を置き、ご意見記入コーナーを設置した。机の上には、大人用と子ども用のご意見記入用紙と鉛筆及びご意見回収箱を置き、来館者が自由にご意見を記入していただけるようにした。開館中毎日実施した。

交流創造活動参加者に関するアンケートは、事業実施前に配布資料とともにアンケートを配布し、事業終了時に記入いただくことで収集した。

3) 項目

アンケートは、基本展示用、各企画展示用、ご意見記入用、交流創造活動の4種類あり、それぞれ大人用と子ども用を用意した。

展示については、①興味を引く資料の有無とその内容、②改善点の有無とその内容、③展示から新たな考えを得たかとその内容、④展示の満足度、⑤展示を知った媒体、を聞いた。さらに、MieMuについても、①MieMuの来館回数、②MieMuを一言で表すと、③ご意見・ご要望、を聞いた。アンケート記入者の属性については、①性、②年齢、③居住地、④今日を除いてミュージアムを訪れた回数、を聞いた(図1)。

ご意見記入用については、まずご意見・ご要望を聞き、アンケート記入者の属性及び、MieMuを知った媒体、MieMuの満足度を聞いた。

1) 基本展示アンケート

アンケートにご協力ください。アンケートのデータは、博物館運営に関する改善活動や研究等の目的では使用いたしません。

A ご覧になった展示についてお尋ねします。

(1) ご覧になった展示に関して、次の質問について具体的なご意見などがありましたら、ご記入ください。また「**展示の平面図**」にもお書きください。

- ・ 興味をひく資料、目録に残った展示コーナーがありましたか。
- ①いいえ ②はい (内容:)
- ・ 改善すべき展示内容や展示方法がありましたか。
- ①いいえ ②はい (内容:)
- ・ 展示を観て、何か新たな考えや刺激を得ることができましたか。
- ①いいえ ②はい (内容:)

(2) ご覧になった展示に満足しましたか。 **Q12**をおつけください。

①いいえ ②どちらかというところ「いいえ」 ③どちらかというところ「はい」 ④はい

(3) この展示をなにご知りになりましたか。 **質問するものすべてにQ**をおつけください。

①ポスター、②チラシ、③新聞、④テレビ、⑤雑誌、⑥「果敢だより」、
⑦館の公式ホームページ、⑧そのほかのホームページ・ブログ、
⑨館のTwitterやFacebook、⑩そのほかのTwitterやFacebook、
⑪直営、人から聞いて、⑫その他 ()

B 三重県総合博物館 MieMu についてお尋ねします。

(1) 三重県総合博物館 MieMu の展示を観るのは、今回が何回目ですか。 **Q11**をおつけください。

①はじめて、②2回目、③3回目、④4回目以上

(2) MieMu をひとこと表すと、どんな言葉がふさわしいですか。

三重県総合博物館 MieMu は、_____です。

(3) MieMu についてご意見・ご要望などがありましたら、ご自由に記入してください。

C あなたご自身 (回答者ご本人) のことをお尋ねします。もしよろしければ、ご回答ください。

() 内の該当する項目に **Q13**をおつけください。また、_____にはご記入ください。

(1) 性別 () (2) 年齢 _____歳

(3) 居住地 (①津市内: _____町 ②三重県内: _____市町 ③三重県外: _____都道府県)

(4) 今日を除いて過去1年間で何回、「ミュージアム」を訪れましたか。

(①0回 ②1回 ③2回 ④3回 ⑤4回以上)

* 「ミュージアム」とは、MieMuなどの博物館のほか、美術館、科学館、動物園、水族館、資料館などを指します。
_____もご記入ください。

アンケート用紙表

基本展示室で印象に残った展示と改善すべき展示の場所と内容を記入してください。

※場所はおよそでも構いませんし、内容だけの記入でも構いません。

ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙裏

4) 傾向

● 展示アンケート

平成26年度の展示アンケート回答枚数は、基本展示1,434枚、企画展示3,083枚であった。なお、企画展示は企画展の他、交流展、トピック展を合わせた数である。展示観覧者に対する回答率は、1.3%であった。

【アンケート回答者の属性】

【男女比】基本展示と企画展示の1年間の合計で、女性58.7%、男性41.1%であった（図1）。

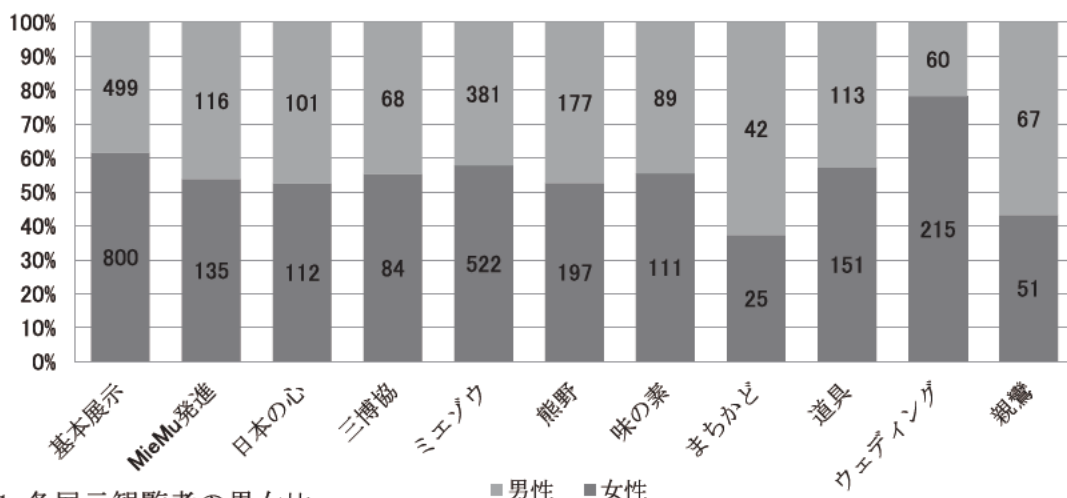


図1. 各展示観覧者の男女比

【各展示観覧者の年齢層】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、12歳までが44%、13-19歳が9%、20-34歳が10%、35-49歳が16%、50歳以上が21%で、小学生以下が40%以上であった。なお各展示での年齢層は、「ミエゾウ」、「味の素」、「くらしの道具」展で小学生以下が約60%と高く、「日本の心」、「熊野」、「まちかど博物館」展では、50歳以上が高い傾向にあった。なお「ウエディング」展は、20-34歳が他の展示と比較して最も高く20%だった（図2）。

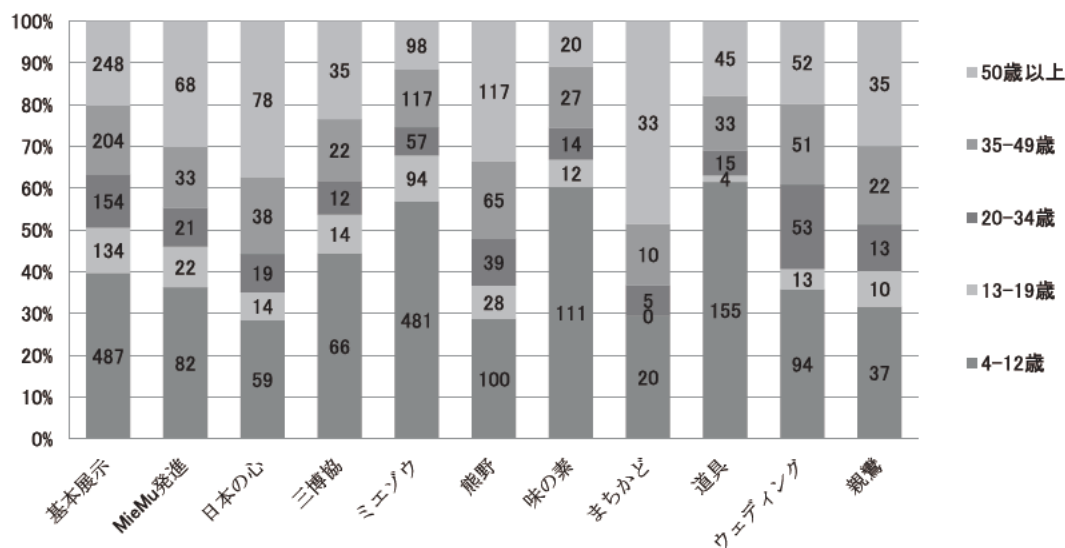


図2. 各展示観覧者の年齢層（グラフ内の数字は展示観覧者数）

【各展示観覧者の居住地】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、津市が38%、津市以外の県内が49%、県外が13%であった。なお夏休みに開催した「ミエゾウ」と「親鸞」は県外が20%以上だった。一方、冬季に開催した「くらしの道具」と「ウエディング」については津市が50%以上だった（図3）。

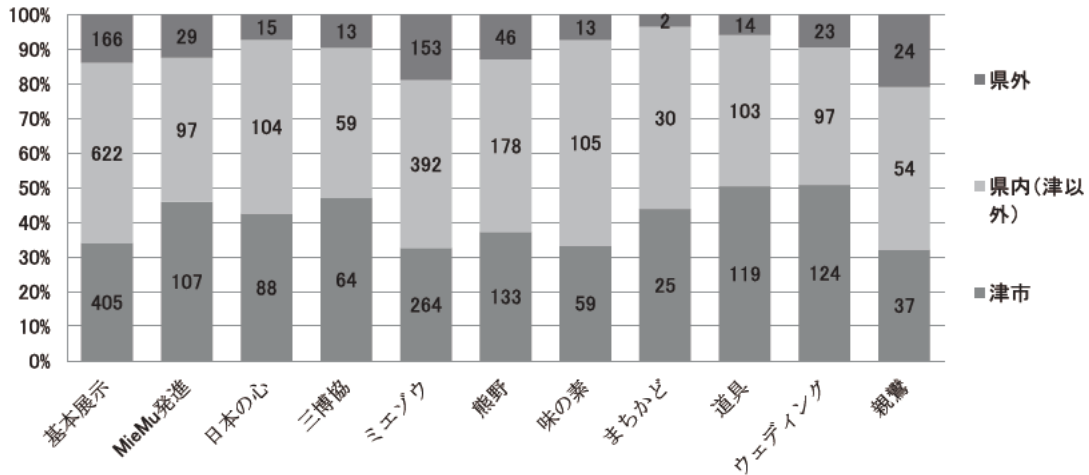


図3. 各展示観覧者の居住地（グラフ内の数字は展示観覧者数）

【MieMuの来館回数】

1回（初めて）割合が、開館日数とともに減少し、年度末の企画展では35%以上となった（図4）。

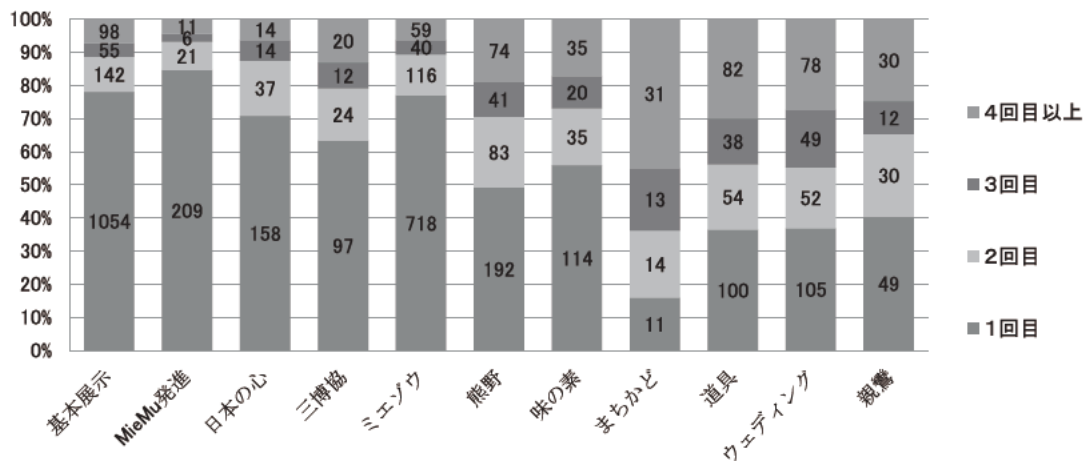


図4. 各展示観覧者のMieMuの来館回数（グラフ内の数字は展示観覧者数）

【1年間のミュージアム（博物館、美術館、科学館、動植物園、水族館、資料館など）の訪問回数】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、ほとんど利用しない1回以下が約56%で、よく利用する4回以上が約24%であった。博物館をあまり利用しない方の利用が多い傾向にあった。

【展示に対する満足度】

基本展示において、「満足」の割合は60%で、「どちらかという満足」が27%であった（図5）。企画展示は、「満足」が43-73%で、「どちらかという満足」を合わせるとどの企画展も満足が80%を超えた。不満な点については、「改善点の有無とその内容」の自由回答欄から、「キャプションの見やすさ」や「照明の暗さ」、「導線」などに関する意見があった。これらの意見については毎日確認し、改善を行っているが、根本的な解決に至らない意見もあり、解決に向け努力している。

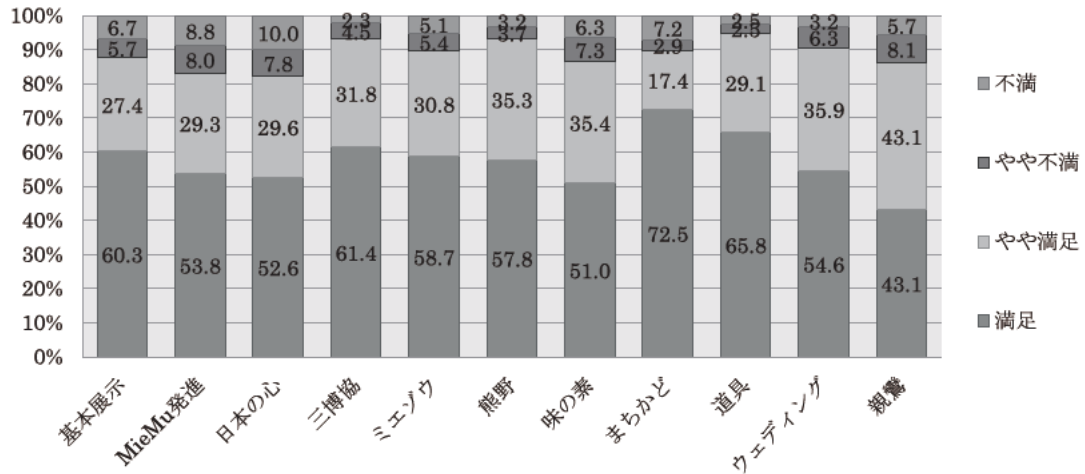


図5. 各展示観覧者の満足度（グラフ内の数字は展示観覧者数）

【観覧動機となった媒体】

基本展示と企画展示の1年間の合計で、ポスターが約24%、チラシが約18%、口コミが約23%で他と比べて高い。次に、テレビが約14%、新聞が約11%、県政だよりが10%、館のホームページが約9%であった。その他が約21%で、小学校の社会見学等の記載があった。

●MieMuについてのご意見

展示観覧者・入館者アンケートから、MieMuの印象、全体のご意見・ご要望を聞いている。「授乳室」や「こども体験展示室」などについて意見をいただいた。これらの意見については毎日確認し、改善を行っているが、根本的な解決に至らない意見もあり、月初めの全体会議で共有し、解決に向け努力している。

Ⅲ 資料

1 条例・規則

1.1 三重県総合博物館条例

三重県総合博物館条例

公布 平成二十五年六月二十八日

施行 平成二十六年四月 十九日

(設置)

第一条 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産を保全し、継承し、及び次代へ生かすとともに、地域社会を支える人づくり及び個性豊かで活力ある地域づくりに貢献するため、博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第十八条の規定に基づき、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）を津市に設置する。

(事業)

第二条 博物館においては、次の事業を行う。

- 一 博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び一般の利用に供すること。
- 二 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての調査研究を行うこと。
- 三 三重の自然並びに歴史及び文化に関する資産についての講演会、観察会、見学会等を行うこと。
- 四 公文書館法（昭和六十二年法律第百十五号）の趣旨にのっとり、県が保有していた歴史資料として重要な公文書その他の記録を博物館資料として保存し、展示し、及び一般の利用に供するとともに、これに関連する調査研究を行うこと。
- 五 前各号に掲げるもののほか、三重県教育委員会（以下「教育委員会」という。）が必要と認める事業を行うこと。

(休館日)

第三条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更し、又は別に休館日を定めることができる。

- 一 月曜日（この日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に定める休日（以下この号において「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の最初の休日でない日）
- 二 十二月二十九日から翌年の一月三日までの日

(開館時間等)

第四条 博物館の開館時間（第三項において「開館時間」という。）は、午前九時から午後七時までとする。ただし、入館できる時間（第三項において「入館時間」という。）は、午後六時三十分までとする。

2 博物館の施設及び設備（以下「施設等」という。）を利用することができる時間（次項において「利用時間」という。）は、別表第一のとおりとする。

3 教育委員会は、必要があると認めるときは、開館時間、入館時間及び利用時間を変更することができる。

(指示)

第五条 館長は、博物館資料又は施設等の保全、館内の秩序維持その他博物館の管理上必要があると認めるときは、展示された博物館資料の観覧者（第七条の手續をした者をいう。以下「観覧者」という。）、博物館資料の利用者（第八条の許可を受けた者をいう。第十一条及び第十三条において同じ。）、施設等の利用者（第九条の許可を受けた者をいう。第十一条及び第十三条において同じ。）その他の関係者に対し必要な指示をすることができる。

(入館の制限)

第六条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、その入館を拒否し、又は退館を命じることができる。

- 一 めいてい者等他人に危害又は迷惑を及ぼすおそれのある者
- 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれのある者
- 三 前二号に掲げる者のほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第五条の指示に従わなかった者

(観覧の手続)

第七条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、教育委員会規則の定めるところにより、観覧の手続をしなければならない。

(博物館資料の閲覧等の許可)

第八条 博物館資料の閲覧、撮影等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

(施設等の利用の許可)

第九条 施設等を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

(許可の条件等)

第十条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前二条の許可を与えないものとする。

- 一 公益を害し、又は善良な風俗を乱すおそれがあるとき。
- 二 博物館資料又は施設等を損傷するおそれがあるとき。
- 三 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第二条第二号に規定する暴力団をいう。次条第三号において同じ。）の利益になると認められるとき。
- 四 博物館の事業の実施に支障を来すおそれがあるとき。

2 教育委員会は、博物館資料に個人に関する情報その他の教育委員会規則で定める情報が記録されている場合には、第八条の許可を与えないことができる。

3 教育委員会は、前二条の許可に博物館の管理上必要な条件を付けることができる。

(許可の取消し)

第十一条 教育委員会は、博物館資料の利用者又は施設等の利用者が次の各号のいずれかに該当するとき、第八条若しくは第九条の許可を取り消し、又は博物館資料の閲覧、撮影等若しくは施設等の利用を中止させることができる。

- 一 偽りその他不正の行為により許可を受けたとき。
- 二 許可を受けた目的に反して博物館資料の閲覧、撮影等を行い、又は施設等を利用したとき。
- 三 暴力団の利益になると認められるとき。
- 四 前条第三項の規定により付けられた条件に違反したとき。
- 五 前各号に掲げるもののほか、この条例若しくはこれに基づく教育委員会規則に違反し、又は第五条の指示に従わなかったとき。

(観覧料)

第十二条 博物館に入館し、展示された博物館資料を観覧しようとする者は、別表第二に定める額の観覧料を納付しなければならない。

2 前項の観覧料は、前納しなければならない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(使用料)

第十三条 博物館資料の利用者又は施設等の利用者は、別表第三に定める額の使用料を納付しなければならない。

2 前項の使用料は、第八条又は第九条の許可の際に納付しなければならない。ただし、知事が特に必要が

あると認めるときは、この限りでない。

(博物館協議会)

第十四条 博物館法第二十条第一項の規定に基づき、博物館に三重県総合博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第十五条 協議会は、委員十五人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 前三号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

3 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

5 第一項の場合において、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満とならないものとする。ただし、教育委員会がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。

(会長及び副会長)

第十六条 協議会に、会長及び副会長各一人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第十七条 協議会の会議(以下この条において「会議」という。)は、会長が招集し、議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(罰則)

第十八条 次の各号のいずれかに該当する者は、五万円以下の過料に処する。

- 一 第五条の指示に従わなかった者
- 二 第六条の規定による入館の拒否又は退館の命令に従わなかった者
- 三 第七条の手続をしないで入館し、展示された博物館資料を観覧した者
- 四 第八条の許可を受けずに博物館資料の閲覧、撮影等を行った者
- 五 第九条の許可を受けずに施設等を利用した者
- 六 第十一条の規定による許可の取消し又は中止処分に従わなかった者

(他の条例との関係)

第十九条 この条例に定めるもののほか、三重県公債権の徴収に関する条例(昭和三十九年三重県条例第十三号)に定める事項については、その定めるところによる。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

(委任)

第二十条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、規則又は教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成二十六年五月十八日までの間において規則で定める日から施行する。(平成二十六年二月三重県規則第三号で、同二十六年四月十九日から施行)ただし、附則第三項の規定は公布の日から、附

則第四項の規定は同年四月一日から施行する。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

(三重県立博物館条例の廃止)

2 三重県立博物館条例(昭和三十九年三重県条例第四十九号)は、廃止する。

(準備行為)

3 この条例の施行に関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても行うことができる。

(観覧料の納付の特例)

4 平成二十六年四月一日から附則第一項本文に規定する規則で定める日の前日までの間において、知事は、別表第二に規定する観覧料であって企画展示及び特別企画展示に係るものに限り、第十二条の規定の例により納付させることができる。

追加〔平成二六年条例五七号〕

附 則(平成二十六年三月二十七日三重県条例第五十七号)

この条例は、三重県総合博物館条例の施行の日から施行する。ただし、附則第一項の改正規定及び附則に一項を加える改正規定は、公布の日から施行する。

別表第一(第四条関係)

区分	利用時間
基本展示室 企画展示室 交流展示室	午前九時から午後五時まで
交流活動室 こども体験展示室 実習室 資料閲覧室 三重の実物図鑑 レクチャールーム レファレンスカウンター	午前九時から午後七時まで

別表第二(第十二条関係)

区分	観覧料			年間パスポート券による観覧
	基本展示		企画展示及び特別企画展示	
	個人	団体		
小学生、中学生、高校生及びこれらに準ずる者	—	—	展示等を行うのに要する費用を勘案してその都度知事が定める額	—
大学生及びこれに準ずる者	三〇〇円	二四〇円		一、〇二〇円
一般	五一〇円	四〇〇円		一、六四〇円

備考

一 基本展示の団体の欄に掲げる額は、観覧者が二十人以上の団体を構成している場合の当該構成員(団体の引率者を含む。)一人当たりの観覧料をいう。

二 特別企画展示とは、教育委員会が定める特別な企画による展示をいう。

三 年間パスポート券とは、交付を受けた日から起算して一年を経過する日までの間において、基本展示及び企画展示を観覧することができる券をいう。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

別表第三(第十三条関係)

区分	使用料
博物館資料	一回につき、一点五、一四〇円以下の範囲内において知事が定める額
交流展示室	一時間につき一、九四〇円
レクチャールーム	一時間につき一、七二〇円

備考 使用時間に一時間未満の端数があるときは、その端数は一時間とする。

一部改正〔平成二六年条例五七号〕

1.2 三重県総合博物館条例施行規則

三重県教育委員会規則第二号
三重県総合博物館条例施行規則

公布：平成二十六年三月十七日

施行：平成二十六年四月十九日

(趣旨)

第一条 この規則は、三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(用語)

第二条 この規則における用語の意義は、条例で使用する用語の例による。

(入館者の遵守事項)

第三条 博物館へ入館した者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 触ることのできる表示のある博物館資料を除き、博物館資料に触れないこと。
- 二 展示室、資料閲覧室で鉛筆以外のものを使用しないこと。
- 三 撮影できない表示のある博物館資料の撮影をしないこと。
- 四 所定の場所以外で喫煙又は飲食をしないこと。
- 五 その他、係員の指示に従うこと。

(博物館資料の閲覧等の許可の申請)

第四条 条例第八条の規定により博物館資料の閲覧の許可を得ようとする者は、閲覧の形態に応じて、閲覧利用申請書（第一号様式その一からその三まで）をそれぞれ館長に提出しなければならない。

2 条例第八条の規定により、博物館資料の撮影等の特別利用の許可を得ようとする者は、特別利用申請書（第二号様式）を館長に提出しなければならない。

3 館長は、前項を許可したときは、博物館資料特別利用許可書（第三号様式）を交付するものとする。

4 博物館資料の利用者は、善良なる管理者の注意をもって利用しなければならない。

(施設等利用の許可の申請)

第五条 条例第九条の規定により施設等の利用の許可を得ようとする者は、施設等利用許可申請書（第四号様式）を館長に提出しなければならない。

2 館長は、前項を許可したときは、施設等利用許可書（第五号様式）を交付するものとする。

3 施設等の利用期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、これを延長することができる。

(施設等の変更の禁止)

第六条 施設等の利用者は、博物館の施設等に変更を加え、又は特別の施設等を設けてはならない。ただし、館長の承認を受けたときは、この限りでない。

(利用の廃止又は中止)

第七条 施設等の利用者は、博物館の施設等の利用を廃止又は中止しようとするときは、施設等利用廃止（中止）届（第六号様式）をあらかじめ館長に提出しなければならない。

(利用者の遵守事項)

第八条 施設等の利用者は、次の各号に掲げる事項を守るとともに、善良なる管理者の注意をもって施設等を利用しなければならない。

- 一 営利行為を行わないこと。ただし、図録等の販売で館長の承認を受けたものは除く。
- 二 施設等の適正な管理及び火災防止に努めること。
- 三 その他、係員の指示に従うこと。

(資料の貸出)

第九条 博物館は、博物館資料を貸し出すことができない。ただし、当該博物館資料が学術上の調査研究又は教育の普及のために使用され、かつ、取扱上の安全性が確保されると認められるときは、博物館の運営に支障をきたさない範囲において、次の各号に掲げるものに対して貸し出すことができる。

- 一 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二条第一項の規定による博物館及び同法第二十九条の規定による博物館に相当する施設
 - 二 三重県内の官公署
 - 三 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）第一条に規定する学校
 - 四 その他館長が適当と認めるもの
- 2 前項ただし書の規定により、博物館資料の貸出しを受けようとする者は、資料貸出許可申請書（第七号様式）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該博物館資料が博物館に寄託された資料（以下「寄託資料」という。）であるときは、当該寄託をした者（以下「寄託者」という。）の承諾書を添付しなければならない。
- 3 館長は、前項の許可をしたときは、資料貸出許可書（第八号様式）を交付するものとする。
- 4 第二項の許可を受けた者（以下「借受人」という。）は、当該貸出しに伴う一切の費用を負担しなければならない。
- 5 博物館資料の貸出期間は、三十日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、この限りでない。
- 6 借受人は、善良なる管理者の注意をもって博物館資料を利用しなければならない。

(弁償の義務)

第十条 入館者、施設等の利用者及び借受人が故意又は過失により、博物館資料若しくは施設等を汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担しなければならない。

(資料の寄贈及び寄託)

第十一条 博物館に資料を寄贈及び寄託しようとする者は、資料寄贈（寄託）申請書（第九号様式）を館長に提出し、その承諾を受けなければならない。

- 2 館長は、前項の承諾をしたときは、資料受領書（第十号様式）を交付するものとする。
- 3 寄託資料は、博物館所蔵の資料と同様の取扱いをするものとする。
- 4 博物館は、寄託資料が火災等やむを得ない事由により汚損し、破損し、又は亡失した場合には、その責めを負わない。
- 5 博物館が、寄託者の申出により、寄託資料の返還を行うときは、資料受領書と引き換えに行うものとする。

(歴史資料として重要な公文書の受入れ)

第十二条 博物館は、条例第二条第四号に掲げる県が保有していた歴史資料として重要な公文書等を受け入れるものとする。

(委任)

第十三条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成二十六年四月十九日から施行する。
(三重県立博物館条例施行規則の廃止)
- 2 三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）は、廃止する。
(三重県教育委員会教育長事務専決規則の一部改正)
- 3 三重県教育委員会教育長事務専決規則（昭和三十一年三重県教育委員会規則十五号）の一部を次のよう

に改正する。

別表中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(三重県教育委員会事務局組織規則の一部改正)

- 4 三重県教育委員会事務局組織規則（昭和四十三年三重県教育委員会規則六号）の一部を次のように改正する。

第十六条第一項第十二号中「博物館」を「総合博物館」に改める。

(知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則の一部改正)

- 5 知事の補助職員等に対する教育委員会の権限の一部委任等に関する規則（平成二十年三重県教育委員会規則第二号）の一部を次のように改正する。

第二条第二項中「三重県立博物館」を「三重県総合博物館」に改め、「三重県立博物館条例（昭和三十九年三重県条例第四十九号）及び三重県立博物館条例施行規則（昭和四十五年三重県教育委員会規則第十九号）の改正及び廃止に関する事務」を「次に掲げる事務」に改め、「三重県立博物館条例第五条及び第七条」を「三重県総合博物館条例（平成二十五年三重県条例第六十四号）第五条及び第六条並びに三重県総合博物館条例施行規則（平成二十六年三重県教育委員会規則第二号）第四条から第九条及び第十一条」に改め、同項の次に次の各号を加える。

一 三重県総合博物館条例及び三重県総合博物館条例施行規則の改正及び廃止に関すること。

二 博物館法（昭和二十六年法律第二百八十五号）第二十一条及び三重県総合博物館条例第十五条第二項の規定に基づく博物館協議会委員の任免及び委嘱又は解嘱に関すること。

施行規則各種申請様式

第1号様式その1
三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(当日閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成	年	月	日	
申請者	利用証番号		氏名		
	住所				
	電話		電話(携帯)		
	E-mail				
閲覧希望日 (予約して閲覧したい方はご記入ください)	第一希望日	平成	年	月	日
	第二希望日	平成	年	月	日
	第三希望日	平成	年	月	日
	その他				
撮影の有無	有/無	※下記をご覧ください。			

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成	年	月	日
閲覧日	平成	年	月	日
担当				
備考				

第1号様式その2
三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(予約閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成	年	月	日	
申請者	利用証番号		氏名		
	住所				
	電話		電話(携帯)		
	E-mail				
閲覧希望日	第一希望日	平成	年	月	日
	第二希望日	平成	年	月	日
	第三希望日	平成	年	月	日
	その他				
撮影の有無	有/無	※下記をご覧ください。			

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成	年	月	日
閲覧日	平成	年	月	日
担当				
備考				

第1号様式その3
三重県総合博物館 資料閲覧利用申請書
(県が保有していた歴史資料として重要な公文書等 閲覧用)

申請者記入欄

申請日	平成	年	月	日
申請者	利用証番号		氏名	
	住所			
	電話		電話(携帯)	
	E-mail			
撮影の有無	有/無	※下記(3)をご覧ください。		

閲覧申請資料

No.	閲覧	分類名 資料番号	資料名等	出	納
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

(1) 文書に含まれる個人情報等、公開できない情報についての内容審査のため、閲覧までに2週間をものといたし期間を要します。
(2) 内容審査が終わ次第、博物館から閲覧日程について連絡いたします。
(3) 三脚・フラッシュ等の機材を用いた撮影、印刷物・WEB等への掲載については、別途「特別利用」の申請が必要となります。

博物館記入欄

受付日	平成	年	月	日
閲覧日	平成	年	月	日
担当				
備考				

(第2号様式)
平成 年 月 日

三重県総合博物館特別利用申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住所
団体名
代表者氏名 印
電話

三重県総合博物館条例施行規則第4条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他()			
内容	(1) 複製 (実測・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写 (模写) (4) 撮影 (5) 転載 (転載元:) (6) その他()			
利用期間 (発行予定日、放映予定日・時間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日】 平成 年 月 日 () : ～ 平成 年 月 日 () :			
利用場所 (出版物・放映等では掲載紙・番組名など)				
利用資料	資料番号	資料名	数量	備考
担当者	電話			
備考				

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守します。
 - (1) 善良なる管理者の注意をもって利用します。
 - (2) 施設、備品等の汚損、破損及び亡失防止に注意します。
 - (3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の見検を受けます。
 - (4) 利用時間を遵守します。
 - (5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮します。
 - (6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後データを消去します。
 - (7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補充に要する費用を負担いたします。
- 画像等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。

(第3号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館資料特別利用許可書

(申請者) 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった資料の利用は、下記のとおり許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 教育活動のための利用 (3) 出版物等への掲載のための利用 (4) テレビ放送等への利用 (5) その他 ()			
内 容	(1) 熟覧 (実測・拓本等) (2) 画像データの利用 (3) 複製・複写 (複写) (4) 撮影 (5) 転載 (転載元:) (6) その他 ()			
利用期間 (発行予定日、放映予定日・期間)	【利用期間・発行予定日・放送予定日】 平成 年 月 日 () ; ～平成 年 月 日 () ;			
利用場所 (出版物・図録等では 番組名・番組名など)				
利用資料	資料番号	資料名	数量	備考
担当者	電話			
備 考				

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
 - (1) 善良なる管理者の注意をもって利用すること。
 - (2) 施設、備品等の汚損、破損及び丢失防止に注意すること。
 - (3) 利用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けること。
 - (4) 利用時間を遵守すること。
 - (5) 他の利用者の迷惑とならないように配慮すること。
 - (6) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
 - (7) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従うこと。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または丢失したときは、その修理または補充に要する費用を負担すること。
- 資料等の利用により実施した出版物、印刷物等については2部送付すること。

(第4号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第5条の規定に基づき、下記の利用を申請いたします。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
利用者数				
備 考	(1) 観覧会等で施設を使用するときは、展示資料の一覧を添付すること。 (2) 設備等を設置するときは、概要を確認できる図面を添付すること。			

(第5号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用許可書

(申請者) 様
三重県総合博物館長

年 月 日付で申請のあった施設等の利用は、下記のとおり許可します。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
利用の概略	利用の目的			
	会場責任者氏名			
	観覧料等の徴収	有 / 無	円	
	図録等の販売	有 / 無	円	
	設備等の設置	有 / 無		
利用者数				
備 考				
利 用 料	円			

(第6号様式)

平成 年 月 日

三重県総合博物館施設等利用廃止(中止)届

三重県総合博物館長 宛て

住 所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第7条の規定に基づき、下記の事由により博物館の施設等の利用を廃止(中止)したいので届け出ます。

利用施設				
利用設備	設備・機械等	点数	設備・機械等	点数
利用日時	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで			
廃止(中止)事由及び届期日	平成 年 月 日 時から平成 年 月 日 時まで 中止・廃止			
備 考	(事由)			

(第7号様式) 平成 年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第9条の規定に基づき、下記について申請いたします。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他 ()			
内 容	(1) 熟覧 (実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写 (模写) (4) 撮影 (5) その他 ()			
貸出期間 (展示の場合は、展示期間)	【貸出期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () : 【展示期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () :			
利用場所 (保管・展示場所)				
貸出資料	資料番号	資料名	数量	備考
取扱責任者	電話			
輸送方法				
備 考				

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
- (1) 資料等について善良なる管理者の注意をもって利用します。
- (2) 施設、備品等の汚損、破損及び亡失防止に注意します。
- (3) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けます。
- (4) 貸出期間を遵守します。
- (5) 利用者は、申請事項以外の目的、内容に資料等を使用しません。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去します。
- (6) その他、利用に際しては博物館職員の指示に従います。
- 故意または過失により、資料等もしくは施設等を汚損、破損または亡失したときは、その修理または補正に要する費用を負担いたします。
- 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈いたします。
- 展覧会等で利用する場合、展覧会開催要項、展示会場、保管場所、警備体制、消防計画、職員体制、公開承認施設資格の有無等の資料を添付いたします。

(第8号様式) 平成 年 月 日

三重県総合博物館資料貸出許可書

(申請者) 様

三重県総合博物館長

平成 年 月 日付で申請のあった博物館資料の貸出は、下記の条件の下に許可します。

利用目的	(1) 学術上の調査研究のための利用 (2) 展示活動のための利用 (3) その他 ()			
内 容	(1) 熟覧 (実測・拓本等) (2) 展示 (3) 複製・複写 (模写) (4) 撮影 (5) その他 ()			
貸出期間 (展示の場合は、展示期間)	【貸出期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () : 【展示期間】平成 年 月 日 () : ~ 平成 年 月 日 () :			
利用場所 (保管・展示場所)				
貸出資料	資料番号	資料名	数量	備考
取扱責任者	電話			
輸送方法				
備 考				

- 利用者は次の各号に定める事項を必ず遵守すること。
- (1) 貸出を受けた者(以下「借受人」という。)は、貸出を受けた資料(以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。
- (2) 貸出に伴う一切の費用は、借受人が負担すること。
- (3) 借受人は貸出資料を故意又は過失により、汚損し、破損し、又は亡失したときは、その修理又は補充に要する費用を負担すること。
- (4) 借受人は、貸出資料を本署記載事項以外の目的、内容に使用しないこと。デジタルデータの利用の場合は、利用終了後はデータを消去すること。
- (5) 使用後においては、現状に復し、博物館職員の点検を受けますこと。
- (6) 貸出期間を遵守すること。
- (7) その他、利用に際しては当博物館職員の指示に従うこと。
- (8) 資料等の利用により作成した図録・報告書等の出版物、印刷物等については2部寄贈すること。

(第9号様式) 平成 年 月 日

三重県総合博物館資料寄贈(寄託)申請書

三重県総合博物館長 宛て

申請者 住所
団体名
代表者氏名 印
電 話

三重県総合博物館条例施行規則第11条の規定に基づき、下記のとおり、資料を寄贈(寄託)したいので申請します。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		
寄託の場合、寄託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで	

(第10号様式) 平成 年 月 日

三重県総合博物館資料受領書

様

三重県総合博物館長

平成 年 月 日付で申請のあった資料の寄贈(寄託)は、下記のとおり、受領しました。

資 料 名	数量	形状・寸法等
備 考		
寄託の場合、寄託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで	

1.3 三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱

三重県総合博物館協議会評価部会設置要綱

(設置)

第1条 三重県総合博物館協議会（以下「協議会」という。）に、三重県総合博物館（以下「博物館」という。）の活動と運営に対して評価を実施するための三重県総合博物館協議会評価部会（以下「部会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 部会は、博物館の前年度の活動と運営の成果に対して、調査審議して評価を下し、その結果を協議会に報告する。

(組織)

第3条 部会は、協議会委員2名及びその他の有識者3名で構成する。

- 2 部会委員のうち、協議会委員については互選で選出し、その他の有識者については協議会の了承を得て、館長が委嘱する。
- 3 部会委員の任期は、協議会委員と同じとする。
- 4 部会委員は、再任されることができる。
- 5 部会に部会長及び副部会長を置き、委員の互選によってこれを定める。
- 6 部会長は、部会の会務を総理する。
- 7 副部会長は、副部会長を補佐し、部会長に事故あるときはその職務を代理し、部会長が欠けたときはその職務を行う。

(会議)

第4条 会議は、部会長が招集し、議長となる。

- 2 部会長は、必要があると認めるときは、会議に部会委員以外の者の出席を求め、その意見を聴取することができる。
- 3 会議は、非公開とする。

(庶務)

第5条 部会の庶務は、博物館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要綱は、平成26年 9月 5日から施行する。

1.4 観覧料免除要項

三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館観覧料減免要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、三重県公債権の徴収に関する条例（昭和39年三重県条例第13号）第3条の規定に基づき三重県立美術館、斎宮歴史博物館及び三重県総合博物館（以下「博物館等」という。）の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において「観覧料」とは、次に掲げるものをいう。

(1) 三重県立美術館条例（昭和57年三重県条例第1号。次条第1項第1号において「美術館条例」という。）

第12条に規定する観覧料

(2) 斎宮歴史博物館条例（平成元年三重県条例第6号。次条第1項第1号において「斎宮条例」という。）

第11条に規定する観覧料

(3) 三重県総合博物館条例（平成25年三重県条例第64号。以下「博物館条例」という。）第12条に規定する観覧料

(減免の対象)

第3条 観覧料の免除を受けることのできる者は、次に掲げる者とする。

(1) 教育課程に基づく教育活動として、教職員に引率されて、美術館条例別表第1に掲げる企画展、斎宮条例別表第1に掲げる特別展、企画展その他特別な催物並びに博物館条例別表第2に掲げる企画展示及び特別企画展示を観覧する県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童及び生徒

(2) 教育課程に基づく教育活動として観覧する県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童及び生徒を引率する者

(3) 県内に設置されている児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設の在籍者で当該施設の職員に引率されて観覧する児童及び当該児童の引率者

(4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者

(5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者

(6) 知的障がい者と判定された者に対して公的機関が発行する療育手帳又は療育手帳に代わる証明書の交付を受けている者

(7) 前各号に該当する者のうち介護を要する者の介護を行う者。ただし、原則として対象者1人につき1人に限る。

2 前項に定めるもののほか、知事は、特に必要と認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

(減免の手続)

第4条 前条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、博物館等観覧料免除申請書兼承認書（様式第1号。以下「申請書」という。）に必要な事項を記載して博物館等の館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、同項第4号から第7号までに掲げる者が観覧料の免除を受けようとする場合には、同号に掲げる者であることを証する書類又は手帳の提示等をもって申請書の提出に代えることができる。

2 博物館等の館長は、申請書に基づく承認をしたときは、当該申請書にその旨を記して申請者に交付するものとする。

3 前条第2項の規定による観覧料の減免に関し必要な事項は、知事が別に定める。

(免除の手続の特例)

第5条 博物館等の館長は、前条第1項の規定による申請書の提出については、博物館等の館長が別に定め

るところにより、博物館等の館長の使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下この条において同じ。）と、申請をしようとするものの使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用して行わせることができる。

2 前項の規定により行われた提出は、同項の電子計算機に備えられたファイルへの記録がされた時に、博物館等の館長に到達したものとみなす。

附 則

（施行期日）

1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。ただし、三重県総合博物館に係る規定は、博物館条例の施行の日から施行する。

（三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱の廃止）

2 三重県立博物館、三重県立美術館及び斎宮歴史博物館観覧料免除要綱（平成20年三重県告示第199号。次項において「旧告示」という。）は、廃止する。

（経過措置）

3 この告示の施行前に旧告示の相当規定による免除についてなされた手続は、この告示に規定する免除についてなされた手続とみなす。

様式第1号（第4条関係）

博物館等観覧料免除申請書兼承認書

年 月 日

三重県総合博物館長 様

団 体 名
代 表 者 名
住 所

下記のとおり観覧料の免除を受けたいので申請します。

記

博物館等の名称	三重県総合博物館
免除申請の理由	
在 館 時 間	年 月 日() 時から 時まで
入 館 人 員	
引 率 代 表 者 名	電話番号 F A X 番 号
備 考	

(注意)インターネットやファックスでも受け付けます。

上記の申請に対して、承認します。

年 月 日

三重県総合博物館長

2 事業成果一覧

● 入館者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	11	27	25	27	27	25	27	26	24	24	24	26	293
入館者数(人)	30,919	68,725	59,008	32,354	47,011	23,102	24,993	23,757	10,442	11,376	14,291	18,314	364,292
1日平均(人)	2,810.8	2,545.4	2,360.3	1,198.3	1,741.1	924.1	925.7	913.7	435.1	474.0	595.5	704.4	1,243.3

● 展示観覧者数

(1) 基本展示観覧者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開館日数(日)	11	27	25	27	27	25	27	26	24	24	24	26	293	
有料観覧者	基本展示単独券利用	818	4,690	5,528	6,873	2,332	1,289	2,603	2,341	1,667	1,673	1,691	1,851	33,356
	セット券利用	5,751	11,137	2,881	704	9,771	3,484	1,436	2,461	0	838	978	967	40,408
	年間パスポート利用	1,642	3,469	2,215	1,195	3,100	1,780	1,259	1,651	441	1,278	1,265	1,501	20,796
	(小計)(人)	8,211	19,296	10,624	8,772	15,203	6,553	5,298	6,453	2,108	3,789	3,934	4,319	94,560
無料観覧者	高校生以下	4,753	9,537	6,787	5,185	11,491	2,495	1,296	2,475	1,063	1,469	1,407	1,822	49,780
	学校利用	1,018	2,492	615	671	267	1,799	4,954	2,185	322	376	1,082	458	16,239
	視察/招待	177	640	348	237	366	356	382	981	236	196	278	319	4,516
	障がい者及び付添	368	1,119	689	514	699	473	291	424	138	230	218	415	5,578
	キャンパスメンバーズ	83	274	108	131	200	136	97	786	84	123	112	206	2,340
	その他(※1)	5,451	0	4,330	0	603	492	0	1,092	0	0	0	0	11,968
(小計)(人)	11,850	14,062	12,877	6,738	13,626	5,751	7,020	7,943	1,843	2,394	3,097	3,220	90,421	
合計(人)	20,061	33,358	23,501	15,510	28,829	12,304	12,318	14,396	3,951	6,183	7,031	7,539	184,981	
1日平均(人)	1,823.7	1,235.5	940.0	574.4	1,067.7	492.2	456.2	553.7	164.6	257.6	293.0	290.0	631.3	

(2) 企画展示観覧者数

展示名	開館記念企画展 第1弾 MieMu 発進!	開館記念企画展 第2弾 『日本の心』	開館記念企画展 第3弾 でかいぞ ミエゾウ!	開館記念企画展 第4弾 祈りと癒しの地 熊野	開館記念企画展 第5弾 ふたりの ウェディング事情	開館記念企画展 第6弾 親鸞(※2)	合計	
開催期間	H26.4.19~ H26.5.18	H26.5.24~ H26.6.22	H26.7.29~ H26.9.28	H26.10.11~ H26.11.24	H27.1.10~ H27.3.8	H27.3.21~ H27.3.31 (~H27.5.10)		
開館日数(日)	27	26	54	39	50	9	205	
有料観覧者	基本展示単独券利用	2,049	496	1,033	659	600	391	5,228
	セット券利用	15,401	4,368	13,959	3,897	2,143	640	40,408
	年間パスポート利用	3,360	3,070	5,068	2,647	2,768	1,007	17,920
	(小計)(人)	20,810	7,934	20,060	7,203	5,511	2,038	63,556
無料観覧者	高校生以下	11,298	2,723	13,624	2,049	2,286	863	32,843
	学校利用	2,688	953	1,922	5,267	1,624	0	12,454
	視察/招待	544	466	676	1,676	909	167	4,438
	障がい者及び付添	1,119	868	1,263	541	489	238	4,518
	キャンパスメンバーズ	301	142	354	884	332	58	2,071
	その他(※1)	1,831	0	0	0	0	0	1,831
(小計)(人)	17,781	5,152	17,839	10,417	5,640	1,326	58,155	
合計(人)	38,591	13,086	37,899	17,620	11,151	3,364	121,711	
1日平均(人)	1,429.3	503.3	701.8	451.8	223.0	373.8	593.7	

(3) 交流展示・トピック展示観覧者数

展示名	MieMu 誕生物語	我が館は ここから 始まった	四日市でカツオ と野鳥をはぐくむ 工場	三重のまちかど 博物館	くらしの道具	荘厳と静寂の 回廊（※2）	合計
開催期間	H26.4.19～ H26.6.22	H26.6.28～ H26.7.13	H26.10.4～ H26.11.24	H26.12.2～ H26.12.23	H27.1.4～ H27.2.22	H27.3.28～ H27.3.31 (～H27.5.10)	
開催日数（日）	57	14	45	19	43	3	181
観覧者数（無料）(人)	8,275	8,906	13,404	5,642	3,900	1,140	41,267
1日平均（人）	145.2	636.1	297.9	296.9	90.7	380.0	228.0

（※1）県民の日記念イベントの日、コーポレーション・デー、関西文化の日など

（※2）平成27年3月31日までの数値

● こども体験展示室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	11	27	25	27	27	25	27	26	24	24	24	26	293
利用者数(人)	6,728	20,655	14,170	12,731	21,590	9,651	9,796	9,319	4,439	5,461	5,860	7,273	127,673
1日平均(人)	611.6	765.0	566.8	471.5	799.6	386.0	362.8	358.4	185.0	227.5	244.2	279.7	435.7

● 資料閲覧室利用者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数(日)	11	27	25	27	27	25	27	26	24	24	24	26	293
入室者数(人)	634	675	505	391	482	238	385	331	145	174	135	164	4,259
1日平均(人)	57.6	25.0	20.2	14.5	17.9	9.5	14.3	12.7	6.0	7.3	5.6	6.3	14.5
閲覧者数(人)	6	176	244	207	278	95	197	134	72	66	62	74	1,611
1日平均(人)	0.5	6.5	9.8	7.7	10.3	3.8	7.3	5.2	3.0	2.8	2.6	2.8	5.5

達成度	戦略を評価するための指標 アウトカム (成果)	評価結果		職師	戦略を評価するための指標 アウトカム (成果)		評価結果	
		各戦略の内部評価概要	外部評価		アウトプット (産出量)	短期的 (定数)	短期的 (定性)	内部評価
3	「ともに考え、活動し、成長する博物館」にすべく、博物館の活動と経営への思い・利用者への思いを促進します	<p>・多様な参画の機会をつくり、多くの参画者や団体を獲得できたが、参画者が少ない事業もあり、事業の内容や時期、参画者の集め方に課題があった。</p> <p>参画者数 (202名、20社)</p>	<p>・活動への参画促進のために、セミナー、ハートナー制度を支援します</p> <p>3 ↓ 4</p>	<p>参画者数 (230名) 旧博物館の前身団体から(80名差)</p>	<p>参観者への支援に対する満足度 (7) (30%)</p>	<p>・平成28年度は自立に向けたステップを確実に進んでいた。 ・博物館の関連団体として参画し、格好はついてきたが、独り立ちには今後1年はかかる。平成27年度は担当からの手厚い支援が必要である。 ・参観者数の減少と低い満足度は、前身団体から新たに参観者負担として参観料を無料から有料にしたことが大きいことによる。 ・事業は充分実施しているため達成度4と考える。</p>	<p>・平成28年度は自立に向けたステップを確実に進んでいた。 ・博物館の関連団体として参画し、格好はついてきたが、独り立ちには今後1年はかかる。平成27年度は担当からの手厚い支援が必要である。 ・参観者数の減少と低い満足度は、前身団体から新たに参観者負担として参観料を無料から有料にしたことが大きいことによる。 ・事業は充分実施しているため達成度4と考える。</p>	
3	博物館活動の基盤となる資料の充実を促すように、将来活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保存方法の改善内容	<p>・当館の収蔵庫及び展示室の収蔵資料の適切な保存・管理を行うことができた。また、新たな文化財等の保存・保存方法に関する多額の相談案件に協力することができた。しかしながら、業務が特定職員に偏っているのが課題である。</p>	<p>活動への参画促進のために、みんなで作る博物館会議を実施します</p> <p>4</p>	<p>参観者数 (230名) 旧博物館の前身団体から(80名差)</p>	<p>参観者への支援に対する満足度 (7) (30%)</p>	<p>・多くの企業と多様で良好な関係を築いており、達成度4と考える。 ・重賞館として極めて先期的・画期的な仕組みを構築している。ただし、継続してほしい。他館では一財財源化された関係は多く、多くの企業と多様な良好な関係を築くことができてきた。</p>	<p>・多くの企業と多様で良好な関係を築いており、達成度4と考える。 ・重賞館として極めて先期的・画期的な仕組みを構築している。ただし、継続してほしい。他館では一財財源化された関係は多く、多くの企業と多様な良好な関係を築くことができてきた。</p>	
4	博物館活動の基盤となる資料の充実を促すように、将来活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保存方法の改善内容	<p>・当館の収蔵庫及び展示室の収蔵資料の適切な保存・管理を行うことができた。また、新たな文化財等の保存・保存方法に関する多額の相談案件に協力することができた。しかしながら、業務が特定職員に偏っているのが課題である。</p>	<p>参観者への参画促進のために、みんなで作る博物館会議を実施します</p> <p>2</p>	<p>参観者数 (230名) 旧博物館の前身団体から(80名差)</p>	<p>参観者への支援に対する満足度 (7) (30%)</p>	<p>・参加者が定員に達せず、満足度も低かったことから達成度2と考える。 ・館の運営に職員が参画するための会議自体は重要で、画期的な取り組みであり、試み自体は良い。 ・開庫前と開庫後で参観の仕方や位置づけが異なるので、会議のテーマや内容が異なる。また、参観者も異なり、人気が異なるように工夫してほしい。また、展示や子ども向け事業などの関連性を付けて実施してほしい。 ・参加者がポストからポストになるようにしていきたい。</p>	<p>・参加者が定員に達せず、満足度も低かったことから達成度2と考える。 ・館の運営に職員が参画するための会議自体は重要で、画期的な取り組みであり、試み自体は良い。 ・開庫前と開庫後で参観の仕方や位置づけが異なるので、会議のテーマや内容が異なる。また、参観者も異なり、人気が異なるように工夫してほしい。また、展示や子ども向け事業などの関連性を付けて実施してほしい。 ・参加者がポストからポストになるようにしていきたい。</p>	
3	博物館活動の基盤となる資料の充実を促すように、将来活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保存方法の改善内容	<p>・当館の収蔵庫及び展示室の収蔵資料の適切な保存・管理を行うことができた。また、新たな文化財等の保存・保存方法に関する多額の相談案件に協力することができた。しかしながら、業務が特定職員に偏っているのが課題である。</p>	<p>収蔵資料を保全するために、収蔵庫と展示室の定期清掃を行います</p> <p>3</p>	<p>PMの外部評価 (東京文化財研究所に依頼)を実施できない</p>	<p>PMの外部評価 (東京文化財研究所に依頼)を実施できない</p>	<p>・収蔵庫と展示室は、虫害もなく清潔で等々保存環境も適切に管理することができたが、収蔵庫については保存担当者に業務が偏っており、収蔵庫を管理する職員全体のPM意識の醸成や定期的な清掃と日常の巡回観察のスケジュールを確立する必要がある。</p>	<p>・収蔵庫と展示室は、虫害もなく清潔で等々保存環境も適切に管理することができたが、収蔵庫については保存担当者に業務が偏っており、収蔵庫を管理する職員全体のPM意識の醸成や定期的な清掃と日常の巡回観察のスケジュールを確立する必要がある。</p>	
4	博物館活動の基盤となる資料の充実を促すように、将来活用できるように、収蔵資料及び地域の文化財等の保存・保存方法の改善内容	<p>・当館の収蔵庫及び展示室の収蔵資料の適切な保存・管理を行うことができた。また、新たな文化財等の保存・保存方法に関する多額の相談案件に協力することができた。しかしながら、業務が特定職員に偏っているのが課題である。</p>	<p>レファレンス窓口開設日数 (203日、開館日数差)</p>	<p>相談件数 (57件)</p>	<p>相談結果の満足度 (7) (実施せず)</p>	<p>・地域の文化財等の保存・保全に協力することができたが、依頼が特定の専門案件に偏っており、当該職員の業務の適正化を検討する必要がある。</p>	<p>・地域の文化財等の保存・保全に協力することができたが、依頼が特定の専門案件に偏っており、当該職員の業務の適正化を検討する必要がある。</p>	

達成度	戦略を評価するための指標		評価結果		達成度	職務を評価するための指標		評価結果		
	アウトカム（成果）	各戦略の内部評価概要	外部評価	職務		アウトプット（産出量）	アウトカム（成果）	短期的（定量）	短期的（定性）	内部評価
1	研究結果の認知度（7） 実施せず	各戦略の内部評価概要 ・ 開発的に準備作業と調査研究を実施したが、戦略5と戦略14～16を実施することができなかった。理由として、開館初年度ということもあり、来館者の対応や企画展の準備に全体的な経営資源の配分が極めて多く、戦略5と戦略6の配分が不足したことに伴う。また、共同研究問題とともに田舎な環境の中で、開館初年度ということもあり、人員と時間が戦略5に回せず、資源が不足していたと推測されるが、全く手が付けられなかったわけではなく、計画を立て将来的にはあるが研究活動を行っていた。しかしながら、戦略5配分されていく社会通年ができなかったことから、達成度1と考える。	14 地域が研究に参画するため、小中学校に調査カードを配布し、一緒に調べます	調査カード配布数 1 (0回)	調査カード回収数 (7)	調査カード配布数 1 (0回)	調査カード回収数 (7)	調査成果の満足度 (7)	調査カードの配布は、担当の手が回らなかったため、実施しなかった。	・ 計画を立て、協力相手等に協力依頼しているものの、実際には実施していないだけで達成度1と考える。
5	地域にある資料の学術的価値づけとその意義を伝えるために、地域づくりにも貢献できるように（開館初年度は特定）の地域、総合的な研究対象を絞って集中的に取り組む計画	各戦略の内部評価概要 ・ 共同研究問題とともに田舎な環境の中で、開館初年度ということもあり、人員と時間が戦略5に回せず、資源が不足していたと推測されるが、全く手が付けられなかったわけではなく、計画を立て将来的にはあるが研究活動を行っていた。しかしながら、戦略5配分されていく社会通年ができなかったことから、達成度1と考える。	15 地域の人が研究に参画するために、研究調査を兼ねた観察会などの事業を実施します	調査カード配布数 1 (0回)	参加者数 (7)	調査カード配布数 1 (0回)	参加者数	事業の満足度（7）	・ 観察会などの事業は、担当の手が回らなかったため、実施しなかった。	・ 観察会などを実施してはいたが、達成度1と考える。
6	博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるように（開館初年度は特定）の地域、総合的な研究対象を絞って集中的に取り組む計画	各戦略の内部評価概要 ・ 開館年度であったために、評価制度が未運用であり、これによる事業選択や改善については評価できなかった。戦略6については評価できなかった。	16 研究成果の意義を伝えるために、発表会や企画展、シンポジウムを開催します	調査カード配布数 1 (0回)	参加者数	調査カード配布数 1 (0回)	参加者数	事業の満足度（7）	・ 調査の成果をとりまとめてから実施しては実施なしというところで実施はなかったため、達成度1と考える。	・ 成果の公表が3年計画の最終年度に位置付けられており、初年度については実施しなかったため、達成度1と考える。
7	各事業のコスト・パフォーマンスの改善（定性） （副館長レビユー）	各戦略の内部評価概要 ・ 開館年度であったために、評価制度が未運用であり、これによる事業選択や改善については評価できなかった。戦略6については評価できなかった。	17 事業を日常的に確認し改善するために、定期的な職員会議を開催します	内館の戦略会議回数 (5回)	確認して改善した数 (37件)	内館の戦略会議回数 (5回)	確認して改善した数 (37件)	改善の効果 (学芸員がレビユー)	・ 戦略17については、戦略会議に相当する館長会議と運営ミーティングを定期的に開催し、館運営の課題について定期的に対応し、多くの改善を行うことができた。しかし、会議運営の効率化、また、会議結果の共有と業務反映をさらに進める必要がある。	・ 毎週開催される「館長会議」や月一回の「運営ミーティング」が日常的な業務やオペレーションを改善する場となり、改善を行っていたことから達成度4と考える。
8	評価制度が有効に働いているかを確認するために、館員士に定性的に評価していただきます	各戦略の内部評価概要 ・ 開館年度であったために、評価制度が未運用であり、これによる事業選択や改善については評価できなかった。戦略6については評価できなかった。	18 評価制度が有効に働いているかを確認するために、館員士に定性的に評価していただきます	外部評価を依頼 実施せず	外部評価を依頼 実施せず	外部評価を依頼 実施せず	外部評価を依頼 実施せず	評価レポート 実施せず	・ 評価制度が有効に働いているかどうかを、平成27年度の結果を見て、平成28年度に評価することとなっているため、「評価せず」とする。	・ 平成27年度の結果を見て、平成28年度に評価することとなっているため、「評価せず」とする。

【達成度】 ※4段階評価：1. 達成できていない（20点以下）、2. どちらかというと達成できていない（21～49点）、3. どちらかというと達成できた（51～79点）、4. 達成できた（80点以上）、X. 評価できず

※（7）はアンケートによるデータ収集

三重県総合博物館 年報 通巻1号 (平成26年度)

Mie Prefectural Museum Annual Report No.1

平成28年3月 発行

編集・発行 三重県総合博物館 (MieMu)

〒514-0061三重県津市一身田上津部田3060

電話 059-228-2283

FAX 059-229-8310

印刷 共立印刷株式会社

Copyright © 2015 by Mie Prefectural Museum

